

エプソングループ

## サステナビリティレポート 2012

2011年4月-2012年3月

# お客様のため、社会のために



# 経営理念

お客様を大切に、地球を友に、  
個性を尊重し、総合力を発揮して  
世界の人々に信頼され、社会とともに発展する  
開かれた会社でありたい。  
そして社員が自信を持ち、  
常に創造し挑戦していることを誇りとしたい。

## EXCEED YOUR VISION

私たちエプソン社員は、  
常に自らの常識やビジョンを超えて挑戦し、  
お客様に驚きや感動をもたらす  
成果を生み出します。



---

エプソンは、お客様・社会にとって「なくてはならない会社」を目指して企業活動を行っています。その活動の根底にあるのが経営理念であり、「EXCEED YOUR VISION」に込められた社員としての心構えです。

## 「サステナビリティレポート2012」をお読みいただく皆様へ

### 編集方針

本レポートは、エプソングループのCSR活動を「経営理念」に沿った章立てにより報告しています。編集にあたっては、「経営理念」の冒頭にある「お客様」を主要な読者に据えさせていただきました。また、CSR活動の担い手である社員のことばや姿をできるだけ多く掲載することで、その想いをステークホルダーの皆様にお伝えするとともに、社員自身も本レポートを身近に感じ、自社を再認識できるように心掛けています。

特集1では「EXCEED YOUR VISION」の実践として、さまざまな事業や商品・サービスにおけるお客様の期待を超える価値創造への取り組みを、ご使用いただいているお客様からのメッセージと一緒に紹介し、特集2では東日本大震災の被災企業として、自然災害への対応と継続可能なものづくりへの取り組みを紹介しています。

## 目次

■ エプソングループの概要	3
■ トップメッセージ	5
■ 経営ビジョン	7
■ 特集	
特集1 お客様の期待を超える価値創造への挑戦	9
特集2 災害対応と継続可能なものづくり	17
■ マネジメント	
エプソンの信頼経営	19
■ お客様を大切に	
お客様満足の追求	23
■ 地球を友に	
自然環境の尊重	29
■ 個性を尊重し、総合力を発揮して	
エプソンの人づくり	47
労働安全衛生	51
■ 世界の人々に信頼され	
組織統治	53
CSR調達	57
■ 社会とともに発展する	
社会貢献活動	59
コミュニケーション活動	63
■ 世界からの評価／読者の声	67



本レポートのお問い合わせ先

セイコーエプソン株式会社  
〒392-8502  
長野県諏訪市大和三丁目3番5号  
TEL 0266-52-3131 (代表)  
お問い合わせ先  
<http://www.epson.jp/contact/>  
CSR活動紹介  
<http://www.epson.jp/SR/>

### 対象期間

2011年4月～2012年3月

\* 一部、2012年4月以降の最新情報を含みます。

### 対象範囲

グループ会社97社(非連結子会社および関連会社を含む)。ただし、環境活動の報告対象範囲はセイコーエプソン株式会社ならびに国内子会社18社、海外子会社44社。

\* 本文中「エプソン」と表記した場合はエプソングループを、「当社」と表記した場合はセイコーエプソン株式会社を意味します。

### 報告期間中の主なエプソングループの変動

- 連結子会社の増加3社
- 連結子会社の減少6社

変動情報に関する詳細は下記Webサイトをご参照ください。



2011年度(2012年3月期)通期 決算短信  
<http://www.epson.jp/IR/settlement/index.html>

### 参考にしたガイドライン

- GRI\*「サステナビリティ・レポーティング・ガイドライン第3.1版」
- 環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」
- ISO26000:2010/JIS Z 26000:2012(社会的責任に関する手引)

\* 1 GRI (Global Reporting Initiative): 環境面だけでなく、社会・経済面も含めた報告書の世界的なガイドラインを作成している国際団体。

### 加入団体

- 一般社団法人グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク
- 一般社団法人電子情報技術産業協会
- 一般社団法人日本経済団体連合会
- 一般社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会
- 一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会
- 一般社団法人企業と生物多様性イニシアティブ
- 社団法人産業環境管理協会 など

### 発行履歴

1999年に「セイコーエプソン環境報告書」を発行して以来、2003年からは「サステナビリティレポート」と名称を変更して毎年発行しています。

### 次回発行予定

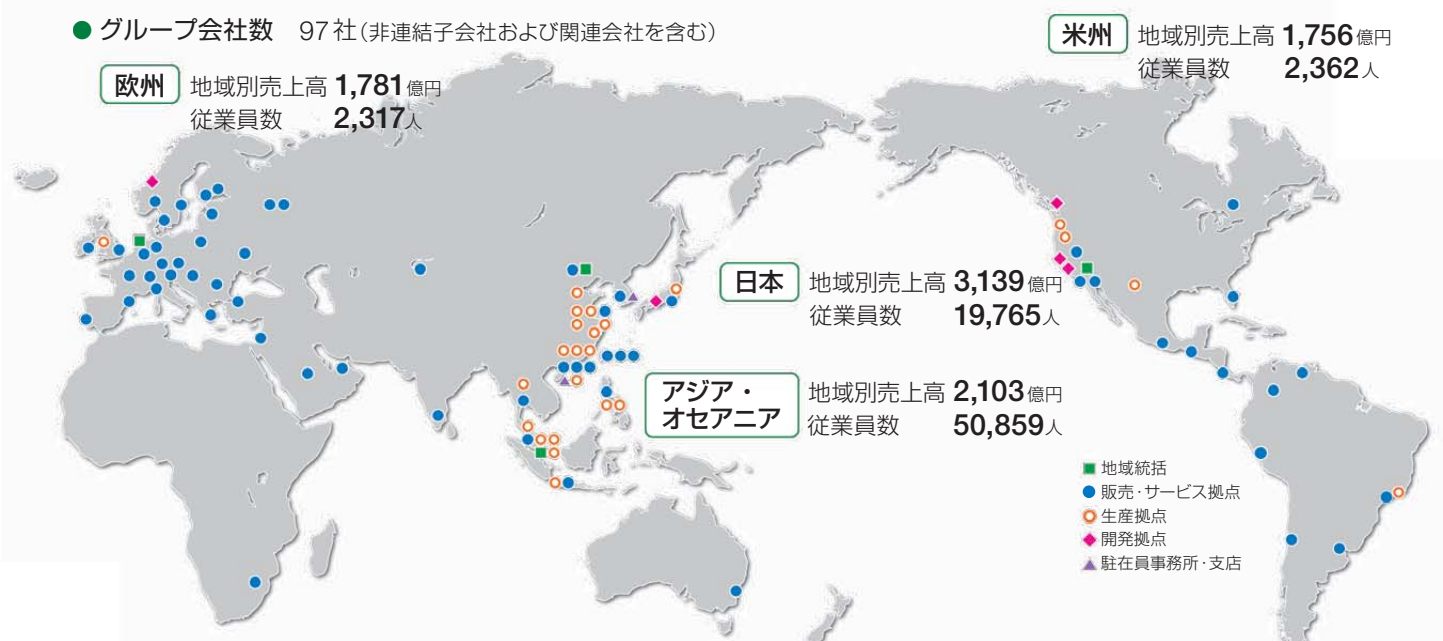
2013年7月

### 免責事項

本レポートには、エプソングループの過去と現在の事実だけでなく、将来に関する予測・予想・計画なども記載しています。これらは記述した時点で入手できた情報に基づいた仮定ないし判断であり、諸条件の変化によって、将来の事業活動の結果や事象が予想とは異なったものとなる可能性があります。読者の皆様には、以上をご了承いただけますようお願いいたします。

会社概要 (2012年3月31日現在)

- 社名 セイコーエプソン株式会社  
(Seiko Epson Corporation)
- 資本金 532億400万円
- 創業 1942年5月18日
- 従業員数 連結 75,303人  
単体 13,045人
- 本社 長野県諏訪市大和三丁目3番5号
- グループ会社数 97社 (非連結子会社および関連会社を含む)

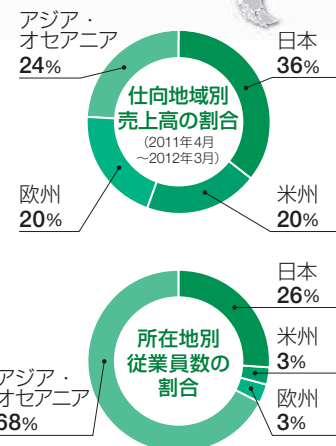


国内関係会社 (21社)

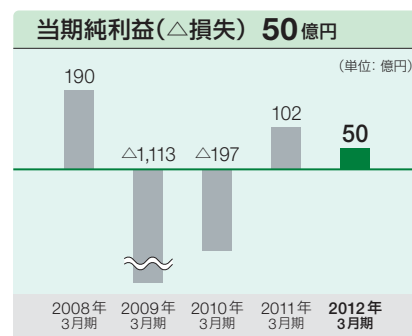
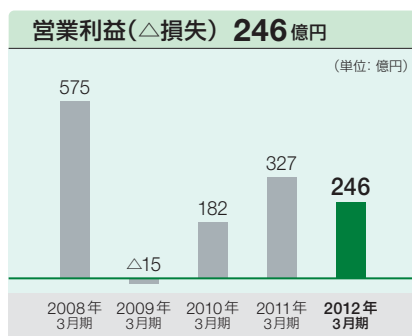
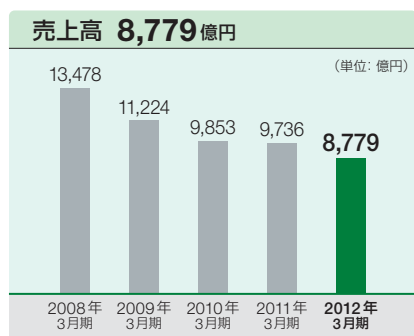
- エプソン販売株式会社
- エプソンドIRECT株式会社
- エプソントヨコム株式会社
- 東北エプソン株式会社
- 秋田エプソン株式会社
- 他 16社

海外関係会社 (75社)

- U.S.Epson, Inc. (地域統括)
- Epson Europe B.V. (地域統括)
- Epson (China) Co., Ltd. (地域統括)
- Epson Singapore Pte. Ltd. (地域販売統括)
- Epson America, Inc. (販売)
- Epson France S.A. (販売)
- Epson Precision (Hong Kong) Ltd. (製造)
- Singapore Epson Industrial Pte. Ltd. (製造)
- P.T. Indonesia Epson Industry (製造)
- Epson Precision (Philippines), Inc. (製造)
- 他 65社



連結業績ハイライト



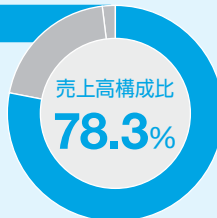
## 2011年度事業セグメント別の概況

\* セグメント区分の変更による、主な変更点は以下の通りです。

1. 「電子デバイス事業セグメント」と「精密機器事業セグメント」を、期初より「デバイス精密機器事業セグメント」に統合しています。
2. 映像機器事業(情報関連機器事業セグメント)と、液晶プロジェクター用高温ポリシリコンTFT液晶パネル(デバイス精密機器事業セグメント)を、下期よりビジュアルプロダクツ事業(情報関連機器事業セグメント)に統合しています。これにより、前連結会計年度の金額は、第3四半期連結会計期間(下期)よりのセグメント情報の測定方法で再計算して表示しています。

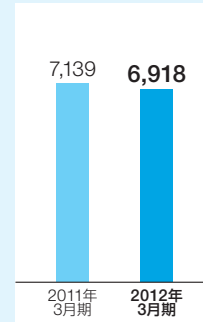
### 情報関連機器事業セグメント

売上高 **6,918** 億円 (前期比3.1%減)  
セグメント利益 **648** 億円 (前期比8.7%減)



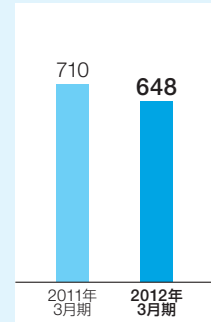
### 売上高

(単位: 億円)



### セグメント利益

(単位: 億円)



#### ● プリンター事業

インクジェットプリンター、ページプリンター、ドットマトリクスプリンター、大判インクジェットプリンターおよびそれらの消耗品、カラーイメージスキャナー、ミニプリンター、POSシステム関連商品など

#### ● ビジュアルプロダクツ事業 (下期に、映像機器事業から変更)

液晶プロジェクター、ラベルプリンターなど(下期に、液晶プロジェクター用高温ポリシリコンTFT液晶パネルを追加)

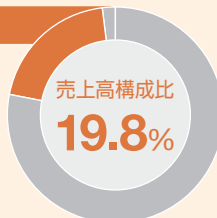
#### ● その他

PCなど



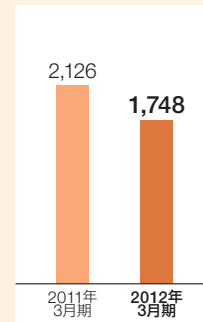
### デバイス精密機器事業セグメント

売上高 **1,748** 億円 (前期比17.8%減)  
セグメント利益 **46** 億円 (前期比58.8%減)



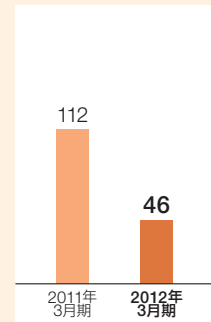
### 売上高

(単位: 億円)



### セグメント利益

(単位: 億円)



#### ● デバイス事業

水晶デバイス事業(水晶振動子、水晶発振器、水晶センサーなど)  
半導体事業(CMOS LSI など)

\* 液晶プロジェクター用高温ポリシリコンTFT液晶パネルは、下期よりビジュアルプロダクツ事業(情報関連機器事業セグメント)へ変更

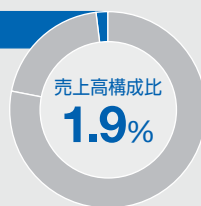
#### ● 精密機器事業

ウオッチ事業(ウオッチ、ウオッチムーブメントなど)  
光学事業(プラスチック眼鏡レンズなど)  
FA機器事業(水平多関節型ロボット、ICハンドラー、工業用インクジェット装置など)



### その他

売上高 **173** 億円 (前期比71.8%減)  
セグメント利益 **△15** 億円 (前期は35億円のセグメント損失)



#### ● グループ内サービス業など

\* 売上高構成比は、2011年4月～2012年3月の内部売上高を含めて算出しています。

## 「なくてはならない会社」であり続けるために、 「お客様の期待を超える感動」への挑戦を加速させます。



### お客様の期待を超える価値を創造できる 強みに集中します

エプソンは2012年5月、創立70周年を迎えました。これまで支えてくださった皆様に心より感謝申し上げます。この間、私たちを取り巻く環境は大きく変化しましたが、お客様を大切に、お客様の期待を超える価値を創造することで、エプソンが世界の皆様から信頼され社会とともに発展できるよう、一貫した姿勢で事業を行ってきました。

今後もこれまで以上にたゆまぬ努力を続けてまいる所存です。

2011年、日本は東日本大震災という未曾有の大災害に見舞われ、多くの方々が被災されました。さらに原子力発電所の事故とその後の各地での運転停止、タイの洪水などにより、電力・環境の問題やグローバルサプライチェーンの重要性がクローズアップされ、改めて企業の社会的責任の重さを実感するとともに、社会が求める方向に私たちの目指す方向が合致していることを確信しました。

それは、私たちが創立以来培ってきた「省・小・精」の技術<sup>※1</sup>を究め、極めることにより、小さく高性能で省電力・低環境負荷という、これからの社会が求める方向性や価値観、ライフスタイルに合致する新たなお客様価値を創造できるということです。例えば、2011年に発売した小型インクジェットプリンターは、従来のモデルから35%小型化され、設置場所の自由度が上がり、お客様の使い勝手が向上しました。またこの小型・軽量化は、輸送などにおける環境負荷の低減にもつながっています。

2011年度は、インクジェットプリンターでは、エプソン独自のマイクロピエゾ技術<sup>※2</sup>の特性を活かし、本格的なビジネス向けモデルや小型モデル、商業・産業領域に向けた商品を発売しました。プロジェクターでは、3Dや短焦点モデル、あるいはインタラクティブ機能を搭載した商品でラインアップを拡充し、ヘッドマウントディスプレイという新ジャンルの商品も市場投入しました。さらに、センシング・省電力・ウェアラブル<sup>※3</sup>の技術を結集して、健康・スポーツ・医療分野に向けた商品・サービスの提供も始めています。こうした事業を通じて、私たちは社会の期待に対して一歩踏み出すことができたと考えています。

※1 「省・小・精」の技術：消費電力、時間、お客様の手間などを省き、大きさ、重さ、環境負荷などを小さくし、正確さ、緻密さ、精細さなど高い精度を実現するエプソンが強みとする技術

※2 マイクロピエゾ技術：電気を通すと変形する「ピエゾ素子」を利用して、機械的加圧力でインクを吐出させるエプソン独自のインクジェット技術

※3 ウェアラブル：服のように身につけ、時計のように着用して使用できること

## 進むべき方向からぶれることなく 実行を加速します

エプソンは、長期ビジョン「SE15」の実現に向けて策定した「SE15 前期・後期 中期経営計画」に沿って事業を展開しています。2009年度からの3年間を前期と位置付け、利益体質への転換を果たし、新たな成長へ向かうためのステージとしました。景気の低迷、円高、自然災害など、急激な環境変化へのスピーディーな対応に課題は残りましたが、事業領域・商品ラインアップの拡充、総原価の低減による利益率の向上など、着実な成果をあげることができました。

2012年度からの後期3年間では、「SE15」の実現に向け目指す方向からぶれることなく計画の実行を加速させます。プリンティング領域では、マイクロピエゾ技術によってコンシューマー市場やオフィス市場だけでなく、商業・産業を含むあらゆる領域のプリンティングに革新をもたらします。プロジェクション領域では、独創のマイクロディスプレイと光学技術をさらに進化させ、映像とコミュニケーションの新しい世界を創造します。デバイス精密領域では、独自の強みであるQMEMS<sup>※4</sup>や省電力半導体技術、精密メカトロニクス技術に立脚した強い商品を創出することで、事業体質を強化し、顧客基盤を拡大します。

具体的には、レーザープリンターが主流のオフィスでの印刷環境をインクジェットプリンターに置き換え、商業・産業領域の印刷装置をアナログ印刷からデジタル印刷に転換する取り組みを加速します。また、見たいものがいつでも見られる、自分の身体の状態がいつでもわかる、こうした楽しさや安心を、「省・小・精」の技術を極めたウェアラブルな機器によって、もっと身近なものにしていきます。

※4 QMEMS (キューメムス) : Quartz+MEMS、水晶素材に半導体の微細加工技術「MEMS」を施した水晶デバイス

## 世界の皆様にとって なくてはならない会社を目指します

エプソンは、世界の皆様から信頼される会社であり続けること、すなわち「信頼経営」を経営理念に謳い、グローバルに事業を展開しています。2011年は日本において、

経営体質が問われ信頼を失墜させる重大な企業不祥事が相次ぎました。当社はこれらを他山の石とし、これから内部統制の維持・向上に注力していく所存です。それは私たちの「創って、作って、お届けする」事業活動を、組織的、効率的、健全かつ継続的に行うための前提であり、エプソングループ全体のガバナンス体制を確立し、共通の価値観や企業風土を醸成することに他なりません。

「お客様の期待や想いを超える」。「お客様に驚きや感動をもたらす」。このような想いと決意を込めたエプソンのタグライン「EXCEED YOUR VISION」は、私たちが目指す姿、果たすべき役割であり、ステークホルダーの皆様への約束です。こうした価値観や目標を全社員が共有することで、「一人ひとりが自ら進むべき方向を見だし、難局を乗り越えていく。その集まりが大きな束のようになって一つの方向に向かっていく」、私はエプソンをこのような組織にしたいと考え、全国の事業所や営業拠点を回り、経営理念をテーマに管理職と対話会を行っています。また2011年には、経営理念を正しく読み解くための冊子をもとに、各職場で経営理念と自身の仕事とのつながりについて考え、話し合う活動を行いました。今後はこうした取り組みをグローバルに展開してまいります。

世界の皆様からの信頼を得るためには、普遍的な考えや原則に基づいた具体的な行動が必要不可欠です。当社は国連グローバル・コンパクトの10原則に賛同し、2004年より活動に参加しています。2005年にはこの10原則を尊重した「企業行動原則」を定め、これを実践していくための社員の行動規範を制定し、企業活動のよりどころとして徹底してきました。これからも一人ひとりの信頼される行動を通じて、エプソンがお客様や社会のために「なくてはならない会社」となるよう、世界中で努力を続けてまいります。

2012年7月

セイコーエプソン株式会社  
代表取締役社長

碓井 稔

## 新たな成長に向けて実行を加速する 「SE15後期 中期経営計画」を策定

エプソンは、2015年のありたい姿をイメージした長期ビジョン「SE15」の実現に向け、「SE15前期 中期経営計画」に沿い事業基盤の再構築に取り組むとともに、再成長に向けお客様を拓げる活動に取り組んできました。ここでは、これまでの3年間を振り返り、「SE15後期 中期経営計画」に基づく今後3年間の経営方針・目標について説明します。

### 長期ビジョン「SE15」

#### ● 「SE15」のビジョンステートメント

エプソンは、省・小・精の技術を究め極めて、プラットフォーム化<sup>※</sup>し、強い事業の集合体となり、世界中のあらゆるお客様に感動していただける製品・サービスを創り、作り、お届けする

※ プラットフォーム化：共通の基盤となること

#### ● 「SE15」のエプソンのありたい姿のイメージ



エプソンは、世界中のお客様にとってなくてはならない存在となるため、培ってきたコア技術をベースに、商品・サービスの提供を通じて、お客様に驚きと感動をお届けし続けます。そのために、強みを活かせる分野に集中し、事業基盤を徹底的に強化し、「強い事業の集合体」となることを目指しています。

### 「SE15前期 中期経営計画」の成果と課題

#### ● 前期 中期経営計画各年度のゴール

##### ➤➤ 2011年度

- 「SE15」実現に向けた新たな成長軌道の確立

##### ➤➤ 2010年度

- 確実に利益が確保できる企業体質の定着

##### ➤ 2009年度

- 経常利益ブレイクイープを目指す
- 長期ビジョンの布石となる事業基盤の再構築

エプソンは、事業構造改革を進めるとともに、プリンターやプロジェクターでは製品ラインアップや事業領域の拡大を進めました。また、総原価低減によりコスト構造が大幅に改善するなど、戦略の方向性に自信をもつことができました。

一方、円高や景気低迷、自然災害などの事業環境の変化により業績は大きなマイナス影響を受けることとなりました。

### 「SE15前期 中期経営計画」の総括

#### 成果

- 経営の方向性に間違いはなく、着実な成果をあげた  
事業領域・製品ラインアップの拡充、コスト構造の改革

#### 課題





- 事業環境への対応スピードという点で課題が残った  
景気低迷、円高、自然災害影響などへの対応



## 「SE15後期 中期経営計画」(2012年度～2014年度)

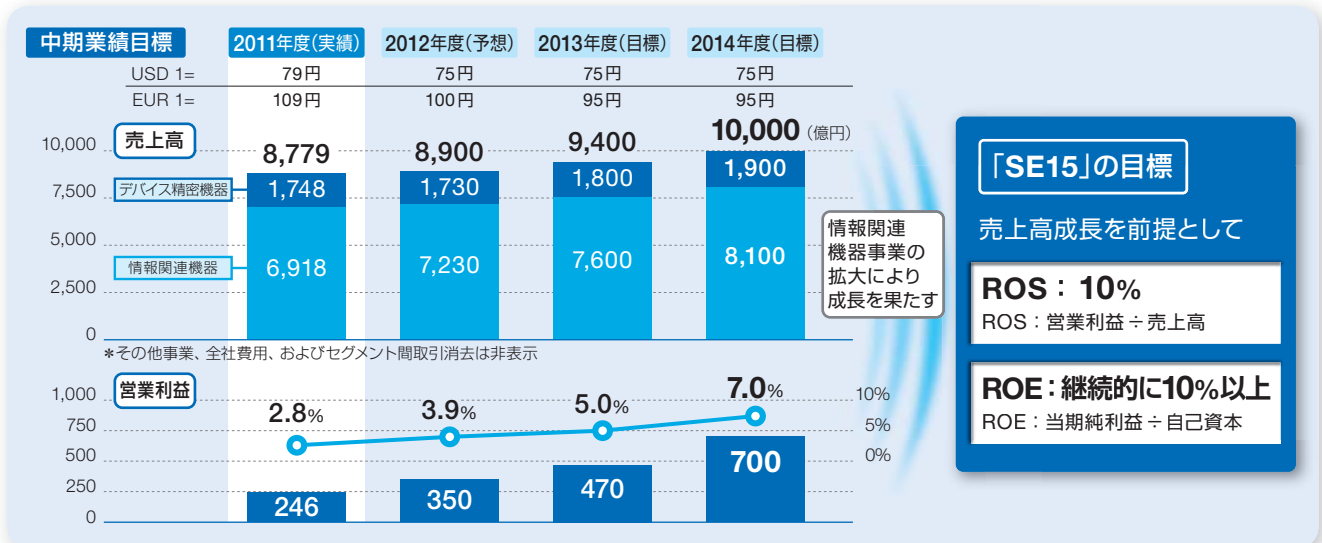
後期の中期経営計画でも進むべき方向性に変わりはありません。前期の実績を踏まえたうえで、さらにその取り組みを加速し、「SE15」で目指す強い事業の集合体の実現に向けて経営を進めていきます。

### ● 中期経営方針

-  マイクロピエゾ技術であらゆる領域のプリンティングを革新する
-  独創のマイクロディスプレイと光学技術で、映像とコミュニケーションの新しい世界を創造し続ける
-  デバイス精密領域は、独自の強みに立脚し、強い製品を創出することで、事業体質を強化しお客様を拡げる
-  新規領域は、強みに立脚し独創のコア技術を創り上げ、最適なかたちで事業化する

「SE15」実現に向けての重要な要素となるのが、マイクロピエゾ、マイクロディスプレイ(高温ポリシリコンTFT液晶など)やQMEMSなどの「省・小・精」の技術です。独創のコア技術に磨きをかけ、これらの強みをあらゆる領域に展開することで成長を目指します。

### ● 中期業績目標



## エプソンのタグライン “EXCEED YOUR VISION”

エプソンは、「省・小・精」の技術を核に、お客様の期待を超える商品やサービスの提供を通じて、お客様に驚きや感動をお届けしたいと考え、2005年にグローバルに一貫したコミュニケーション活動の実現を目指し、タグライン “EXCEED YOUR VISION” を制定しました。そして、2011年に「SE15」後期へ向けて、このタグラインを再評価し、エプソンが採るべき行動としてあらためて位置付けました。

次ページからの特集では、経営理念とこのタグラインに込められた思いを実践した商品やサービスにスポットを当て紹介します。

# インクジェットがビジネスプリンターを変える

## ビジネスインクジェットプリンター

### WorkForce Pro 「WP-4500/4000」シリーズ (国内向け機種名は、PX-B750F/PX-B700)

これまでビジネスの現場ではレーザープリンターが主流でしたが、エプソンは独自のマイクロピエゾテクノロジーで、コスト削減や省エネといった、お客様が直面している課題を解決します。低ランニングコスト、高い省エネ性能、ファーストプリント\*1の速さに加え、レーザープリンターの機能・性能をしのぐ独創のインクジェット技術を確立し、オフィスの印刷環境を変えていきます。



## ビジネスシーンのさまざまなニーズに応える

オフィスでは、大量印刷に適したレーザープリンターが主に使われています。しかし、当社が実施した社内調査から、会議や打ち合わせの資料を数枚だけ印刷する機会が全体の約90%を占めるという意外な結果が得られ、実際には1~2枚の文書を素早くプリントアウトしたいというニーズが多いことがわかりました。エプソンが提案するオフィス向けインクジェットプリンターは、ウォームアップ時間が短くファーストプリントが速いという特徴があり、まさにこのニーズにお応えするものです。

エプソン独自のインクジェット技術では、機械的にインクを飛ばして印刷するという極めてシンプルな方法と構造によって、ビジネスの現場で要求される高耐久性とレーザープリンターに迫る高速、高品質の普通紙への印刷を

\*1 スタンバイ状態から最初の1枚が印刷されるまでの時間

実現しています。また、圧倒的な低ランニングコストと省エネ性能によって、お客様のビジネスに大きく貢献します。

例えば、大容量のインクカートリッジが搭載されたビジネスインクジェットプリンターの消耗品は、同じA4サイズのカラーレーザープリンターのトナーや感光体ユニットなどの消耗品と



コンシューマー系インクカートリッジ(左)とのサイズ比較

比べて点数が少なく安価で、交換の方法も簡単で手間がかかりません。また、サイズが小さく保管スペースも取りません。

欧州域内で販売された主な同じA4サイズのカラーレーザープリンターとの比較では、1枚当たりの印刷コストは約50%の削減<sup>※2</sup>となり、消費電力は約80%低減<sup>※3</sup>されます(当社調べ)。インクジェットプリンターには、レーザープリンターのように高熱を必要とする定着工程が無いいため消費電力が少なくなります。まさに、省エネを求めているお客様のニーズに合致するものです。

**Web** 参考:日本向けPX-B750F(評価方法が異なるため海外向けをベースに記載した本文と表記が異なる部分があります)  
<http://www.epson.jp/products/biz/cost/>

※2 2010年の第4四半期にフランス、ドイツ、イタリア、スペイン、およびイギリスで販売されたA4カラーレーザープリンターと複合機それぞれの販売数量の上位10機種(IDC調べ)の2010/12月現在のメーカー公表のトナーカートリッジの価格と最大印刷枚数から計算した1枚当たりのコストの平均値との比較

※3 2011年の第1四半期にフランス、ドイツ、イタリア、スペイン、およびイギリスで販売されたA4カラーレーザープリンターと複合機それぞれの販売数量の上位10機種(IDC調べ)の2011年7月現在Print/Average Mode印刷/コピー時のメーカー公表の消費電力の平均値との比較

IDC: ICT(情報通信技術)市場を専門とする国際的な調査会社

**Web** 参考:現地法人(イギリス)での商品紹介  
<http://www.epson.co.uk/workforcepro>

## ビジネスのお客様へ、すべてにおいて安心を

プロダクトリーダーのプリンター企画設計部 熊谷利広は、「企画段階において、ビジネスシーンでお客様が期待する価値、さらにはその期待を超える価値とは何かをまず明確にしました。その1つ目は、画質の向上です。ビジネスだから画質は多少見劣りしても仕方ないと妥協せず、レーザープリンターをしのぐ高品位普通紙印刷へのこだわりを新開発600dpiの高精細ヘッドの採用と顔料インクの組み合わせで実現しました。2つ目は、インクジェットの強みを活かした用紙対応能力の向上です。L版~角2封筒などレーザープリンターでは対応できなかった用紙(材

質/サイズ/厚み)にも対応し、ビジネスの幅を広げる提案ができたと思います。3つ目は、ビジネスに耐えうる高いレベルの信頼性確保です。そのための重要機構部品一つひとつの信頼性向上には特に力を入れました。見た目の堅牢感や使い勝手の向上などを含めて細部にまでこだわり、すべての要素においてお客様へ”安心”をお届けすることができました。」と胸を張りました。



プリンター企画設計部  
熊谷 利広

### お客様からのメッセージ

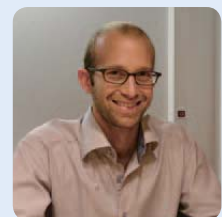
ページカウントやセキュアプリント<sup>※4</sup>など、企業ソリューションを満足させる商品展開を期待しています

WorkForce ProをPepiniere27に導入した理由は、この商品が本格的ビジネスプリンターとしての機能を備えておりSOHO/SMB<sup>※5</sup>に最適なプリンターであると感じたからです。Pepiniere27には10人以下の小規模な会社がテナントとして多く入っており、エプソンのプリンターはそうしたテナント顧客のニーズに合うと考えました。また、低消費電力や印刷1枚当たりのコストの安さは大きな魅力で、インク容量の大きさや大容量給紙などには大変満足しています。

Pepiniere27では、エプソンとの継続的な関係構築を望んでおり、テナントからはさらなる高速印刷を望む声もあります。この点は今後の新製品に期待します。

※4 例えば、他人に見られたくない印刷物をIDカードなどにより認証して印刷する技術

※5 Small and Medium Business: 中小企業



フランスパリ市  
企業向け共有スペース  
運営会社 Pepiniere 27  
代表取締役社長  
Rene Silvestre氏(左)

財務部ディレクター  
Adrien Grémont 氏

# 教育の現場を変える

## インタラクティブ機能<sup>※1</sup>付き超短焦点プロジェクター 「EB-485WT/EB-480T」

### 授業の効率化と 学習効果の向上を同時に実現

エプソンは、独創のマイクロディスプレイと光学技術をさらに進化させ、プロジェクション領域に映像とコミュニケーションの新たなジャンルを構築しています。ここで紹介するインタラクティブ機能を搭載したプロジェクターは、時代にマッチした、より教えやすくより理解しやすい教育の現場へと進化させる、画期的なツールです。



最新モデルのEB-485WT  
(2012年2月発売)

静岡市立高等学校の導入事例

## 効率の良い授業にしたい、生徒との対話を増やしたい、を実現

2011年4月に公表された「教育の情報化ビジョン」において、日本の文部科学省は、すべての教室にプロジェクターや電子黒板などを設置することの重要性を示しました。以降、業界における熾烈な競争が展開される中、エプソンの超短焦点プロジェクターは、使いやすさを追求したインタラクティブ機能という付加価値を搭載して多くのお客様から好評を得てきました。海外においても、欧米を中心に高い評価をいただいています。

今回紹介するのは、2011年4月に当時の最新モデルであるEB-455WTを20台導入した静岡市立高等学校で、効率的な授業の実践と生徒の学習意欲や理解度の向上を同時に実現できている事例です。

教材をデータベース化し教師間で共有することで事

前準備と板書にかかっていた時間を短縮し、その分を個別の指導に当てることで、生徒との対話を増やしながら理解度の向上を図っています。プロジェクター接続アプリ「Epson iProjection」を活用すれば、iPadやiPhone内のデジタル教材を無線LANで接続したプロジェクターに転送・投写でき、授業がよりスピーディーに進められ、生徒も適度な緊張感を感じながら興味を持って授業に臨めます。



iPadを活用した国語の授業

※1 電子黒板機能。投写画面上に付属のペンで書き込みやマウスと同様の操作などができる機能

\* iPadはApple Inc.の商標です。  
iPhoneは米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。

## 設計者、技術者の思いをカタチにしてお届けする

最新モデルのEB-485WT/EB-480Tは、さらなる短焦点化の実現により、最短18.7cm/22.2cmの距離で80型のスクリーンサイズに投写が可能になりました。明るさは3,100lm/3,000lmで教室や会議室を暗くしなくても文字がはっきり見えます。スピーカー出力は16Wで（前機種は12W）教室の隅々まで聞こえる音量です。

インタラクティブ機能もさらに進化し、「PCレス電子黒板機能」の搭載によりPCに接続しなくても付属の電子ペン1本での書き込みなどの操作ができます。PC接続時には2本の電子ペンによる二人同時の書き込みやマウス操作が可能になりました。オートキャリブレーション機能やドライバーのインストールレスは、常設のPC以外でもスピーディーなセットアップが可能です。「マウスホバリング機能」は、デジタル教材のリンク先を簡単に探せるようになりました。このように、お客様である先生と生徒の皆さんにより多くの価値を感じていただけるよう、使いやすさで授業をサポートします。また、平面積比で約20%の小型化の実現により、原材料や輸送にかかるCO<sub>2</sub>削減で地球環境にも貢献しています。

 EB-485WT  
<http://www.epson.jp/products/offirio/emp/eb485wt/feature.htm>

電子ペンはインタラクティブ機能の重要な構成要素であり、故障で使えなければ授業に支障を来すため、信頼性の向上が鍵でした。生産技術担当の田中仁理（まさとし）は、「ペンの信頼性向上に向け、前機種の解析結果を設計部門と共有し、実際の使用状態に近い環境での評価を繰り返しながら設計段階で品質を作り込みました。その結果、スイッチの材質と表面処理の見直しによりスイッチの耐久性能を格段に高めました。このような成果は、インタラクティブチーム一人ひとりのお客様価値創造に対する熱意、一声掛ければすぐに集まる俊敏さ、そして組織の壁を突き抜けるようなまとまりの良さから生まれたものです。」さらに、「あらためて、製品を開発段階から作り込むことの重要性を認識しました。開発に携わった者の一人として、いろいろな技術開発や協力の結果であるこのペンが、活気ある授業に一役買っていることをうれしく思います。」と語りました。



電子ペン



VI生産技術部 田中仁理

### お客様からのメッセージ

最大のメリットは、板書の手間が減ったことで、生徒との対話が増えたことです

私どもが教師をしております高校では、2011年4月から授業時間の短縮により、より効率的な授業進行が求められました。また、「科学探求科」の創設により、生徒のプレゼン能力の向上を目指した実習環境の整備が必要となり、これらが導入の理由でした。機種選定のポイントは、他メーカーのボード一体型の商品と比べて高機能でありながら導入コストが低い点でした。

授業では投写画面上に付属のペンで書き込みをしたり、黒板に直接投写してそこに直接チョークで書き込みをするなど、用途に応じた使用形態が選べます。特に超短焦点のプロジェクターは、投写画面の前で教師が移動しても画面を遮ることがないので、生徒の集中力を損なうことがありません。



静岡市立高等学校  
大場先生(左)と寶石(じついし)先生



# コア技術を核としたお客様価値創造の広がり

長期ビジョン「SE15」では、エプソンの強みに立脚した独創の技術をコアとして、お客様の期待を超える価値を常に創造し、はるかに多くのお客様に商品やサービスをお届けしている姿をゴールとしています。「SE15 前期 中期経営計画」の最終年度である2011年度に市場投入された商品やサービスは、果たしてお客様の期待を超えた価値をお届けできたのでしょうか。

当社の商品/サービスをご購入、ご購入いただいたお客様からのメッセージを紹介します。

## シースルーモバイルビューアー 「MOVERIO BT-100」

「モベリオBT-100」は、いつでもどこでも大画面で映像、音楽、Webコンテンツを楽しむことができます。プロジェクターのリーディングカンパニーであるエプソンならではの光学技術、高精細ディスプレイにより、遠くを見れば見るほど大きな画面が現れます。約6時間のバッテリー駆動が可能で、場所を選ばずにスタンドアローン※1で臨場感あるクリアで迫力あるサラウンド※2とともに映像を楽しむことができます。



Web BT-100  
<http://www.epson.jp/products/moverio/>

### お客様からのメッセージ

「BT-100」は、「見るための道具」を超える可能性を秘めたウェアラブル・ディスプレイだった

仕事柄、北海道各地を車で走り回っており、旅館やホテルの宿泊が多くなります。そのような状況で少しでも有意義な自分のための時間を過ごしたいと購入したのがBT-100です。それまでは、DVDプレーヤーを持参し、映画などを楽しんでいましたが、画面が小さく、見る姿勢も洋室なら椅子に腰掛けてと、くつろげませんでした。BT-100はベッドなどで横になって見ることができると、使い勝手は抜群でした。発売前の製品リリースを見て「使える」と感じたのはスタンドアローン型だったことですが、選択に間違いはありませんでした。初めて本物を手にした時は「なぜこんなに大きく鮮明な映像を見ることができるのか」と感心したことを今でも覚えています。今後は映像を見る手段の一つという位置付けではなく、さらなる軽量化やAR※3の導入などエプソンのさらなる努力に期待しています。



札幌市在住 早坂 伸司 氏

※1 他の機器と接続せずに単独で機能するシステム ※2 聴く者を包み込むような音声の記録再生方法の一つ ※3 ディスプレイに映し出した画像に関連する、より便利な情報を重ねて表示する技術

## 生活習慣改善支援サービス

3つのツールが融合したオリジナル特定保健指導プログラムです。①エプソンのウェアラブル機器の先駆けとなる独自のセンシング技術をもとに開発されたリスト型脈拍計、②継続して楽しくメタボ改善に取り組めるように多彩なアプリケーションを備えた専用Webサイト、③保健師・管理栄養士による直接指導・サポート。



### お客様からのメッセージ

リスト型脈拍計と専用Webサイトの組み合わせは、従来の保健指導にはなかった斬新なものでした

当健保組合の特定保健指導は2011年度で4年目ですが、メタボ対象者が思うように減少せず、毎年繰り返し指導対象になる人が多いことが課題でした。エプソンの生活習慣改善支援サービスを導入した決め手は、生活改善の意識が低い人でも、楽しみながらメタボ改善の取り組みが継続できる工夫が凝らされた指導プログラムが大変充実していたことです。運動の効率を知らせるリスト型脈拍計と専用Webサイトの組み合わせは従来の保健指導にはなかった斬新なもので、特に脈拍の計測によって運動時の過負荷防止・リスク管理ができる点は魅力的です。面談の調整や進捗報告の充実など、私ども健保組合へのきめ細やかなサービスにも満足しています。



ミサワホーム健康保険組合  
保健師 竹下 洋子 氏

## IJマーキングシステム 「IP-2000」

マイクロピエゾ技術を応用し、UV（紫外線）硬化インクを用いることで、半導体などに高速でくっきりと印刷（マーキング）できるシステムです。半導体のほかにも、レーザー光によるダメージを受けやすい電子部品などでニーズのあることがわかり、他社様でも活用いただいています。ユーザー第1号の当社光学事業部では、メガネレンズのマーキングに使用しています。



メガネレンズへの印刷例

### お客様からのメッセージ (社内ユーザー)

インディビジュアル<sup>\*1</sup>化が進むメガネレンズで、今までにない価値が創造できました

IJ印刷技術は、従来のPAD印刷<sup>\*2</sup>技術にないフレキシブル性を持っており、今後インディビジュアル化が進むメガネレンズ業界では必須となります。15mmの距離からインクを飛ばす技術や印刷の美しさは期待通りでした。また、従来不可能であった客先別にデザインされた商品名などをそれぞれ印刷することが可能となり、今までにない価値を創造できました。その一方で、現状ではインクが白色のみであることなど、メガネレンズ全製品に展開していくにはまだ改善すべき点がありますが、印刷品質は他社より優れており、今後の改善に大いに期待します。

(他社への導入事例は、客先機密上の理由から掲載を控えていただきました)



光学技術部 課長 安藤 康司

\*1 個別仕様、個別最適 \*2 シリコラバー製のパッドに版のインクを転移させ、それを製品に押しつけて印刷する方法

## 大容量インクタンクシステム搭載 フォトプリンター「L800」



弼晟科技股份有限公司  
社長 林士榮氏  
記念撮影用の民族衣装  
を着て撮影

ランニングコストを重視する傾向が強いエマー  
ジング地域を始め、一度に大量の印刷を行うこと  
が多いお客様へ提案する、大容量インクタンク  
システム搭載の6色A4 写真画質インクジェット  
プリンターです。国や地域それぞれのお客様の  
真の要求がこのカタチになりました。

ここで紹介する台湾のお客様は、L800 の導  
入がビジネス発展の大きな原動力になっていると  
語っています。

### お客様からのメッセージ

次は、さらにインクタンクを大きく、印字速度を  
速くした生産性の高い商品を期待します

弼晟科技股份有限公司 (Bi-sen Tech.)は、台湾各地の有名テーマパークで記念写真の販売を展開する会社です。これまで12台のL800を導入し、販売用の記念写真の印刷に使っています。それまで使っていた改造大容量インク機は、画質が不安定でトラブルが多く、しかも改造業者のサービス対応が悪いことが悩みでした。L800導入においては、2年間のメーカー保証などのサービスに加え、画質が高く印刷も速く、そのうえ1枚当たりの印刷コストが安価であることも決め手となりました。導入後のエプソンのサービスと商品の品質には大変満足しており、おかげでビジネスも上向きで、追加導入を検討しているところです。

## 産業用ロボット LSシリーズ



中源科技(深セン)有限  
公司  
総経理 黄道権氏

LSシリーズは「脱」手作業を簡単・手軽に実  
現できます。導入することにより、高い投資効率  
で組立・搬送・整列作業などの高効率化・省人化、  
品質の安定を可能にします。

Epson (China) Co.,Ltd. (ECC / 中国) は、  
中国商務部などが主催した「第10回中国国際  
設備製造業博覧会」において、自動化および制  
御装置部門で銀賞を受賞しました。中国国内に  
おける製造工場の自動化、省力化など生産現場  
に革新をもたらし、中国経済の発展に寄与した  
企業としての受賞です。

### お客様からのメッセージ

エプソンのロボット導入により、精度/作業性が  
大幅に向上し利益改善につながりました

従来、当社の携帯電話組立ラインのクッション貼り付け工程ではたくさんの作業者が、0.2～0.3mm以内の精度を確保するために顕微鏡による作業を行っていました。そのため、1枚当たり4秒かかり、目が疲れて来ると不良率が高くなるなど、作業も大変苦労していました。さらに、作業者の確保が厳しくなるに伴い、生産性が落ち、利益も上がりませんでした。そんな中、2年前に当社はラインの自動化を決定しました。エプソンのロボットで作業を行った結果、貼り付け精度は0.05mm以内、速度は1枚当たり1.5秒に短縮することができました。おかげさまで収益が上がり、エプソンの多大なご支援に大変感謝しています。



## 「スマートレシートプリンター + iPad・iPhone POS・オーダーエントリーシステム」



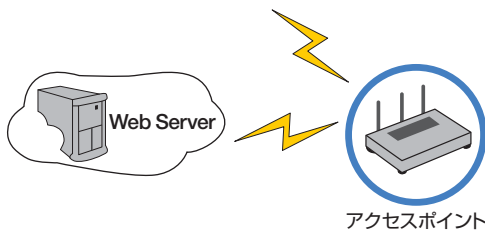
ヤフードーム内貴賓室「スーパーボックス」とオーダー端末 (iPad)



ラウンジフロアに設置されたスマートレシートプリンター「TM-T70-i」



厨房に設置されたキッチンプリンター「TM-T90KP」



近年、流通小売り・外食の店舗において、従来の専用システムから汎用のスマート端末と Web サービス環境を活用したシステムを構築するニーズが高まっています。この背景には、スマートな店舗演出による売り上げ効果と機器管理・操作教育に関わるコストダウンの狙いが存在します。そのようなニーズに対応できるエプソンのスマートレシートプリンターは、Web アプリケーションと直接データ授受が可能で印刷処理をより簡単に実現しました。

福岡 Yahoo! JAPAN ドームに導入されたシステムでは、貴賓室「スーパーボックス」に設置された iPad から飲食メニューをオーダーすると、ラウンジフロアに設置されたスマートレシートプリンターが Web アプリケーションと連携してシステムを統合的に制御し、キッチンへの調理指示やレシート印刷を行っています。

\* iPadはApple Inc.の商標です。  
iPhoneは米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。

### お客様からのメッセージ

エプソンのスマートレシートプリンターは、汎用性が高く、運用コストでメリットを感じています

既存システムでもエプソンのレシートプリンターを使用していましたので、機器の耐久性や保守メンテナンスの点では実績と信頼性がありました。今回導入した iPad・iPhone を活用した POS・オーダーエントリーシステムは、スマートレシートプリンターのサーバーダイレクト印刷機能が採用の決め手になりました。プリンターが定期的に Web サーバーの印刷データを取りに行く仕組みなので、OS への依存や端末にドライバーをインストールする必要がなく、機器の管理面でも大変助かっています。また、オーダー端末に iPad・iPhone など市販のスマート端末が使えるので汎用性が高く、運用コストなどでもメリットを感じています。



福岡ソフトバンクホークス  
マーケティング株式会社  
田淵 浩司 氏

**これからもエプソンは、技術や社会の変化に俊敏に対応し、お客様の期待を超えた商品/サービスをお届けしていきます。**

“EXCEED YOUR VISION”の意味するところを、私たち社員一人ひとりの心構えとして捉え、常に自らの常識やビジョンを超えて挑戦し、お客様に驚きや感動をもたらす成果を生み出していきます。

# 自然災害への対応と 継続可能なものづくりの取り組み

2011年3月、日本は東日本大震災で多くの尊い命を奪われ、甚大な被害に見舞われました。その被災企業でもあるエプソンは、グループ全体の総合力を発揮しながら、震災への対応と早期の生産復旧に向けさまざまな取り組みを行ってきました。



## 被災地福島、従業員と家族の安全確保と健康管理

東北地方に4つの主要生産拠点を持つエプソンは、この震災によって、従業員1名の犠牲と、各拠点での建物・設備の損壊および生産ラインの停止といった甚大な被害を受けました。なかでも福島第一原子力発電所から16kmの距離に位置するエプソンヨコム(株)福島事業所は、警戒区域が解除される見込みが全く立たないことから、2011年10月26日をもって閉鎖することを決定しました。

震災直後、原発から30km圏内に居住する93人の従業員と家族(20家族)は山形県酒田事業所に一時避難し、その後長野県諏訪市に移動して、避難生活を送られました。

た。避難された皆さんからは、福島から遠く離れた諏訪の地で、「やっと安心して眠れた」と安どの声があがりました。

避難先では、産業医と看護職による従業員と家族に対する健康チェックや面談を実施しました。また必要な人には、医療機関への受診手配など心身両面からの支援を実施しました。



バスで移動する従業員と家族

## 早期の生産復旧活動

青森県八戸市の海岸沿いにある金属粉末などの製造を行なうエプソンアトミックス(株)は、地震に加えて津波にも襲われました。震度5強の地震の2時間後に津波が押し寄せ、敷地が約1メートル海水に浸かり、半数以上の建屋が床上浸水しました。

ライフラインがすべて止まっている中で震災の2日後には秋田エプソン(株)から、続いて本社事業所から食料・発電機・ストーブ・燃料などの物資が届けられ、グループ総力をあげての支援がなされました。

震災直後から従業員総出で、津波によって敷地の隅々まで埋め尽くされたヘドロをかき出す作業を行い、同時に変電設備や

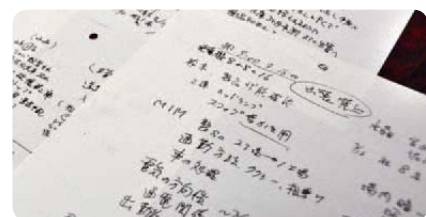


浸水した設備の復旧作業

生産設備の復旧も進めました。

さらに、社内のホワイトボードをかき集め、ヘドロ処理の状況、電力復旧予定、モーターの修理状況など全社のあらゆる情報を書き込み、極力すべての情報を従業員で共有するようにしました。そうすることで従業員の不安を軽減し、連携して作業を進めることができたのです。

3月31日の電力復旧の後、被害の大きかった金属粉末の電気炉にも火が入り、4月15日までに生産を再開することができました。ほぼ1カ月での生産再開は、同じ津波被害を受けた近隣他社の工場に比べても異例の早さでした。



情報が書き込まれたホワイトボード

## 継続可能なものづくりへの取り組み

東日本大震災においては、グローバルサプライチェーンの重要性もクローズアップされました。ものづくり企業であるエプソンにおいても、生産ライン停止という直接的な被害を受けました。しかし、その一方で調達先のサプライチェーン・マップ(データベースの構築)など日頃から準備していたものは、生産復旧への初動の際に有効に機能しました。これらを教訓として、サプライチェーンにおけ

る事業ごとの調達BCP(調達リスクの見える化管理・代替先や代替品の開拓・戦略在庫の確保など)の整備とそのレベルアップ、調達先の定期評価活動の推進といった平時管理の強化を進めています。



取引先平時管理の推進事例  
生産管理・調達部会の定例開催

### 被災地の小学生が作成した壁新聞の復元活動

東日本大震災の後、「避難所の大人たちを元気にしたい」という願いから、宮城県気仙沼市で避難所生活を送っていた子供たちが「ファイト新聞」という手書きの壁新聞の発行を始めました。この新聞は第50号まで発行され、現在も制作が続いています。2011年、東京汐留で開催された「東北復興博 for 2021」(NPO復興博主催)で写真を展示したところ大きな反響を呼びました。しかし、ファイト新聞は模造紙などに鉛筆や蛍光ペンで手書きされているため、時間の経過とともに劣化が進んでしまいます。そこで美術品のデジタルアーカイブ制作でエプソンの実績を知る関係者から要請があり、ファイト新聞を後世に残すために50号までの完全なレプリカを制作しました。このレプリカは、2011年12月に贈呈式が行なわれ、新聞の発行に携わった子供たちに手渡されました。このレプリカの一部はユネスコ本部をはじめ、フランスのパリ郊外の現地校など交流の架け橋として寄贈されました。



ファイト新聞第50号  
© 一般社団法人ファイト新聞社2012

### 社員の個人ボランティア活動報告

震災後、自分にできる支援の方法を考えていましたが、現地で作業をするボランティア活動があることを知り、岩手県大槌町や陸前高田市での流出物の除去・撤去活動に参加しました。また、東京都日野市の社会福祉協議会とNPOが支援を進めていた「気仙沼・大島支援プロジェクト」には、社内の「健やか休暇制度の運用拡大」を活用して参加しました。

活動中、現地の方から「他県のボランティアの人がこちらに来て頑張っているのを見て、自分たちも頑張らなければと思う。」と言われたことが忘れられません。微力ながら自分にできることもあるのだと、逆に現地の方から元気と勇気をいただきました。活動を通じて人と人のつながりや、さまざまなカタチのコミュニティー同士のつながりについて考えるようになりました。今後も自分ができる支援を続けていこうと考えています。



瓦礫の撤去作業(気仙沼市大島)



エプソン販売(株) 調達・販売業務部  
飯島 香

Web 健やか休暇  
[http://www.epson.jp/SR/our\\_people/fairness/index.htm#sukuyaka](http://www.epson.jp/SR/our_people/fairness/index.htm#sukuyaka)

# エプソンの信頼経営

エプソンが考えるCSRとは、経営理念(巻頭に掲載)の根底に流れる「信頼経営」を実践していくことです

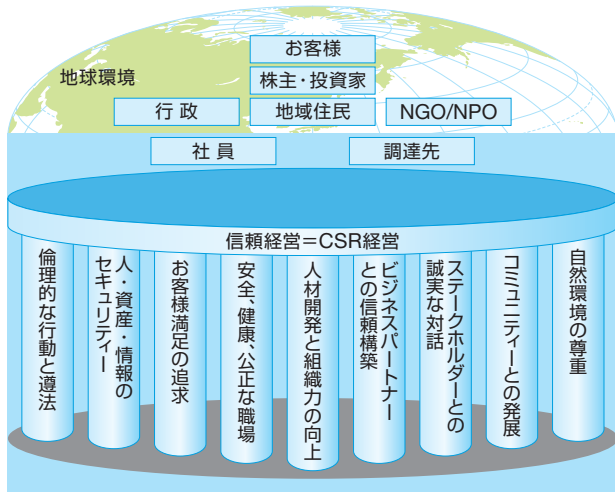
## 「信頼経営」とは

エプソンは、経営理念の実現、すなわち理念の根底に流れる「信頼経営」を実践していくことが企業経営の根幹であると考えています。法規制や企業倫理などの遵守はもちろんのこと、お客様の期待を超える価値を創出することを通じて、すべてのステークホルダーの皆様と信頼関係を培いながら社会とともに発展し、より良い社会の創造に貢献することが私たちの使命であると考えます。

## 「企業行動原則」と「エプソン社員行動規範」

「信頼経営」を実践していくための行動のよりどころを明確にして、グループ全体で共有するために、2005年に「企業行動原則」を制定しました。この原則に基づいて社員一人ひとりの取るべき行動を明確にした「エプソン社員行動規範」を2006年に定め、さらに規範意識を高めることを目的に2009年に全面改訂を行いました。

下図は、「信頼経営」を実践していくための企業活動の基盤を「企業行動原則」の9分野で示したものです。



## 企業行動原則

### ① 倫理的な行動と遵法

私たちは、法規制を守り、高い倫理観をもって、すべての行動にあたります。

### ② 人・資産・情報のセキュリティ

私たちは、人と企業資産の安全を確保し、すべての情報管理において厳重な注意を払って行動します。

### ③ お客様満足の追求

私たちは、常にお客様の視点で商品/サービスの品質を最優先に考え、仕事に取り組む心の質から会社の質に至るまで品質第一に徹し、お客様に喜ばれ信頼される商品/サービスを創りつづけます。

### ④ 安全、健康、公正な職場

私たちは、基本的人権を尊重し、差別のない、明るく、安全・健康で公正な職場をつくります。

### ⑤ 人材開発と組織力の向上

私たちは、多様な人々の価値を最大限活かし、個人と組織の間の相乗効果を高めます。

### ⑥ ビジネスパートナーとの信頼構築

私たちは、すべてのビジネスパートナーに、高い水準の倫理行動を期待すると同時に、パートナーの自主自立を尊重しつつ共存共栄を目指します。

### ⑦ ステークホルダーとの誠実な対話

私たちは、正直かつ積極的にステークホルダーに情報を伝えるだけでなく、ステークホルダーの意見に謙虚に耳を傾けます。

### ⑧ コミュニティとの発展

私たちは、活動するすべての地域社会および世界の国々に対して、積極的に貢献し、ともに発展できる関係をつくります。

### ⑨ 自然環境の尊重

私たちは、企業活動と地球環境との調和をめざし、高い目標の環境保全に積極的に取り組みます。

(一部抜粋です)

Web 企業行動原則  
[http://www.epson.jp/company/kodo\\_gensoku.htm](http://www.epson.jp/company/kodo_gensoku.htm)



「エプソン社員行動規範」、「企業行動原則」と、P.20「信頼経営推進月間」で紹介している冊子「経営理念を読み解く」

## 経営理念の実現に向けて

2011年は激動の年となりました。東日本大震災やタイの洪水に加え、歴史的な円高、中東に代表される政治変動や欧州債務危機による経済的逆風にも遭遇しました。こうした中でエプソンは、それぞれの事象に適時に対応しつつ、その経験から得た教訓や反省を忘れることなく、お客様への責任をよりよく果たすための糧としてまいります。

エプソンでは、長期ビジョン「SE15」に基づく後半の中期経営計画（2012-2014年度）策定に先立ち、経営理念に立ち返りその意味するところを再確認する活動を日本国内で始めました。この中で「商品やサービスを通してお客様に驚きや感動を



総務部 CSR・リスク管理担当 部長  
小山 正弘

お届けするために、自分たちの強みを磨き、独創の取り組みに挑戦し、やりぬく」というエプソンの社会的使命と社員の心構えを再確認し、自分の仕事がお客様価値にどうつながっているかについて職場内で討議しました。今後は海外の現地法人でも同様の活動を進めてまいります。

エプソンのCSRは、事業活動を通じて社会に貢献する「信頼経営」の実践、言い換えますと経営理念の実現そのものです。この活動を健全かつ継続的に行うために「企業行動原則」を定め実践しています。さらにISO26000の制定やOECD多国籍企業行動指針の改訂など、CSRに関する社会の動きや要請を顧慮しつつ、今後もお客様と社会から信頼され、なくてはならない会社としてあり続けるために、誠実に努力を重ねてまいります。

## 「信頼経営」の推進体制

エプソンの各事業部門の責任者は、「企業行動原則」に基づいて、管理する子会社を含め「信頼経営」を推進しています。加えて、グループを横断するテーマについては、本社の各主管部門が、各事業部門と協働して推進・支援する体制をとっています。

また、社長のもとにすべての取締役、監査役および監査室長が参加する会議体「信頼経営推進会議」を設置し、グループ全体の「信頼経営」の実践状況を把握するとともに、そのレベルが着実に向上するように努めています。

この会議では、「企業行動原則」の実践状況をはじめ、遵法経営やリスク管理、内部統制体制の整備など、「信頼経営」全般にかかわる重要テーマの状況や課題を確認し、必要な施策の展開などを審議しています。

「信頼経営推進会議」は、2011年度は四半期ごとに計4回開催されました。

## 「信頼経営」の浸透活動

エプソンは、「信頼経営」を社員に浸透させ、一人ひとりの行動に結び付けるために、「信頼経営推進月間」、「情報セキュリティ強化月間」、「環境月間」、「CS・品質月間」などの月間活動や、階層別CSR教育、独占禁止法の研修、各種eラーニングなどを実施しています。

### 「信頼経営推進月間」

毎年10月を「信頼経営推進月間」と定め、「信頼経営」について考える機会としています。2011年は各職場にて、社長メッセージと「経営理念を読み解く」という冊子をもとに、経営理念と自身の仕事とのつながりについて考え、話し合うことや、「エプソン社員行動規範」の中で再確認・再徹底したい項目の話し合いを行いました。

また月間の終了後にアンケート調査を行い、活動の実施状況や各職場で話し合った内容、意見などを把握し、社員に公開することで、一人ひとりの「信頼経営」の実践に役立てています。

## ■ 社長と管理職の対話会

社長が国内グループ会社の事業所・営業拠点を回り、毎回20人前後の管理職と車座になり本音の対話を重ねています。この対話会は2009年度にスタートし、2011年度は経営理念をテーマに、部長・課長と27回実施しました。

対話会に参加した梅谷佳弘は、「経営理念に込められた思いや管理職への期待など、社長自らの説得力ある言葉によって、改めて自分の仕事を広い視野で見直し、考える良い機会となりました。」と社長との対話を通じて得た感想を語っています。



エプソン販売(株) 総務部 課長  
梅谷 佳弘

すべての管理職が社長との対話を通して経営理念に対する理解を深め、さらに職場のメンバーと「信頼経営推進月間」などの機会に、経営理念と仕事とのつながりについて考え、話し合うことで、全社員が同じ価値観を共有し、お客様価値の創造に向け総合力を発揮していくことを目指しています。



社長対話会(本社事業所)

## 国連グローバル・コンパクト(GC)への参画

経営理念で「世界の人々に信頼され、社会とともに発展する開かれた会社でありたい」と謳うように、エプソンは常に世界中のお客様や社会から必要とされ、社会とともに成長する会社であり続けたいと考えています。そのためには、社員一人ひとりの常に国際基準にかなった自律的な行動によって、社会の要請に応じていくことが必要です。

当社は2004年7月、国連グローバル・コンパクトが掲げる「人権、労働、環境、腐敗防止」の4分野にわたる10の原則に賛同し、自発的に取り組むことを約束しました。以来、その遂行にかかわる当社の問題・課題を分析し、改善する努力を続けています。

エプソンは経営理念を実現する行動のよりどころを、GCの10原則を尊重した「企業行動原則」として定め、これに基づき社員の取るべき行動を明確にした「エプソン社員行動規範」を浸透させて、自律的な行動につなげています。

また、2011年に開催されたGCの活動組織間のコラボレーションを図る第4回「日中韓ラウンドテーブル」では、日本の「サプライチェーン分科会」を代表して研究成果を報告し、サプライチェーンを通じた社会的責任の重要性について議論しました。



エプソンの国連グローバル・コンパクトへの取り組み  
[http://www.epson.jp/SR/un\\_global\\_compact/](http://www.epson.jp/SR/un_global_compact/)

### ● 国連グローバル・コンパクト10原則とエプソンの「企業行動原則」、「エプソン社員行動規範」

#### 国連グローバル・コンパクト10原則

- 原則 1: 人権擁護の支持と尊重
- 原則 2: 人権侵害への非加担
- 原則 3: 組合結成と団体交渉権の実効化
- 原則 4: 強制労働の排除
- 原則 5: 児童労働の実効的な排除
- 原則 6: 雇用と職業の差別撤廃
- 原則 7: 環境問題の予防的アプローチ
- 原則 8: 環境に対する責任のイニシアティブ
- 原則 9: 環境にやさしい技術の開発と普及
- 原則 10: 強要・賄賂等の腐敗防止の取組み

企業  
行動  
原則

エ  
プ  
ソ  
ン  
社  
員  
行  
動  
規  
範

# 常に創造し 挑戦していることを 誇りとしたい

## 2011年度CSR活動報告

エプソンはすべてのステークホルダーと信頼関係を築き、  
社会とともに発展しながら「信頼経営」を実践していきます。

2011年度のCSR活動を経営理念に基づき、  
5つの章立てにより紹介します。

- **お客様を大切に** ..... 23 - 28  
お客様価値創造の取り組みを紹介します。
- **地球を友に** ..... 29 - 46  
環境活動を紹介します。
- **個性を尊重し、総合力を発揮して** ..... 47 - 52  
社員に対する取り組みを紹介します。
- **世界の人々に信頼され** ..... 53 - 58  
組織統治の取り組みを紹介します。
- **社会とともに発展する** ..... 59 - 66  
社会活動を紹介します。

## お客様満足の追求

私たちは、常にお客様の視点で商品／サービスの品質を最優先に考え、仕事に取り組む心の質から会社の質に至るまで品質第一に徹し、お客様に喜ばれ信頼される商品／サービスを創りつづけます

### CS品質の目指す姿

エプソンは、経営理念に掲げる「お客様を大切に」の考え方を実践し、お客様視点の行動を真にエプソンの風土とすべく「品質方針」を定めています。さらに、2009年には「SE15-CS品質中期活動指針」を制定し、日々の判断や行動のよりどころとしています。

例えば、企画設計者自らがお客様を訪問して生の声を聞き、お客様の気持ちを理解したうえで困りごとを推察し、お客様に喜んでいただける商品やサービスの提供につなげています。また、100%良品を目指す活動では、生産現場にとどまらず、開発設計段階から問題・課題の本質を究めて真因に手を打つことにより、検査に頼らない高品質のものづくりに取り組んでいます。

これからもお客様が求める価値を考え、その価値をきちんと作り込んだ商品やサービスをお届けできるように、社員の意識のさらなる啓発や、お客様価値を作り込める仕事の質の向上に力を入れていきます。

### 品質方針

1. 全てのプロセス、業務において三現主義<sup>※1</sup>に基づき行動する。
2. あらゆる場面でスピーディーにPDCAのサイクルを回す。
3. 失敗の原因を徹底分析し、失敗から学ぶルール、システムの構築により問題の再発を防止する。
4. お客様がEPSON商品を安心して購入し、心から愛用できる“先手のCS”<sup>※2</sup>を実現する。
5. 新たな商品を生み出す源泉のお客様の苦情、意見を無駄にしない。
6. 負の情報、悪い情報こそよどみなく報告する。
7. 当たり前のことをおろそかにしない風土を醸成する。

※1 現場、現実、現物を大切にする考え方

※2 基本性能だけでなく、お客様の期待を超えた喜びや感動といった付加価値が加わったCS

### SE15-CS品質中期活動指針

#### 基本方針 (CS品質への想い・ステートメント)

私は大切な人に渡せる商品／サービスをつくります

#### CS品質の目指す姿 (お客様と私たちをつなぐ価値の連鎖)



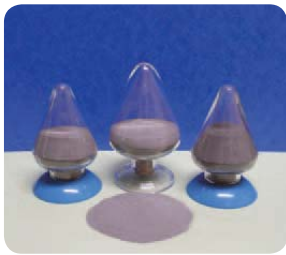


## お客様満足

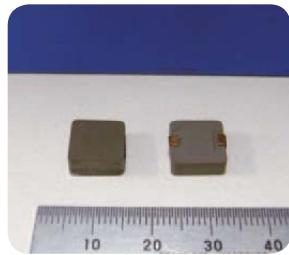
エプソンの技術が独自の素材を生み出し、さまざまな業界で活用されている事例や、実際にエプソン商品をお使いのお客様の困りごとを解決できた事例をご紹介します。

### 微細化技術による、超極微磁性粉末の開発

金属粉末は、複雑な形状の金属部品を低コストで大量生産できる素材として各メーカーが競って開発を進めています。その中でエプソンアトミックス(株)は、さらに用途の広がる「磁性粉末」の製造技術を確認しました。他社にできないレベルまで微細化することにより、高性能で極小サイズのコイルやインダクターなどが作れるようになり、パソコンやスマートフォン、太陽光発電装置、電気自動車、省エネ家電など、多くの商品で活用されています。



磁性粉末



ノートパソコンなどの電子部品として使用されているSMDコイル

磁性粉末の開発にあたっては、金属粉末業界だけでなく、エレクトロニクスや自動車などの部品業界のお客様とも直接対話できる専門知識を身に付け、ニーズをヒアリングすることで、超極微磁性粉末の必要性の高さを確信し、エプソンにしか成しえない素材の提供というお客様価値につなげることができました。

また、樹脂や油脂類と混ぜ合わせることで、磁気シールド材や磁性流体などにも応用展開できるため、お客様価値を提供できる機会がより一層広がっています。



磁性粉末の成分を検討する開発メンバー

### 連続用紙印刷を実現した業務用

#### カラーインクジェットプリンター「GP-C800」

この商品の開発は、「お客様の困りごとを解決したい」という社員の想いがきっかけで始まりました。台湾の多くの病院では、患者に渡す薬袋をドットマトリクスプリンターで連続用紙に印刷していましたが、病院に何度も足を運ぶ中で「大量の薬袋を紙詰まりなく、速く静かに印刷したい」、「飲む薬を間違えないように、薬の写真をカラーで印刷したい」といった要望や困りごとは、「インクジェットプリンターを連続用紙に対応させることで解決できる」と考えたのです。



台湾の病院で使われている薬袋



GP-C800

開発にあたっては使い勝手にもこだわりました。手袋をしたままでも操作がしやすいようにボタンの大きさや配置を改良することや、できるだけインク交換なしで使えるように既存のインクカートリッジを重ねて大容量化するなどの対応を行いました。さらに、紙粉に対するヘッドの耐久性も新機構の開発で大幅に向上し、約120万枚の総印刷可能枚数<sup>※1</sup>を実現することができました。



使い勝手にこだわった操作パネル

このように、ドットマトリクスプリンターで培った連続用紙の紙送り機構や、高速・高精細なインクジェット印刷などエプソンの強みを融合し、お客様の声を何度も聞き改良を重ねて「GP-C800」が誕生しました。現在では、台湾の病院だけでなく、中国の宅配業者や小売店など、他の業界・用途のお客様にもご利用いただいています。

※1 台湾で実際に使用されている薬袋(6.5×7.5インチ)の用紙で印刷した場合

## お客様から学び、次期商品に反映する活動

エプソンは、海外にもデザインに関する開発拠点を設け、直接お客様の現場を訪問することで商品に対する「使い勝手」「困りごと」「要望」などを理解し、次期商品に反映させる活動を展開しています。

### 事例1: オフィス向けプリンターの本体カラーの開発

訪問調査により、北米には一般的なオフィスに加えホームオフィスが非常に多く、使用環境もお客様の要望も他の地域とは異なることがわかりました。それまでオフィス向けのプリンターは白色が一般的とされていましたが、お客様の強い要望にお応えし、黒色のオフィス向けプリンターを開発しました。



お客様の声から生まれた黒色の  
オフィス向けインクジェットプリンター



同機種の白色プリンター

米州デザイン拠点担当の柳澤健司は、「訪問調査によってお客様から学んできたことは、私が担当する北米エリア向けの商品開発において重要な情報となっています。これからも、今まで以上にお客様の立場で発想し開発した商品を、さまざまな用途のお客様にお届けしていきます。」と語っています。



米州 デザイン拠点担当  
柳澤 健司

### 事例2: 固定式・収納式給排紙トレイと操作パネルの開発

オフィスでプリンターをお使いのお客様を訪問した際、給排紙トレイや操作パネルが出されたままの状態を多く拝見し、「準備なく、すぐに使えること」、「使う状態で堅牢感やすっきり感があること」が重要だとわかりました。一方、家庭でお使いのお客様からは、「トレイなどが収納できれば棚への収まりが良い」など、お使いにならない時を考慮される声を多くいただきました。そこで、それぞれのお客様の要望に合わせ異なる考え方でデザインしました。



オフィス向け固定式の給排紙  
トレイと操作パネル



ホーム向け収納式の給排紙  
トレイと操作パネル

欧州デザイン拠点担当の酒巻功は、「欧州・中東・アフリカ各地域のお客様の声をできるだけ多く収集し、使用実態から教えていただいたことを大切にして、商品のデザインに反映させていきます。」と熱意を持って語っています。



欧州 デザイン拠点担当  
酒巻 功

エプソンは、世界中のお客様の使用実態情報を集め視覚化しています。それを商品の企画・開発の段階から関係部門で共有し、明確なデザイン品質の目標値を設定しています。併せて、試作品による検証を何度も行い、使いやすくデザイン性に優れた商品づくりに取り組んでいます。

## 社員モニター制度

当社は、社員やその家族を対象に「社員モニター制度」を運用しています。モニター登録者は、商品の使いやすさなどの品質向上や製品改善を目的とした評価に、社員ではなく「お客様」の立場で参加します。

2011年度は605名がモニター登録し、プリンターやプロジェクター、ウォッチなどの商品において9件の評価を実施しました。その結果は、取扱説明書のわかりやすさや商品の使いやすさの向上に活かされています。



モニタールームでの評価

## 販売・サービス／サポート

エプソンは安心して商品をお使いいただくためにサービス・サポート体制を整備し、お客様満足の上昇に努めています。またセミナーを開催し、正しい操作方法やワクワクするような使い方のアイデアをお客様にご提案しています。

### サービス従事者技能競技会

エプソンは、お客様の現場に直接お伺いし修理するオンサイトサービス従事者の技能競技会を毎年開催しています。「サービス力を向上し、お客様価値最大化を達成しよう!」のスローガンのもと、全国選抜の12名で予選を行い、上位3名が決勝に進みました。選手は、審査員が見守る中、着実かつ丁寧に修理を進めていきます。また修理技術だけでなく、身だしなみ、清掃・整頓のほか、お客様の困りごとを的確に把握し、次回もエプソンをご指名いただけるようなコミュニケーション能力も審査されました。

競技会を見学した社員は、「サービス従事者の対人能力の高さや臨機応変さに驚きました。サービスは単に修理するだけではなく、お客様とコミュニケーションする貴重な機会でもあるため、このようなサービス従事者がいることは、エプソンにとって大きな財産であることを再認識しました。」と感想を語っています。

2011年度の優勝者であるサービスパートナー企業社員の冷水大輔氏は、「競技を終了するまで優勝できるとは思っていませんでしたので、本当にうれしいです。競技会に参加し、非常に勉強になりました。優勝は大変名誉なことです。サービス従事者は、お客様の現場にお伺いし、お客様にどれだけ満足していただけるか、どれだけ感動を与えられるかがとても重要だと考えています。今回の経験を糧として、今後もお客様に満足いただけるよう、日々精進していきます。」と熱く語っています。



サービス従事者技能競技会で優勝した冷水大輔氏

### フォトセミナー

エプソン\*1では、お客様の印刷に関する知識やスタイルに合わせた3種類の講座を開催しています。「聴講講座」では、プリントにまつわるちょっとしたコツを無料で勉強できます。また、簡単な操作を知りたい、じっくり勉強したいというお客様には、有料の「体験講座」や「実技講座」を用意しています。例えば「色あせた思い出をよみがえらせよう!」という聴講講座では、スキャナーやスキャン機能付きプリンターを使った古い写真やフィルムの退色復元方法について、実演を交えて教えています。参加者から、「これほど簡単にきれいにスキャンできるのなら、ぜひ自分でやってみたい。」との声をいただきました。

\*1 写真印刷のための各種講座、商品の試用、写真作品の展示などを行うスペース



古い写真の退色復元方法を学ぶ聴講講座

### アフターサービスに関する外部表彰

2011年、エプソンダイレクト(株)は日経ビジネス2011年7月25日号「アフターサービス満足度ランキング」パソコン部門で、7年連続第1位を受賞しました。

「あなたとエプソンがつながる、安心の直販ショップ」として、ご購入後もお客様の満足が続くよう、サービスの向上に取り組んでいます。また、「1日修理」や「PCお役立ちナビ」などに加え、「すぐに」「安心して」「永く」使えるためのサービスを、さらに充実していくよう努めています。



日経ビジネス 2011年版  
アフターサービス満足度ランキング  
パソコン部門 **7年連続 第1位**

日経ビジネス 2011年7月25日号  
「2011年版 アフターサービス満足度ランキング」より

## 品質向上活動

100%良品をお客様にお届けするために、全社員が常にお客様を意識して仕事に取り組めるよう、さまざまな啓発活動を行っています。

### チーム力を高め続けるE-KAIZEN活動

チーム力を最大化して品質向上に取り組む活動を「E-KAIZEN活動」と称して全社で展開しています。より高い目標を掲げてやり遂げる力を養うための相互研さんの場として、毎年ワールドワイド大会が開催され、2011年は9カ国27チームの事例発表が行われました。

この大会で金賞を受賞したインドネシアのチームは、インクジェットプリンターの重要な部品であるヘッドの品質

向上に取り組み、大きな成果を上げました。具体的には、製造工程やスタッフの動作を現場で細かく観察・分析すること



会議中のE-KAIZENメンバー(インドネシア)

により、ピエゾ素子の取り扱い方法や、その時に用いる道具に問題があることを突き止めました。それを受け、作業や道具を改善することで不良率の低減に成功し、さらに技術部門と連携し、1カ月後には他機種への水平展開も行いました。こうした努力が、安定した製造に結び付いています。



金賞受賞チームの活動を紹介したポスター(エプソン社員の一体感やモチベーションの向上のため各チームの現地語で作成。上記はインドネシア語)

### 「CS・品質月間」の取り組み

エプソンは毎年11月を「CS・品質月間」と定め、「日々

の品質向上活動がお客様にとっての100%良品を目指す活動になっているか」、「お客様の声や過去の経験が商品／サービスに反映される仕組みになっているか」などを見直す機会にしています。



社内公募した「CS・品質月間」ポスター

その中から2つの取り組みをご紹介します。

#### 事例1: 車座集会

お客様に100%良品をお届けするための職場の課題と、それを実現するための対策について、職場、チーム単位で車座集会を開催し、熱く語り合いました。

設計部門では「お客様の使い勝手を正しく理解し商品に反映するために、何をしなければならないか」、営業部門では「お客様の声を企画部門にタイムリーに伝えるために、どのような活動が必要か」、またアドミ部門でも「一つ先行く業務支援ができないか」などのテーマで検討が行われ、具体的な取り組みがスタートしています。

#### 事例2: 事例講演会

開発、設計段階から品質を作り込むための仕組みを確立するために、活動を軌道に乗せている事業部からその事例を学ぶ場を設けました。継続的に行ってきた商品化プロセスの改革、お客様価値創造プロセスや生産性向上への取り組みなどの報告があり、それぞれの活動の具体的な進め方について意見交換が行われました。



設計品質向上活動の事例講演会

## 製品安全

エプソンは、グループ統一の品質保証規程と製品安全性管理規程を定め、世界中のどの国・地域でも同一レベルの製品品質を実現しています。特に、製品の安全性や環境法規制の適合性については、グループ統一品質規格EQS(Epson Quality Standard)を設け、世界各国・地域の安全規格や法規制の要求レベルよりも厳しい自主規制を幅広く設定し、お客様への安全・安心の提供に努めています。

### 製品安全に関する基本方針

エプソンは製造・販売する製品の安全に対するお客様の信頼を確保することが経営上の重要課題であるとの認識のもと、「お客様を大切に」という経営理念に基づき、製品安全に関する基本方針を定め、製品安全の確保に積極的に取り組んでいます。

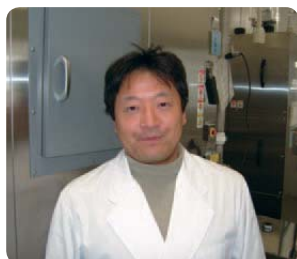
 製品安全に関する基本方針  
[http://www.epson.jp/company/seihin\\_anzen.htm](http://www.epson.jp/company/seihin_anzen.htm)

### 製品安全に対する取り組み

お客様のもとで起こった安全性事故に対して、これまでに蓄積した解析技術を活用し徹底した原因究明を行うとともに、そこで得られた教訓をグループ全体の共有財産とすることで再発防止につなげています。また、専用解析施設をはじめ、製品から発生するシックハウス症候群の原因とされる物質を含む化学物質を測定する装置や分析機器を導入し、独自に設けた自主基準値への適合を確認することで、安全・安心な製品づくりに取り組んでいます。

さらに、製品の企画・設計段階からの危険要素の除去や誤使用時の安全確保、安全品質の作り込みの徹底と、社員全員に対する製品安全教育などを実施しています。

分析リサーチセンターの吉光克弘は、「お客様に安全・安心な製品をお届けすることが我々の使命。製品から揮発する化学物質によって健康に影響を与えることがないように、製品を評



分析リサーチセンター 吉光 克弘

価しています。その中で揮発物質の定量分析技術の向上を図るなど、より高いレベルでの製品安全性保証の実現に取り組んでいます。」と熱意を語りました。

### 製品の情報セキュリティに対する取り組み

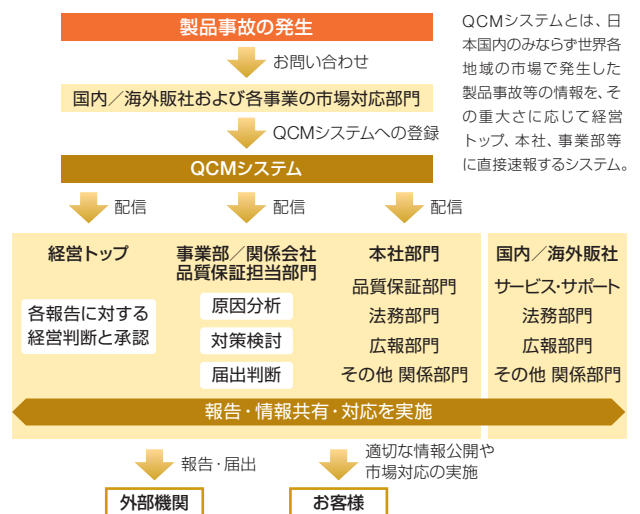
ネットワークの普及・発展に伴い、ホーム向け製品においてもその利用が一般的になる一方で、悪意ある第三者によるデータの改ざんや機密情報の漏えいといったセキュリティ上の脅威が懸念されています。


エプソンはこうした背景を受け、プリンターをはじめとしたネットワーク環境で使用される製品への組み込みソフトウェアのみならず、プリンタードライバーなどの各種ソフトウェアを対象にその脆弱性を排除すべく、品質規格(EQS)を定め製品の安全性向上に取り組んでいます。

### 迅速な製品事故対応体制

万が一安全性事故が発生した場合は、即座にグループ共通の情報伝達システムであるQCMシステム(Quality Crisis Management system)を用いて第一報が配信されます。そして、その重大さに応じて経営トップを含めた全社の関係者が速やかに情報を共有し、原因分析、対策の検討、お客様第一の考え方に基づいた適切な情報公開や市場対応、また消費生活用製品安全法などの法規制にのっとった外部機関への報告・届出を行っています。

#### ● エプソンにおける製品事故発生時の対応体制



 製品安全に関する重要なお知らせ  
<http://www.epson.jp/info/>  
(2011年度に掲載した「製品安全に関する重要なお知らせ」はありません。)

## 自然環境の尊重

私たちは、企業活動と地球環境との調和をめざし、高い目標の環境保全に積極的に取り組みます

### 環境活動の考え方

エプソンは、世界各国・地域で同じ目標と基準を掲げて環境活動に取り組んでいます。その基本姿勢は「企業行動原則」と「環境活動方針」に示しています。2008年、

「環境ビジョン2050」を策定し、地球環境の悪化を食い止め、持続可能な社会を構築するうえで企業が備えるべき要件を示しました。地球の環境容量を等しく分け合うという基本的な考えのもと、二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）の排出削減と生物多様性の保全を大きな柱としています。

### 環境ビジョン2050

エプソンは、地球の環境負荷許容量を認識し、世界の誰もがその許容量を等しく分け合うものと考え、2050年に向けて“商品とサービス”のライフサイクルにわたるCO<sub>2</sub>排出を10分の1にすることを目指します。あわせて、生態系の一員として、地域社会とともに生物多様性の修復と保全を行います。

 環境活動方針  
[http://www.epson.jp/SR/environment/vision/environment\\_policy.htm](http://www.epson.jp/SR/environment/vision/environment_policy.htm)

 「環境ビジョン2050」の詳細  
[http://www.epson.jp/SR/environment/vision/vision2050\\_index.htm](http://www.epson.jp/SR/environment/vision/vision2050_index.htm)

### SE15 中期環境活動方針

「環境ビジョン2050」を達成するには、要所要所にマイルストーンを置き、あるべき姿と現実とのギャップを埋めていく着実な取り組みが必要です。最初の実マイルストーンとして「SE15 中期環境活動方針」を定め（2010年4月

制定、2012年3月改訂）、2015年の目指す姿を描いた長期ビジョン「SE15」のチャレンジ分野の一つである「環境」について活動方針をまとめました。事業方針にこの環境活動方針を取り込み、事業活動と一体となった環境活動を進めています。

### SE15 中期環境活動方針

#### SE15 環境ステートメント

省・小・精の技術を基盤として、商品・サービス、生産、販売すべてを通じ、環境への負荷低減をお客様にとっての価値として提供する

#### 2015年の目指す姿（環境）

##### 新たな視点：『新たな環境価値創造への挑戦』

商品自体の環境負荷低減に留まらない、お客様の行動やビジネスを変える新しい商品/サービス/機能/使い方が提案されている

##### 商品・生産：『ライフサイクル環境負荷の半減』

商品 「小型軽量化」「省エネ化」「循環・長寿命化」を通じ、お客様満足を実現する魅力あるライフサイクル環境負荷半減商品を創出している

生産 「総原価低減活動」「品質向上活動」と連携し、商品の環境負荷低減を下支えする高効率・低環境負荷な生産工程を実現している

##### 環境コミュニティ：『環境コミュニティの醸成』

商品・サービスを核とした環境コミュニティ活動を展開し、社会・経済の新しい持続可能性に挑戦している

## 「環境ビジョン2050」達成のシナリオ

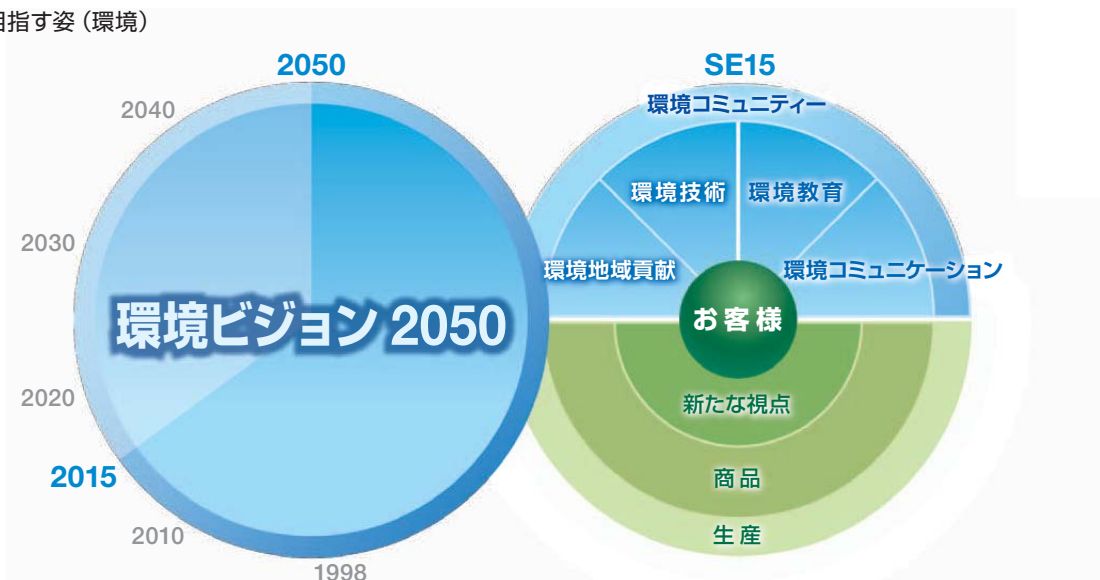
「環境ビジョン2050」の策定にあたっては、バックキャスティング\*1の考え方を取り入れました。将来のあるべき姿を描き、その姿から現在を見つめてどのような取り組みが必要なのかを考える、それはまさにこのビジョン達成へのシナリオとなるものです。

このシナリオでは、まずベースとなる生産工場での環境負荷低減活動を着実に進めます。その基盤のもとで、商品・サービスによる環境負荷低減を加速します。さらに、新たな視点での環境負荷低減にチャレンジします。

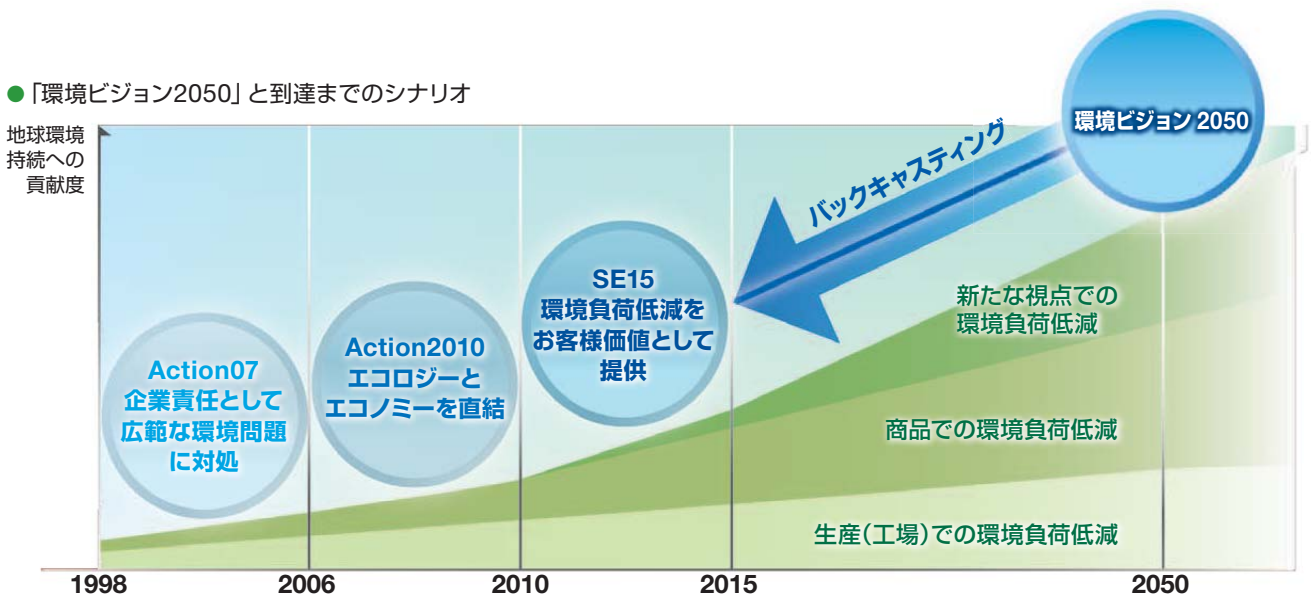
2050年の姿は事業活動を通じて達成するものです。「環境ビジョン2050」という光をあてて将来の事業を考えることで、事業のあり方や企業のあり方のヒントが見えてきます。物質への依存を低くした「モノよりコト」という考え方の重要性も増すでしょう。2050年という遠い将来に向かい、エプソンの目指す姿について議論を重ね、その実現に向け行動します。

※1 あるべき姿、ありたい姿としてのビジョンをまず描き、次にそこへ至るためのシナリオを検討する手法です。

### ● 2015年の目指す姿（環境）



### ● 「環境ビジョン2050」と到達までのシナリオ



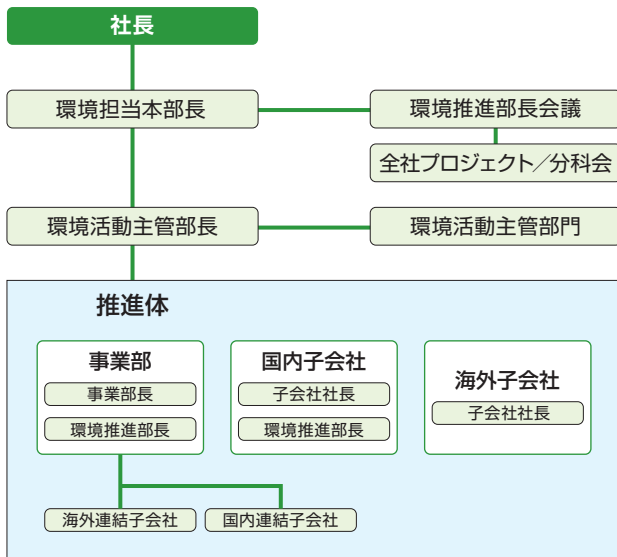
## 環境経営

エプソンは、環境と経済を両立させ持続可能な社会を築くことを目指し、「環境経営」を実践していきます。

### 環境マネジメントシステム

エプソンの各環境活動推進体は、「SE15 中期環境活動方針」(P. 29 参照)をもとにそれぞれの環境計画を策定し、環境マネジメントシステム (EMS)によって活動を展開しています。その遂行状況は内部評価で点検し、不適

#### ● 環境活動推進体制



#### ● 2011年度 環境保全コスト・効果表

(単位: 億円)

内容	環境保全コスト <sup>*2</sup>		経済効果			環境保全効果およびそのほかの定性的な効果		
	投資額	費用額	内容	金額	差引 <sup>*3</sup>	項目	単位	数値
環境商品の創出・提供、商品の回収・リサイクル	0.2	4.2				省エネ商品の社会的省エネ効果	万kWh	9,571
環境研究開発	0.0	29.8				商品開発における「新たな視点」: お客様の仕事のプロセスを改善し、生活をより便利にすることで環境負荷を低減する商品の開発		
地球温暖化防止	2.9	5.2	省エネ、温暖化物質排出削減効果	5.7	▲0.5	CO <sub>2</sub> 削減量(省エネ+温暖化物質対策)	t-CO <sub>2</sub>	28,299
環境負荷化学物質削減	0.0	1.1	環境負荷化学物質使用量削減効果	0.0	1.1	化学物質削減量	t	0
排出物処理・リサイクル	0.0	7.7	排出物の排出量削減効果	3.6	4.1	排出物削減施策量	t	4,338
水の有効利用	0.1	1.1	水使用量削減、リサイクル効果	1.6	▲0.5	水使用量削減量、リサイクル量	千m <sup>3</sup>	1,629
地域社会・国際社会へ、情報の公開と貢献	0.0	0.6				地域・社会貢献(展示会出展、講演会の実施、地域清掃など) 情報公開(サステナビリティレポート、HPなど)		
法規制遵守(公害防止など)、緑化、美化	1.4	2.3				法規制など違反件数	1件	
土壌、地下水汚染浄化など	0.0	0.6				土壌・地下水汚染浄化の推進		
環境管理システムの継続的改善	0.0	1.2	社内教育による節約効果	3.6	▲2.4	環境基礎教育、内部環境監査人教育、環境専門教育など		
合計	4.8	54.3			14.5			
環境保全費用/売上高(%) <sup>*1</sup>		0.6%						

\* 環境省の環境会計ガイドライン(2005年版)を参考に作成した社内ガイドラインに基づいて集計しています。

\* 集計範囲は当社および国内子会社16社、海外子会社20社です。子会社では、ISO14001認証を取得し、環境会計データの収集を行っている会社を集計対象としています。

\*1 売上高原単位の算出にはエプソングループ連結の売上高を使用しています。

\*2 数値の切り捨て処理により、内訳の総和と合計の数値は一致しない場合があります。

\*3 環境保全費用から経済効果を引いた正味の環境保全費用を示しています。▲の場合、取り組みにより利益が生じていることを表します。

合事項は是正しています。EMSの運用には、国内外の主要拠点において、国際標準規格ISO14001を取得し、活用しています。今後は、より事業に密着したEMSへと進化させていきます。

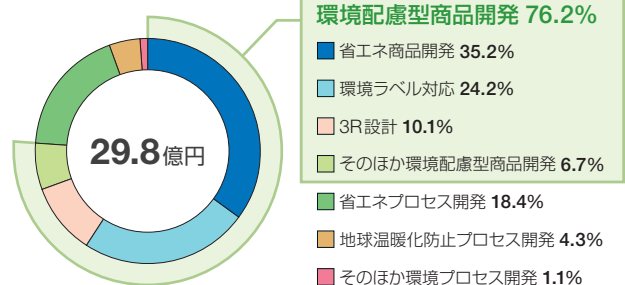
Web ISO14001認証取得一覧  
<http://www.epson.jp/SR/environment/reports/iso14001.htm>

### 環境会計

エプソンは、2000年に環境会計を環境経営を推進するための一つの指標と位置付けました。環境会計を導入してから十数年が経過し、企業の環境活動の考え方は変化してきました。環境保全に加え、環境負荷低減をお客様の価値として提供することが重要になってきたと考えています。

今後は、「SE15 中期環境活動方針」の「2015年の目指す姿(環境)」(P. 29 参照)を近隣の指標とし、環境保全に対する適切なリソース(投資、費用)を投入することで、環境負荷低減をお客様価値として提供していきます。

#### ● 環境研究開発費の内訳





## 2011年度の実績

エプソンは、2010年度から「SE15 中期環境活動方針」に基づく環境活動をスタートし、各事業戦略に沿った商品・サービスの環境負荷低減に取り組んでいます。

2011年度は、「2015年の目指す姿(環境)」の実現に

向け各事業体が主体となり施策を推進し、事業と一体化した環境活動を展開しました。その結果、ライフサイクルでの環境負荷を低減した商品の開発や、循環型サービスの拡大などの成果につながりました。また製造分野でも、さまざまな施策を着実に実施することにより、グループ全体の削減目標を達成しました。

2015年の目指す姿(環境)	2011年度実績
<b>ライフサイクル環境負荷の半減</b> ライフサイクル環境負荷を半減する新しい商品・サービスを創出し、顧客満足を実現している	商品の小型、軽量、省エネ化を追求 (例)ホーム向けインクジェットプリンター事業では、電気・電子ユニット軽量化や本体軽量化により、1商品当たりのライフサイクルCO <sub>2</sub> を2006年度比30%削減  製造工程では、グループ全体で定めた2011年度削減目標を達成 <ul style="list-style-type: none"> <li>● CO<sub>2</sub> : 2006年度比37%削減 ..... P.39</li> <li>● 排出物 : 2006年度比32%削減 ..... P.40</li> <li>● 水 : 2006年度比51%削減 ..... P.39</li> <li>● PRTR対象物質 : 2006年度比26%削減 ..... P.40 (化学物質排出移動量届出制度)</li> <li>● VOC : 2006年度比31%削減 ..... P.40 (揮発性有機化合物)</li> </ul>
<b>循環型商品・サービスの拡大</b> 新たな循環型商品・サービスの提供により、資源循環の環が拡大している	消耗品について、「インクカートリッジ里帰りプロジェクト」により国内自治体との連携強化により使用済みインクカートリッジ回収網を拡大し、シンガポールでは初の海外展開 P.38  回収とインク再充填の拡大企画を策定し、他社と共同で使用済みインクカートリッジのリサイクル、リユースを開始 ..... P.37
<b>先進技術の環境応用</b> 「省・小・精」を究めた先進技術をさまざまな分野に応用し、社会の環境負荷低減に寄与している	シースルーモバイルビューアー「MOVERIO BT-100」を発売。電池駆動で場所を選ばず大画面に相当する映像を視聴でき、お客様がより快適に映像を楽しめることが環境負荷低減につながる新領域の商品 ..... P.13  デジタルミニラボ「SureLab SL-D3000」、大判インクジェットプリンター「PX-H6000」は、お客様のワークフローの効率化に貢献することで環境負荷を低減 ..... P.34
<b>法規制の遵守</b> 世界の新たな環境規制や社会的動向に対し、迅速かつ確実な対応がなされている	欧州の「REACH」*1対応に向けた全社管理システムの開発を完了、2012年度より運用予定
<b>環境コミュニティの醸成</b> 商品・サービスを核とした環境活動により、社会・経済の新しい持続可能性に挑戦している	台湾の販売現地法人が主体となり、現地の大学(院)生を対象にした新しい環境教育プログラム(グリーンタレントプログラム)を、日本の大学生も参加し開催。参加学生および取材メディアによる情報発信を通じたコミュニケーションの場が拡大 ..... P.44

\*1 化学物質とその安全な使用や取扱いに関するEU(欧州連合)の法律です。

## 2012年度からの取り組み

「SE15後期 中期経営計画」の制定を受け、環境活動においては「SE15 中期環境活動方針」を改訂し、お客様の行動やビジネスを変える新しい商品／サービス／機

能／使い方の創造への姿勢を明確にしました。2012年度の取り組みではより一層、常にお客様を中心に「新たな視点」から、環境負荷低減をお客様にとっての価値として提供することを目指します。

## 商品を通して未来へ

エプソンは、商品を通して環境負荷の低減に貢献します。商品による継続的な環境活動を、持続可能な地球環境実現への貢献につなげていきます。

「Better Products for a Better Future」。これは、

私たち皆の未来のために、「より良い商品=環境にも配慮した商品」をつくり続けるという当たり前のことを、地道に、確実にやっていくという決意表明です。「新たな視点」と「商品」の両面からの取り組みで、このメッセージに込めたより良い商品を提供していきます。

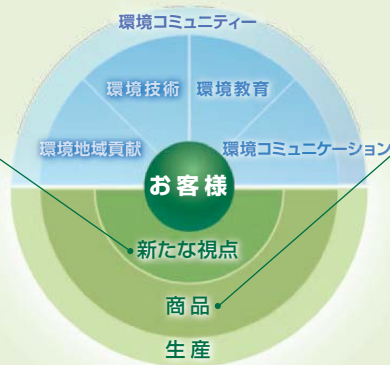
### Better Products for a Better Future

環境配慮への強い意志で、未来を切り拓くことができます。そう考えるエプソンは、信頼性が高く、リサイクル可能で、エネルギー効率のよい革新的なモノづくりにつねに挑戦しています。これからも省エネ・省資源・省スペースなど、省の技術を活かした製品をとおして、環境のため、そして未来のために貢献していきます。

#### 2015年の目指す姿 (環境)

#### 「新たな視点」で、お客様の暮らしをより快適に、よりエコにする

エプソンの革新的な商品・技術を通して、お客様の暮らしの中で生み出される環境負荷を低減します。



#### 「商品」の基本性能をよりエコにする

商品の小型・軽量化、省エネルギー性能の向上、リサイクル性の向上など、基本性能をより環境に配慮したものにすることで、環境負荷低減に貢献します。

### プリンティングを革新するマイクロピエゾ技術

エプソンの3つのコア技術\*1の一つであるマイクロピエゾ技術は、プリントヘッドに熱をかけずにインクを吐出させる技術で、ヘッドの耐久性やインク対応性に優れ、か

つ正確な位置に正確なインク量を飛ばすことができます。この技術の強みを活かし、ホームやオフィス市場だけでなく、商業・産業領域を含むあらゆる領域のプリンティングに革新をもたらします。

\*1 マイクロピエゾ、3LCD (HTPS)、QMEMSのことです。

#### ● マイクロピエゾ技術による領域の拡大



## 新たな視点

エプソンの商品を使っていただくことが、お客様の仕事・生活をより快適に、よりエコにする。それが環境負荷も低減する。これがエプソンの考える「新たな視点」です。

### デジタル印刷によるフォトプリンティングの効率化

写真店や写真館向けのデジタルミニラボ「SureLab SL-D3000」は、銀塩方式と比べメンテナンス性が優れるためお客様のフォトプリントのワークフローを効率化し、維持コストを削減できることが特徴です。効率的なプロセスにより資源の消費を抑え、環境負荷低減を実現します。



SureLab SL-D3000

#### eco 情報

- 薬剤を使わず廃液処理も不要
- 部品の洗浄工程がないため水道設備が不要で省資源

### デジタルミニラボのメリット

#### メンテナンス性

業務の効率化・合理化に貢献します。

- 始業、終業に伴う作業時間の最小化
- 特別なスキルや専門知識が不要

#### 環境配慮

省資源で環境配慮に貢献します。

- 薬剤を使わず、廃液処理も不要
- 廃水が出ない

#### 省スペース

設置の自由度が高まります。

- 本体設置面積約2.1m<sup>2</sup>のコンパクトボディ（オプションセンサーなしの場合）
- 水道設備が不要
- 一般的な100V電源で稼働

### リモートプルーフ\*1によるワークフロー改善

プルーフとは本番印刷前の仕上がり色などを確認する作業です。アート分野向けの大判プリンター「PX-H6000」は、人の移動を伴わずに確認できるリモートプルーフ機能が大きな特長です。これにより、ワークフロータイムの短縮・コスト削減に加え、資源の節約や原稿の輸送にかかるエネルギーの低減に貢献できます。

\*1 離れたところで印刷用原稿と同じ色確認を行えることです。自動測色機（オプション）装着により実現できます。



PX-H6000

#### eco 情報

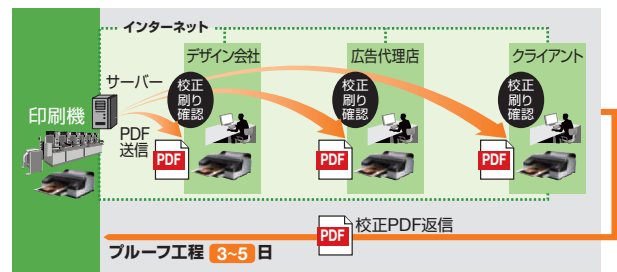
- 自動電源オフによる消費電力削減（オフ時0.5W以下）
- 自動用紙セットにより給紙トラブルを最小化
- 自動ノズルチェックとクリーニングにより廃棄用紙を削減

### ワークフローの比較

従来のワークフロー



リモートプルーフによるワークフロー



このほかにも、特集で紹介しているインタラクティブ機能付きプロジェクター（P. 11-12参照）や新領域のシースルーモバイルビューアー（P. 13参照）は、「新たな視点」から生まれた環境価値を盛り込んだ「お客様の仕事・生活をより快適に、よりエコにする」商品です。

## 商品

「商品の基本性能をよりエコにする」、そのためにエプソンは、各事業で「省・小・精」(省資源、小型、高精密)の技術を用いて、商品のライフサイクルにおける環境負荷の半減を目指しています。

### 商品開発の基本方針

エプソンは「省エネ設計」「省資源」「有害物質の排除」の3つを環境に配慮した「商品開発の基本方針」に定め、さまざまな仕組みや基準を設け商品づくりを推進しています。

生産材については、環境負荷の低い生産材を優先的に調達することを目指し、2004年からは世界同一基準での調達活動を展開し、グリーン購入率100%を維持しています。

化学物質規制に関する対応では、世界同一基準で商品を出荷しています。また、有害性が懸念されているものは法規制がなくても積極的に代替・廃止していきます。さらに、業界標準に準拠した含有化学物質調査体系を活用し、法的要求・お客様の要求・社会的要求に効率的かつ確実に対応しています。

 商品開発の基本方針  
<http://www.epson.jp/SR/environment/lifecycle/#anchor1>

## 主な環境商品

### ● 超短焦点プロジェクター EB-435W



#### eco 情報

- 待機電力0.3W、EB-410W(2009年発売)に比べ約93%削減
- 単位輝度当たりの消費電力をEB-410Wに比べ約15%削減

### ● 大判プリンター SureColor SC-S30650



#### eco 情報

- 自発がん性のあるニッケル化合物や有害なフッ素化合物\*1を含まない、溶剤インク特有の臭いを低減したソルベントインクを使用

\*1 PFOS(Perfluorooctanesulfonic acid)、PFOA(Perfluorooctanoic acid)のことです。

## 低パワー化を実現した ソーラーGPSウォッチ「セイコーアストロン」

エプソンは世界で初めて、地球上のあらゆる場所で、いつでもすばやくユーザーの位置情報を特定し、現在地時刻を取得するソーラーGPSウォッチ「セイコーアストロン」を開発しました。当商品は2012年9月下旬、セイコーウォッチ(株)より世界同時に発売予定です。従来の約1/5(当社比)まで低パワー化した新開発の低消費電力・小型・高精度ソーラーウォッチ向けGPSモジュールにより、お客様はいつでもどこでも正確な「時」を得ることができます。



SAST003

#### eco 情報

- 従来のGPSモジュールより約1/5低パワー化
- ソーラー発電で電池も外部充電も不要

● デスクトップパソコン Endeavor ST160E



● モバイルスキャナー DS-30



**eco 情報**

- 約 11.8W (通常時) の低消費電力を実現
- Endeavor AT990E (2011 年発売) に比べ、約 77% 小型化

**eco 情報**

- クラス最軽量<sup>※2</sup>の約 325g、コンパクトボディで省資源
- USBバスパワー駆動により、動作時でも 2.5W の低消費電力でスキャンが可能

※2 シートフィードスキャン対応のモバイルスキャナーとして、2012年5月現在、エプソン調べ。

小型化の追求で、環境負荷低減につながるお客様価値を創造

Expression Home XP-400 (北米向け) は、素材選びから始まるエコ性能確保はもとより、部品小型化や配置最適化などで商品の小型化を追求しました。その中で、新開発の小型インクジェットヘッドは印刷速度向上も実現しました。数々の取り組みでお客様価値を創造した事例をご紹介します。

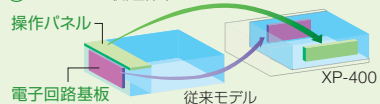
\* 従来モデルEpson Stylus NX420 (2010年発売) との比較です。

開発・設計でのエコ

商品のライフサイクルを考慮した環境配慮設計を盛り込みました。

● 省資源設計

① パーツの最適配置



- ② 部品点数 19% 削減
- ③ 基板・電源ユニット小型化

電源ユニット  
約 50% 小型化



● リサイクル設計

- ① 光沢シボ技術開発により、塗料や塗装工程が不要で環境負荷を低減。高次元のリサイクルも可能

新開発のラインシボパターン

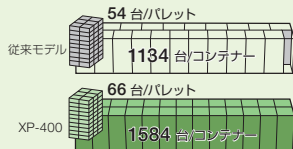


- ② 液晶パネル・スキャナー光源の LED 化により水銀フリー

お届けするときのエコ

商品小型化に伴い個装箱も小型化し、輸送時の環境負荷を低減します。

- ① パレット積載率 20% 向上
- ② コンテナ積載率 40% 向上



Expression Home XP-400

**eco 情報**

- 本体小型化 39%、軽量化 23%
- 1日の総消費電力量を 4% 削減
- ライフサイクル CO<sub>2</sub> 排出量を 23% 削減

インクジェットヘッドのエコ

新型インクジェットヘッドの開発とともに、製造時の環境負荷も低減しています。

● 小型・軽量化

従来の同方式のヘッド (2005 年) と比べて、高さ 43% 削減、質量 41% 削減し、ライフサイクルでの CO<sub>2</sub> 排出量を 37% 削減



● 製造時の負荷低減

- ① 検査用ランプを LED 化し省エネ
- ② 接着剤の強度評価を行い無駄なく使い切る (廃棄量ゼロ)

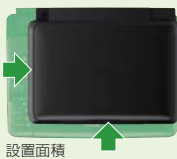


- ③ 成形時に発生する無用なプラスチックを粉砕し新規材料に混ぜてリサイクル

使うときのエコ

置き場所に困らない省スペースプリンターです。

- ① 設置面積 24% 削減
- ② 自動電源オフにより待機電力を削減
- ③ 割り付け印刷、スキャンして PDF 化などの機能で用紙削減



インクカートリッジのエコ

製造工場での環境負荷を低減しています。

- ① カートリッジ製造工場の局所クリーンユニット化による省エネ
- ② 廃インクから水を分離し、工場内で再利用



インクカートリッジ製造工程

## 商品の回収・リサイクル

循環型社会を築くためには、企業・行政・消費者などの連携のもと、使用済み商品を適切に処理する必要があります。

エプソンは、世界各国・地域の法規制や消費者ニーズに対応するため、完成品本体だけでなく、消耗品を回収・リサイクルするグローバルな体制を整えています。現在35の国と地域で消耗品の回収・リサイクルに取り組んでいます。

例えば、国内では2004年から使用済みインク/トナーカートリッジの回収によりベルマーク運動を支援しています。グループ内では2011年10月から順次スタートし、2012年4月には国内のグループ全拠点に回収ポストを設置し、社員やお取引先、地域の皆様からの回収を始めま



社内回収ポストに投函している社員

### ● 地域別リサイクル推進体制

#### 完成品本体遵法回収プログラム

米国（州単位）  
カナダ（州単位）  
EU加盟27カ国  
ノルウェー  
スイス  
日本（パソコンのみ）  
韓国  
台湾

#### 完成品本体自主回収プログラム

中国  
香港  
日本（事業系のみ）  
フィリピン  
インドネシア  
マレーシア  
シンガポール  
タイ  
インド  
オーストラリア  
チリ

#### 消耗品自主回収プログラム

米国 スウェーデン  
カナダ 英国  
コロンビア ノルウェー  
ベルギー スイス  
チェコ トルコ  
デンマーク 中国  
フィンランド 香港  
フランス 日本  
オーストリア 韓国  
ドイツ 台湾  
ギリシャ フィリピン  
ハンガリー シンガポール  
アイルランド オーストラリア  
イタリア 南アフリカ  
ルクセンブルク  
オランダ  
ポーランド  
ポルトガル  
ルーマニア  
スロバキア  
スペイン

した。回収したものは再資源化し、また回収量に応じたベルマークポイントを付与します。そのポイントをベルマーク教育助成財団や各拠点近くの地元学校、地震・風水害といった災害によって被災した学校などへ寄付することで、学校支援に役立てています。

## 他社との共同環境貢献活動開始

2012年4月、エプソンはプリンターをソリューションに使用している企業とともに、クーポンプリンターの使用済みインクカートリッジの回収と再生インクカートリッジの供給を行う環境貢献活動を開始しました。

この活動では、全国の小売チェーン店舗にあるインクジェット式クーポン発券用プリンター約3万台の使用済みインクカートリッジを店舗から回収します。エプソンにて新品と同様な品質管理のもと、ラベル以外ほぼすべての部品を再使用し、インクを再充填することで再生インクカートリッジとして再び店舗で使用します。

活動の担当者である入倉英明は、「先方企業とのカラークーポン発券用プリンターの開発は、再生インクカートリッジの使用を前提に進めました。その結果、従来機種での技術的課題を解決し、この取り組みが実現できました。日本で始めたこの環境貢献活動を、今後はほかの地域にも順次拡大していきたいと考えています。」と意気込みを語りました。



BS企画設計部 入倉 英明

### 環境効果<sup>※1</sup>

- インクカートリッジ1個当たりのライフサイクル環境負荷：56%削減
- この取り組みによるCO<sub>2</sub>排出削減量：39.5t/年

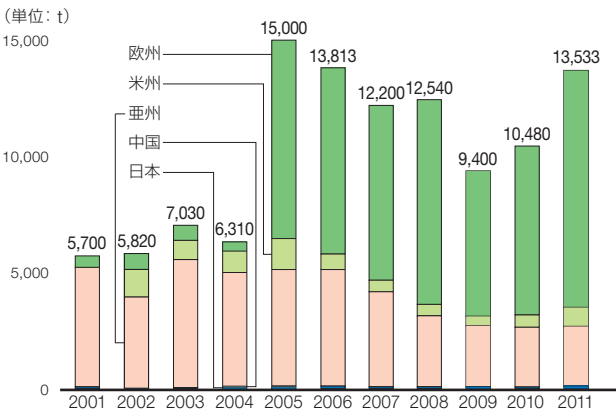
※1 エプソンの評価条件による値です。新品のインクカートリッジをお客様で使用後廃棄する場合と比較しています。

● 使用済みインク/トナーカートリッジの回収・リサイクルシステム



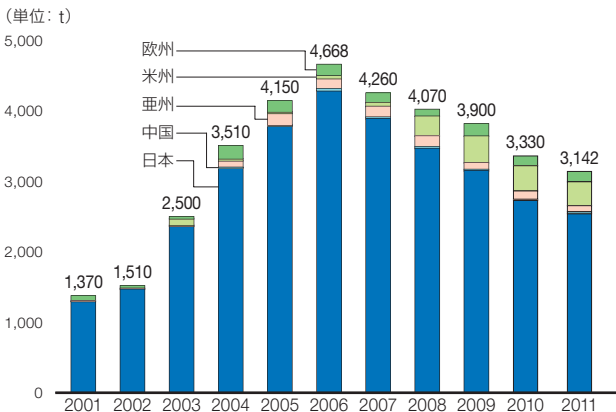
Web 使用済みカートリッジ回収  
<http://www.epson.jp/recycle/>

● 完成品本体の5極地域ごとの回収量年度推移



\* 回収量年度推移は実回収と費用負担済み回収見込み量の総計を用いています。(年度)  
 \* 地域により、違法/自主回収プログラムのいずれかを適用しています。

● インク/トナーカートリッジの5極地域ごとの回収量年度推移



\* 回収量年度推移は実回収量を用いています。

シンガポールでの里帰りプロジェクト

Epson Singapore Pte.Ltd.(ESP /シンガポール)は、プリンターメーカー 4社と協働で、シンガポール国立環境局と国立図書館委員会の協力のもと、シンガポール国内でのインク/トナーカートリッジ回収活動「Project Homecoming」を開始しました。

この活動では、国立図書館の支館13カ所に専用の回収ポストを設置し、メーカーを問わずにインク/トナーカートリッジを回収しています。回収されたインク/トナーカートリッジはプラスチックや金属などに分別され、リサイクルされます。この活動により廃棄物が削減され、貴重な資源の再活用にもつながっています。



「Project Homecoming」の報道発表に参加したESP社員

## 生産

エプソンは、環境活動を「総原価低減活動」や「品質向上活動」と連携させ、商品の環境負荷低減を下支えする高効率・低負荷な生産工程の実現を目指しています。

## 地球温暖化防止

エプソンは、「省エネによるCO<sub>2</sub>の排出量削減」「CO<sub>2</sub>以外の地球温暖化物質の排出削減」を活動の主軸ととらえ、国内事業所だけでなく海外も含むすべての関係会社で取り組んでいます。2011年度は、2006年度比で地球温暖化物質全体を28%削減するという目標を掲げて活動を進め、グループ全体の削減目標を達成しました。

また、2012年2月にエプソンの社員14名がエネルギー管理関係の表彰を受けました。

### ● 2011年度エネルギー管理関係表彰名と受賞者数

表彰名 <sup>※1</sup>	受賞者数
エネルギー管理功績者表彰	6人
エネルギー管理功労者表彰	4人
エネルギー管理優秀技能者表彰	4人

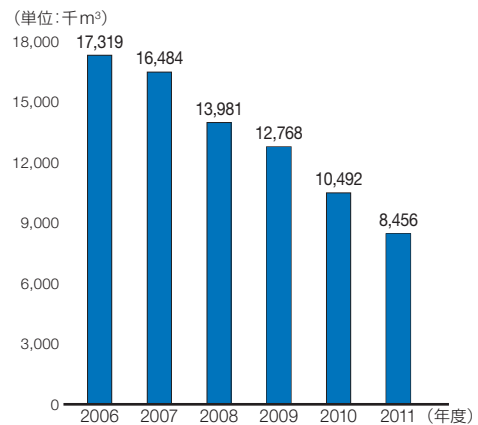
※1 主催：経済産業局・電気使用合理化委員会／(財)省エネルギーセンター

## 水のリサイクル

エプソンは、水マネジメント(水に配慮した企業活動)の一つであるリスク管理の観点から「水」と「資源」に注目して、環境負荷の低減や法規制への対応を推進しています。生産工程においては、工場排水のリサイクル率アップお

よび水質規制強化への対応などに積極的に取り組んでいます。例えば、Tianjin Epson Co., Ltd. (TEL / 中国) は、廃水処理による水の再利用を進め、機器洗浄、エアコン冷却水および加湿器用水として、年間2,400トンの廃水を再利用しています。

### ● 水使用量の年度推移



## グリーン電力

当社は、地球温暖化防止策の一つとして、2001年度から日本自然エネルギー(株)と風力発電の委託契約を結んでいます。これまでの総発電量は1,937万kWhにのぼります。

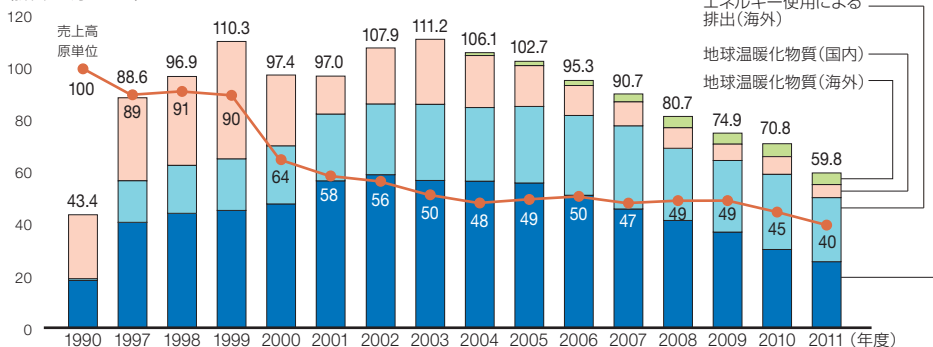
2011年度は、年間200万kWhのグリーン電力を能代風力発電所(秋田県)に委託しました。これは仮に本社事業所に当てはめると電力使用量の約48%になります。



グリーン電力証書

### ● 地球温暖化物質排出量

(原単位: 1990年度比%)  
(排出量: 万t-CO<sub>2</sub>)



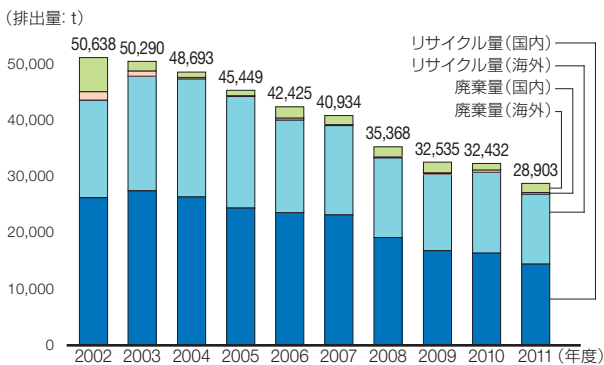
- \* 1990年度のエネルギー使用以外の地球温暖化物質排出量は、1995年の同排出量を用いています。
- \* CO<sub>2</sub>排出量の算出に用いた電力のCO<sub>2</sub>換算係数は、日本国内については2000年度の電気事業者連合会公表の平均値、海外については日本電機工業会(JEMA)報告書に基づく各国排出係数を使用しています。
- \* 燃料のCO<sub>2</sub>換算係数は、国内・海外ともに「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル(Ver.2.4)」(環境省、経済産業省)の係数を使用しています。
- \* CO<sub>2</sub>以外の地球温暖化物質排出量のCO<sub>2</sub>換算に際しては、2001年IPCC公表の換算値を用いています。



## ゼロエミッション

エプソンのゼロエミッション活動は、排出物を100%再資源化する「再資源化活動」からスタートしました。国内グループ会社および海外の製造系子会社のすべてが「再資源化活動」を達成し、現在は生産工程の改善を目指す「省資源活動」にシフトした活動を推進しています。

### ● 排出物\*1排出量の経年推移



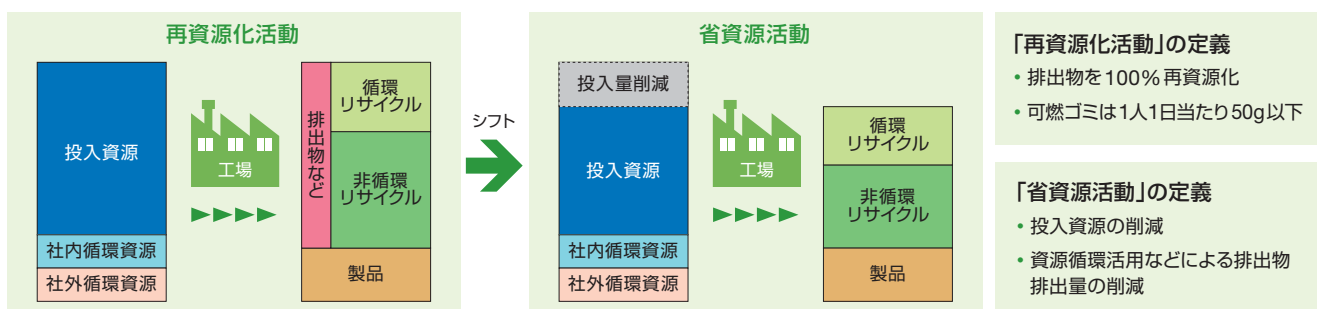
Epson America, Inc. (EAI / 米国) は、倉庫における排出物のリサイクルとリユースの取り組みが評価され、2011年12月にカリフォルニア州統合廃棄物管理委員会からWRAP賞を受賞しました。今回で4回目の受賞となります。



活動に取り組むEAI関係者

また、インクカートリッジの生産拠点であるEpson Telford Ltd. (ETL / 英国) では、生産時に発生する排出物を、紙・工場資材・文具・日用品などに再資源化する活動を進めました。その結果、排出物の有価物化が進み、排出物の再資源化費用を売却益でまかなうことができるようになり、「リサイクル費用ゼロ工場」が実現しました。

### ● ゼロエミッション活動

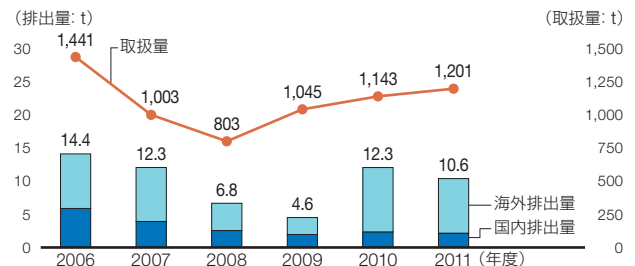


## 化学物質の管理

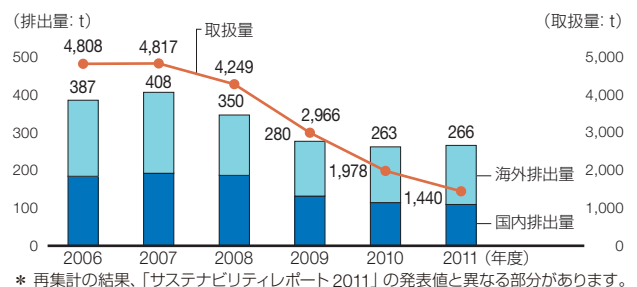
エプソンは、化学物質データ管理システム「E-Chem」を用いて、情報を全世界で一元管理し、使用量の削減やPRTR(化学物質排出移動量届出制度)対象物質およびVOC(揮発性有機化合物)の排出量を削減するための施策を継続的に推進しています。2006年度排出実績をベンチマークとした管理指標を用い、各事業部が管理と削減を進め、2011年度も目標を達成しています。

また、これらの化学物質に関するデータを公開し、地域の皆様と意見交換会を通じてコミュニケーションを図り、信頼関係を築いています。

### ● PRTR対象物質取扱量・排出量の年度推移



### ● VOC取扱量・排出量の年度推移



各事業所・関係会社環境データ (PRTR、VOCなど)  
<http://www.epson.jp/SR/environment/reports/kogaidata.htm>

## 輸送

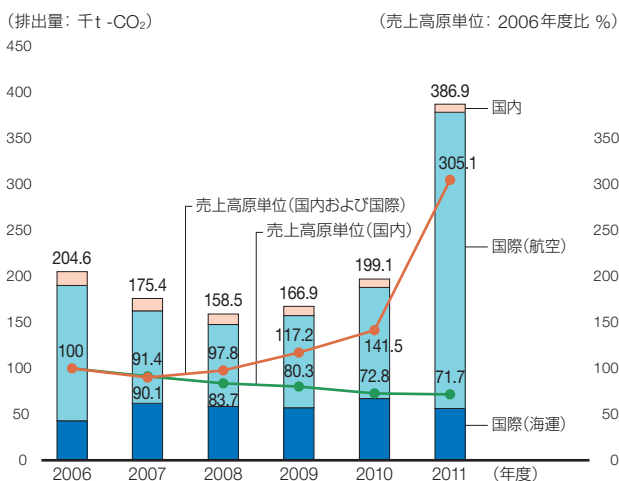
エプソンは、商品、部品、排出物の効率的な輸送を通じて、CO<sub>2</sub>排出量の削減に取り組んでいます。モーダルシフト\*1や物流拠点の見直し、積載効率を向上させるための積み方やパッキングの工夫、発着頻度や便数の見直しなどの施策を継続的に実施しています。また、商品を小型化することによって梱装箱も小型化でき、輸送効率が向上し、トラック便数を削減できました。

例えば、秋田エプソン(株)では生産に伴い発生する産業廃棄物の輸送方法を見直しました。従来はトラックに単層積載して輸送していた産業廃棄物を、二層積載することにより積載効率を高め、トラックの便数を減らしました。

2011年度の国内輸送によるCO<sub>2</sub>排出量は約0.88万トンと減少傾向が続き、売上高原単位は2010年度比で約1.5%削減できました。一方、国際間の輸送は、2011年の東日本大震災、タイの洪水による部品供給遅れ対応や品質が確保された商品を短期間でお客様にお届けするために航空便の使用頻度を増やしたことで、2010年度に比べCO<sub>2</sub>排出量が2倍近くまで増加しました。売上高原単位も同様に悪化しています。環境負荷の低い輸送手段や方法で商品・サービスをお客様にお届けする努力を、今後も続けていきます。

\*1トラック便から鉄道便への変更など、輸送手段を転換することです。

## ● 国内および国際間物流におけるCO<sub>2</sub>排出量



## 環境リスクマネジメント

事業活動によって環境汚染が生じることがあれば、周辺住民の皆様や国・地域に多大な損失や悪影響を及ぼしかねません。エプソンは、環境汚染防止に関する世界同一基準に従い、環境リスクマネジメントの考え方や法令遵守を徹底しています。各推進組織ではISO14001を活用し、基準値の逸脱、環境に関する苦情や事故につながるリスクを洗い出し、評価しています。その結果に基づく対策をとり、継続的なリスク低減にも努めています。2011年度は21拠点(国内13、海外8)で公害・廃棄物の社内監査を実施し、指摘事項の改善をほぼ終え、完了に向け対策継続中です。

2011年度は、法規制値超過(油分1件)が発生しました。行政に報告するとともに、改善を実施しています。

法規制値超過：1件 苦情：0件 事故：0件

## ● 廃棄物の品質管理強化活動

エプソンは、廃棄物に潜む危険性と有害性を分析し、その結果を含む関連情報の確実な伝達などの管理全般を強化し、安全に廃棄物を管理するために、「廃棄物の品質管理強化活動」を推進しています。

## ● 土壌・地下水浄化活動

地下水の塩素系有機溶剤対策として、本社事業所をはじめとする各事業所でバリア対策および揚水浄化を継続的に実施しています。

## ● 事業所別地下水データと浄化対策

(単位：mg/l)

事業所	2010年3月	2011年3月	2012年3月	浄化対策
本社	36	28	39	バリア対策、揚水浄化、モニタリング
塩尻	1.5	0.75	0.67	バリア対策、揚水浄化、モニタリング
富士見	0.16	0.14	0.12	バリア対策、揚水浄化、モニタリング
諏訪南	0.14	0.14	0.094	バリア対策、揚水浄化、モニタリング
松島	0.13	0.13	0.12	バリア対策、モニタリング

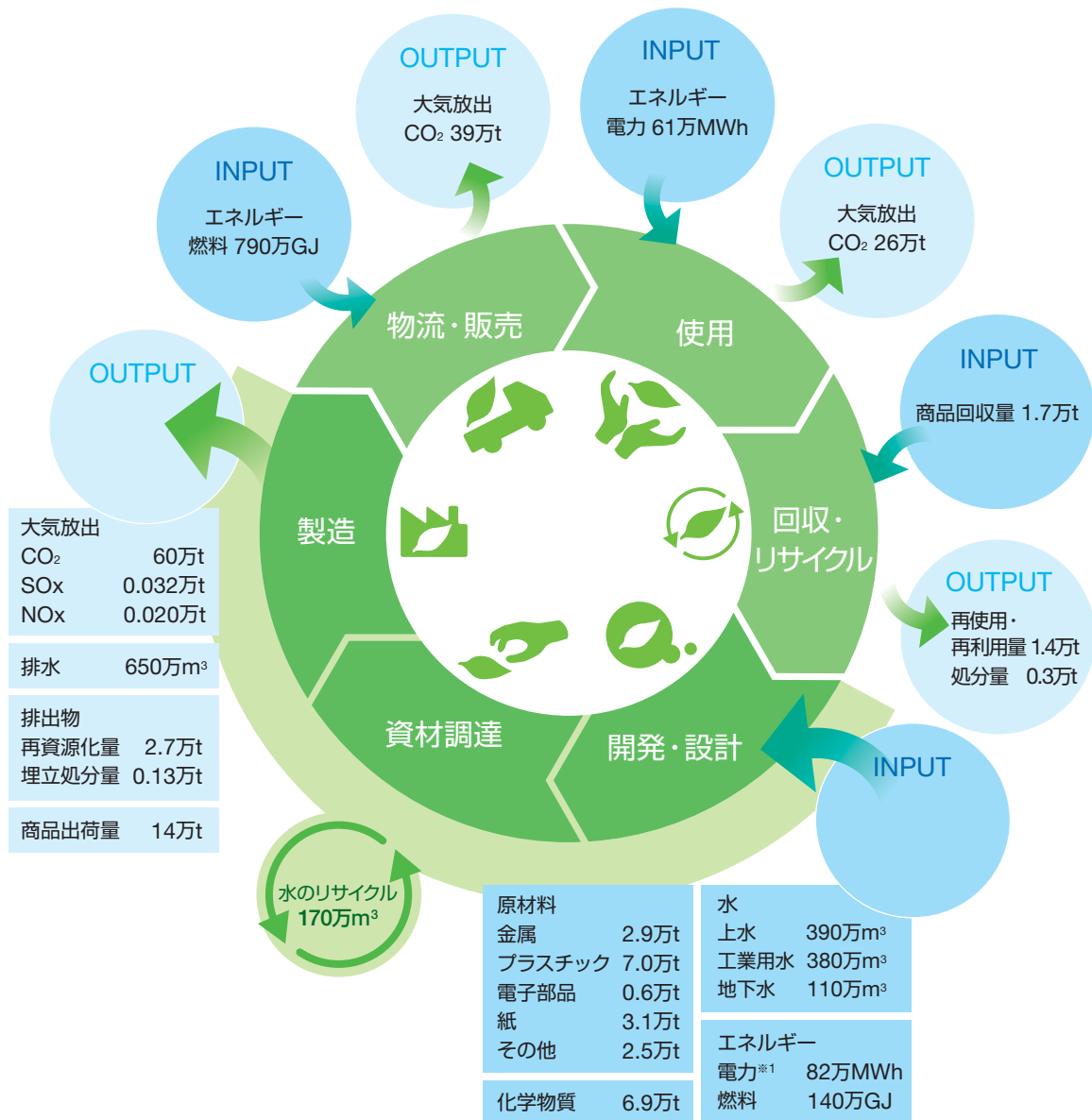
\* 地下水トリクロロエチレン濃度推移・年度平均(基準値0.03以下)

Web グローバル主要環境データ  
<http://www.epson.jp/SR/environment/reports/global.htm>

## 2011年度のマテリアルフロー

マテリアルフローとは、エプソンの各事業活動において投入（INPUT）する物質やエネルギーなどと、放出・排出（OUTPUT）する温室効果ガスや排出物などの物質量をまとめたものです。実測データや商品のライフサイクル

アセスメント（LCA）データを用いて、物質量を把握します。これらの結果は、商品の性能改善や事業の環境効率向上など、環境負荷低減に向けたさまざまな施策に活用しています。



※1 エプソンは、東日本大震災の影響による夏季電力供給不足に対応するため、2011年6月から国内全事業所において、緊急省エネ活動をスタートしました。その結果、従来からの省エネ活動が一段と加速しました。

## 環境コミュニケーション

エプソンは、ステークホルダーの皆様から信頼を得られるよう、各種イベントなどの機会を通じて、積極的に情報公開を行っています。また、皆様からいただいたご意見は、今後の環境活動や商品に活かしていきます。

### 「2011年香港環境優秀賞」の受賞

2012年5月、Epson Hong Kong Ltd.(EHK / 香港)は香港環境キャンペーン委員会が主催する「2011年香港環境優秀賞」の輸出入貿易部門の銅賞を受賞しました。この賞は、3つの基準(グリーンリーダーシップ、プログラムとパフォーマンス、パートナー相乗効果)で構成され、EHKは継続的な環境負荷低減活動が評価され受賞となりました。

EHKのRie Chanは、「権威ある団体から賞をいただいたことは、私たちにとって大変名誉なことです。EHKの全社員の協力によって、私たちは環境計画を策定・実行し、実績を挙げることができました。今回の受賞は、これまでの私たちの活動が認められたことを意味するもので、今後の環境活動を積極的に行う励みにもなります。これからも省エネや排出物削減を一層推し進め、私たちのビジョンとより良い未来を実現するために、環境活動の幅を広げていきます。」と受賞の喜びを語りました。



EHK Rie Chan



「2011年香港環境優秀賞」の授賞式(香港)

### 「第10回リサイクルイベント」の開催

Epson Portland Inc. (EPI / 米国)は、4月を「省エネと地球について考える月間」とし、毎年社員によるリサイクルイベントを実施しています。2011年度で10回を数えるイベントとなりました。今回も近隣企業の協力をいただき、不要になった電子機器やバッテリー、古紙などの回収を行いました。回収された200台を超える電子機器は、すべて適切に処理または分解・リサイクルされました。



古紙の回収作業



電子機器を回収するEPI社員

### 「エコプロダクツ2011」への出展

エプソンは「エコプロダクツ2011」で、「エコ(省エネ)を意識した新商品の紹介」、「環境ビジョン2050と環境活動の認知向上」を基本方針に、環境配慮型商品や環境活動を紹介しました。

インクジェットプリンターの環境情報や商品情報を短焦点プロジェクターで壁や商品に映し、パネルを使わない展示を行いました。また、子供たちがプリンターの分解を通じてリサイクルの工程を学べるワークショップを設けました。ブースに回収ボックスを設置し、インクカートリッジのリサイクルも呼びかけました。

実際に商品に触れることで、商品の魅力と環境面でのメリットを体感する中から会話が生まれ、お客様のご意見、ご要望を伺う貴重な機会ともなりました。



プリンターリサイクル体験のワークショップ

## 環境教育

エプソンは、社員が日常的に環境を意識して行動するためには、一人ひとりが会社だけでなく家庭でも環境問題を自身の行動の判断材料の一つと位置付け、率先して解決に向けた行動ができるようになることが重要であると考えています。その実現に向け、環境教育を通じて、正しい理解と実践を促しています。

### ● 2011年度環境教育実績（国内）

研修名	受講者数（累計）
ISO14001環境監査人教育	37人(1,969人)

研修名(eラーニング)	公開日	受講者数（累計）
環境基礎教育(自然と友に)	2002年 4月	449人(17,440人)
地球環境技術(環境関連法規)	2003年12月	374人(11,468人)
環境基礎教育Ⅱ(2011年版)	2011年12月	14,664人

また、エプソンが培った知識や経験を社外へも広めることで、社会全体の環境保全に貢献しています。

### ● 2011年度主な社外環境教育事例

地域	活動名
日本	キッズISO14000プログラム
	国際環境人材育成プログラム
中国	「エプソングリーン次世代」環境保護教育プロジェクト
台湾	グリーントalentプログラム
ドイツ	「エネルギーを理解する」プロジェクト

## キッズISO14000プログラム

当社は、2002年からArTech(国際芸術技術協力機構)が開発した子供のための環境教育支援プログラム「キッズISO14000」に協賛しています。子供がリーダーとなってプログラムを実践することにより、家族全体の環境に関する意識向上につなげています。

プログラムの中で、エプソン社員3家族の子供3名の活動が認められ、特別賞が授与されました。受



キッズISO国際認定授与式

賞した子供は、「省エネは、一人ではできないことに気がきました。我が家で一番使用量の多いお父さんに協力してもらおうのが難しかったです。これからも地球のために、この活動を広げていきたいです。」と語りました。

## グリーントalentプログラム

Epson Taiwan Technology & Trading Ltd.(ETT/台湾)は2011年10月に、「コミュニティとの発展」「自然環境の尊重」という企業行動原則に基づき、グリーントalent<sup>※1</sup>を育成するため、大学生や大学院生にCSR、環境保護の学習や職場体験の機会を提供しました。

台湾でプログラムに参加した学生の中から12名が日本を訪れ、引き続き環境に関する研修を行いました。環境をテーマにしたディスカッションやリサイクル施設での見学を通じて、彼らの国際的視野と環境に関する知識が深まり、さらに彼らが環境保護に関して情報発信することで、社会に良い影響が広がることを期待しています。



ディスカッションする学生たち



神林事業所(再資源化拠点)での見学

プログラムに参加した学生からは、「次回は日本に行ける人数をもっと増やし、活動を広げてほしいです。」「今回のプログラムは大変意義のあるものでした。」「CSRをより深く理解でき、エプソンの企業理念もよくわかりました。」「講演者から多くの知識や概念を教えていただき、社員の皆さんも親切でした。」などの感想をいただきました。



ETT 総経理李隆安(後列右から2人目)と学生たち

※1 環境活動に関心を持っている学生のことをいいます。

## 環境技術

資源・エネルギー不足を背景に持続可能な社会・循環型社会への転換が求められます。エプソンは、これまでにプリンターやプロジェクター、電子デバイスなどの開発を通じて特有の技術を培ってきました。これらの技術を省エネ・リサイクルなどの環境保全や生態系・生物多様性の保全に役立てられるよう、幅広い分野に目を向けて調査・研究を続けています。

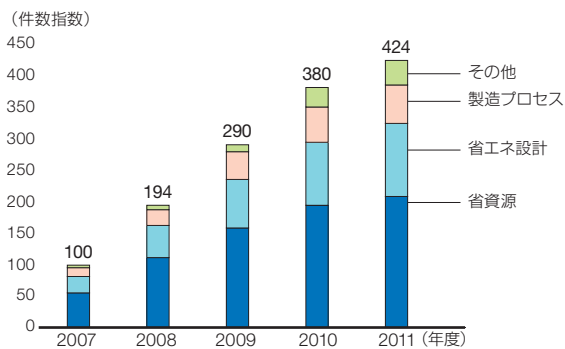
### 環境負荷低減のための「環境関連発明」

エプソンは、環境負荷の低減に顕著な効果を持つ発明を「環境関連発明」と位置付け、1998年より奨励しています。その目的は、環境負荷低減に役立つ技術の開発で業界をリードし、社会への貢献を果たすことにあります。

2011年度においても、「商品開発の基本方針」に基づき、環境に配慮した設計・製造プロセスなどに関する技術開発の成果を特許出願し、継続的に蓄積しています。

その一例として、2011年11月に発売されたインクジェットプリンター(国内向け「PX-434A」、海外向け「NX430」)では、環境関連発明の「ベースエンジンの小型化技術」「高集積レイアウト化技術」などを採用することにより、従来機種(国内向け2011年2月発売「PX-403A」、海外向け2010年5月発売「NX420」)と比較してそれぞれ約35%、約39%の小型化を実現し、環境負荷低減に大きく貢献しています。

### ● 環境関連発明の特許出願件数指数(累計)



Web 環境配慮型商品  
[http://www.epson.jp/SR/environment/lifecycle/think/case\\_design.htm](http://www.epson.jp/SR/environment/lifecycle/think/case_design.htm)

## アカウミガメの保護活動

エプソンは、生物多様性保全への貢献とセンシング技術応用のための検証を目的として、2010年6月より鴨川シーワールド(千葉県鴨川市)の「海亀の浜」や市内の東条海岸などで砂中温度の連続計測やアカウミガメのふ化検出などを行っています。30分ごと砂中温度を自動計測し、



ウミガメの卵の上部に置 センサーを設置している飼育員

かれた小型センサーによってふ化を検出します。得られたデータはメモリーに蓄積され、飼育員が砂中のモジュールから無線通信でデータ回収機器に読み込みます。この無線通信技術の最大の特長は、通常の技術では困難な土・水・砂の中からデータ通信ができることです。砂を掘り返すことなく自然環境を維持したままで、卵の生育環境の詳細な温度測定やガメのふ化日時の把握ができるようになりました。

2011年度は、東京農工大学と鴨川シーワールドの共同研究に技術の提供および人的支援を行い、砂の中の産卵巣の詳細な温度と卵の生育状況、子ガメの性別の関係を調査しました。担当の唐木伊助は、「砂中の環境状況の可視化には、雨・温度・塩分などの悪条件に耐え、高精度で安定した計測が必要だと考えます。今後はさまざまな環境の可視化に取り組んでいきたいです。」と語りました。



CS品質保証・環境推進部  
唐木 伊助



生育環境データを確認しているエプソン社員と飼育員

## 環境地域貢献

エプソンは、「社会とともに発展する開かれた会社」を目指し、地域に根ざした植林活動をはじめ、環境および生物多様性の保全につながるさまざまな地域貢献に継続的に取り組んでいます。

### 生物多様性とのかかわり

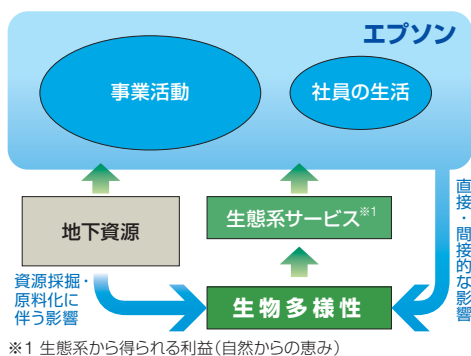
エプソンは「環境ビジョン2050」で、「生態系の一員として、地域社会とともに生物多様性の修復と保全を行います」と表明しています。特に、「事業を通して生物多様性の保全を行う」「生物多様性に対する社員の意識を高める」、この2つを重要な考え方としています。

生物多様性に影響を与える5つの要因は、気候変動、土地利用、外来種、過剰消費および汚染と考えられています。これらの要因は、温室効果ガスの排出、地下資源採掘に伴う土地改変、および環境中への化学物質の放出などと深く関係しています。エプソンが取り組む地球温暖化防止、資源循環・省資源、化学物質管理の活動は、生物多様性への影響要因を低減することにもつながっています。私たちがやるべきことは、今まで取り組んできた「事業における環境負荷低減活動」を着実に進めることです。

### エプソンと生物多様性

私たちの暮らしは生物多様性に支えられています。エプソンの事業活動と生物多様性の関係を考えると、私たちはさまざまな恩恵を受けるとともに影響も与えています。健全な生物多様性を保つことは、事業活動や社員の生活を維持する上でも重要だと考えています。

#### ● エプソンと生物多様性の関係



### 森林とのかかわり

エプソンの植林活動は、地球温暖化対策や地域貢献の一環として実効性のある活動を行うという考えのもとにスタートしました。また、適切な樹種の植林は、生物多様性および生態系の保全にも寄与すると考えています。

2011年度は、東南アジアや中国各地で植林を行いました。また国内では、2008年度から長野県諏訪市にある「神宮寺100年の森」計画を支援しており、社員参加型の森づくり支援活動を継続的に実施しています。



炭素交易経営模範森林プロジェクト(中国) 「神宮寺100年の森」計画(日本)

### 地域とのかかわり

エプソンは世界各国・地域の皆様に信頼される企業であるために、環境コミュニティーの醸成が必要だと考えています。2011年度は、事業所周辺の清掃活動、在来植物保護のための外来植物除去、廃電子機器回収・リサイクル、蓄積したノウハウで企業の省エネを支援する省エネパトロール隊など、さまざまな活動を地元の方とエプソン社員が協力しながら実施しています。



筆架山公園での外来種除去活動(中国)



リサイクルイベントに協賛(タイ)



台湾省エネパトロール隊(台湾)



十里塚海岸クリーン活動(日本)

## エプソンの人づくり

エプソンは、基本的人権を尊重し、差別のない、明るく、安全・健康で公正な職場をつくります

### 人材開発・教育

#### 人材開発の考え方

エプソンは、社員一人ひとりを「人財=企業が社会から借りている資産」と考え、経営理念を実現する原動力となるよう社員に自律と成長を促すとともに、「個」を最大限に活かす組織づくりを進めています。また、「ものづくり企業」として「人づくり」にも基本を置いています。

エプソンは、企業の目的と個人の目的の統合を前提に、自己実現の夢を持った社員を支援し、エプソングループを人で結び、支え、育てることを謳った「人材開発方針」を1996年に制定し、人材開発・教育を実施しています。

一人ひとりがエプソンというチームの一員として自分の役割や期待されていることを理解して課題に取り組み、仕事を通じて成長できるよう、また、一人ひとりが期待される役割を果たせるように、チーム内のコミュニケーションの質の向上、および課題解決のための思考力の向上につながる教育研修を実施しています。

 人材開発方針  
[http://www.epson.jp/company/epson\\_way/principle/human\\_policy.htm](http://www.epson.jp/company/epson_way/principle/human_policy.htm)

#### 管理職層の新人事制度

エプソンの目指す企業像は、お客様が考えている価値を超えるような「お客様価値」を創り続け、社会にとって

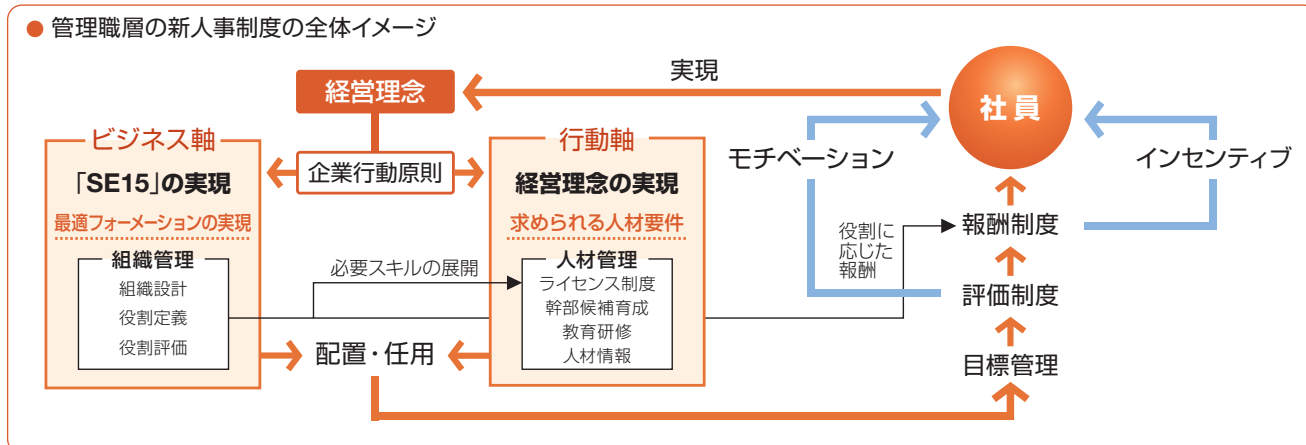
「なくてはならない会社」であり続けることです。

お客様価値を創造しそれを最大化するためには、組織やチームとして常に最大の力が発揮できるようなフォーメーションを組み上げ、その中で社員一人ひとりが期待される役割を全うしている状態を実現しなければなりません。そして役割を全うする中で、社員と会社の双方が成長できること、さらには、経営戦略の実現への個人の貢献が公平・公正に評価され処遇に反映されることも大切です。これらを実現するために、2012年度に管理職層の新人事制度を導入します。

#### マネジメント実践コース

管理職層の新人事制度を通じて目指すのは、①経営戦略の目的を正しく理解し、社内外の環境の変化に迅速、柔軟かつ適切に対応するマネジメント、および、②戦略実現のために果たすべき役割を組織や個人に展開し、適材を配置することで、所属メンバーを育成し成長を支援するマネジメント、この2つのマネジメントスタイルの確立です。

新人事制度への移行に先駆けて2012年1月より開講した本コースは、受講生が管理職層に求められる役割や期待を理解し、意志・意欲を持ってその役割に臨むために必要な知識・スキル・行動を身に付けられるよう設計され、また、単なる研修受講にとどまらず、学んだことの職場実践も含めた構成となっていることも特徴です。





## 海外マネジメント研修

「創って、作って、お届けする」バリューチェーンが世界中でスムーズに回るよう、2007年より東南アジアを中心に海外現地法人でエプソン共通のマネジメント教育を実施しています。2012年3月末までに567人が受講しました。現地管理職の社員を対象にスタートしましたが、近年は将来の管理職候補者層まで対象範囲が広がっています。

エプソン共通の価値観の再認識、管理職の役割、全社方針管理の具体的アプローチなどの教育を通じ、現地社員一人ひとりのマインドや行動に変革をもたらすとともに、エプソン流マネジメントスタイル(共通プラットフォーム)の浸透により、さらなる組織間の連携強化が図られています。



マネジメント研修(マレーシア)

また、2012年2月には、海外現地法人のミドルマネジメント層を対象とした「グローバル・インキュベーション・セミナー 2011」を開催し、23人が参加しました。このセミナーは、次代を担う各国・地域のビジネスリーダーを育成するとともに、各社のキー人材を通じてエプソンの経営理念を浸透・定着させる目的で1999年から行っています。

## 新入社員教育

入社後1年間を、仕事に対する基本姿勢および仕事の進め方を習得するための教育期間と位置付けています。

入社後2週間はビジネスの基礎を身に付ける目的で、主に会社の仕組み、財務諸表の読み方、人事諸制度、エプソン社員行動規範、エプソンバリューなどの必要知識を習得するほか、ビジネスマナーを学習し身に付けます。

引き続き、「ものづくり実践研修」において約2週間の体験教育を行います。プリンターや腕時計の分解組立、ヤスリ掛け・金鋸作業、生産管理教育、事業所見学などを通じて「仕事に対する基本姿勢」と「仕事の進め方」を学びます。



金鋸での金属切断実習

## 教育関係および社員構成データ

### ● 教育研修体系(国内)

	次世代 リーダー	資格・ 等級別	全社共通	専門	グローバル	現場 支援
役員						
事業部長	F1					
部長	F2					
課長	F3					
主事		マネジメント 実践コース				
主任		主任 研修				
C等級		C等級 研修				
新人		新人 研修				

### ● 社員構成

社員男女比率		管理職比率 <sup>※1</sup>		管理職の男女比率	
女性	18%	管理職	13%	女性	1%
男性	82%	一般職	87%	男性	99%

社員構成データは、セイコーエプソン(株)2012年3月末現在

※1 管理職は課長以上(国内外向課長以上を含む)

### ● 2011年度階層別研修受講実績(国内)

研修名	対象者	受講者数	受講率
新入社員入社時集合研修	新入社員	200人	100%
C等級研修	新規C等級格付者	207人	97.2%
主任研修	新任主任	264人	97.4%
新任課長研修	新任課長	75人	82.7%

\* 未受講者は2012年度に受講予定

### ● 2011年度に実施した主なeラーニング(国内)

研修名 <sup>※2</sup>	公開日	受講者数 <sup>※3</sup>
エプソン社員行動規範_後編	2011年 2月	15,436人
情報セキュリティ基本編(2011)	2011年 3月	19,696人
調達基礎(倫理・行動規範)	2011年11月	11,142人
J-SOX教育(2011年度版)	2011年12月	14,089人
環境基礎教育II(2011年版)	2011年12月	14,664人

※2 コンプライアンス教育

※3 公開日から2012年3月末までの受講者人数

## 実践を通して人を育てる「ものづくり塾」

ものづくり塾は、エプソンの原点である「ものづくり」を支えるため、見えざる資産である「技能とノウハウ」を伝える「人づくり」に取り組んでいます。

その中に、入社もない若手社員を短期間で国内トップレベルの製造基幹要員に育て上げる「技能道場」があり、早期育成の手段として技能五輪全国大会や国際大会に挑戦しています。技能五輪訓練を通じ、「心・技・体」を向上させるとともに、「創造と挑戦」の考え方や「目標達成に向けやり抜く精神」を身に付けます。全国大会出場は目標であり、目標に向かって計画・挑戦・振り返りを繰り返すことにより、自らの技能と行動を日々向上させています。

2011年度の技能五輪全国大会においては、金メダル1名、銀メダル1名、銅メダル1名と輝かしい成績を収めました。精密機器組立て職種で金メダルを取った矢島剣



2011年度技能五輪全国大会の入賞者  
(中央が矢島 剣汰)

汰は「3年間必死で頑張った結果が出て本当に良かった。技能五輪を通じて良い仲間と出会い成長できました。」と話しました。技能五輪訓練指導員の茅野

健一郎は「常に高い目標を持ち、考え、行動することで良い結果が生まれる。この訓練がエプソンのものづくりで必ず生きる。」と力強く語っていました。技能五輪訓練終了後の職場配属先からは「高度な技能を有し、仕事の依頼に対し素早い理解と対応で即戦力となっている。」「待ちの姿勢でなく、積極的に提案しながら業務を進めている。」といった感想が聞こえてきており、高い技能とともに訓練を通じて培われた精神力や仕事に向かう姿勢が現場の改善に活かされています。

これからも訓練生一人ひとりが将来のエプソンをけん引できる人財(核)として開花できるよう、実践型訓練を軸とした「人づくり」を進めていきます。



訓練生を指導する茅野 健一郎(右)

## 障がい者雇用

エプソンでは、障がいを持つ多くの社員が活躍しています。トイレや駐車場などの設備面での工夫に加えて、社内研修や昇格面接時の手話通訳の用意など、制度面での配慮も行っています。また、より働きやすい職場環境や障がいの特性に応じた職種を確保して雇用や配属を円滑に行うために、障がい者雇用を目的とする特例子会社のエプソンミズベ(株)、(有)エプソンズワンを設立しました。

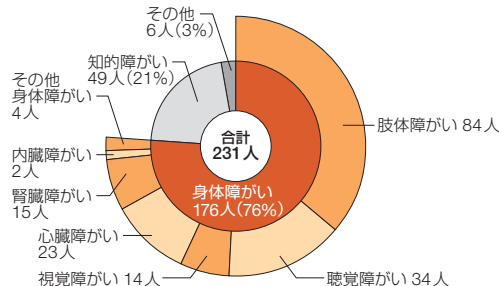
2011年障がい者技能競技大会長野県大会には、働く仲間の応援を受けながら日々の努力を積み重ねたエプソンミズベ(株)の社員8名がチャレンジし、全員が上位入賞を果たしました。選手の一人である榎原早翔(写真後列中央)は「とても緊張したが、金賞が取れて良かった。もっと練習し、2012年10月に長野で開催される全国大会(アビリンピック)で上位入賞を目指し、仲間の期待に応えたい。」と、とても意欲的です。

自身のスキルアップに加えて職場の結束も高まり、生き生きとした職場づくりにも役立っています。

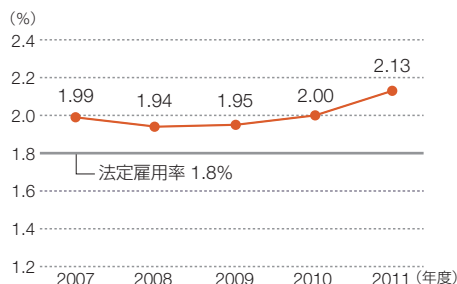


2011年障がい者技能競技大会長野県大会の入賞者

### ● 国内グループの障がい者構成



### ● 国内グループの障がい者雇用率推移



## 公平な職場づくり

### 差別や不当労働、不正の撤廃

エプソンは、あらゆる差別や不当労働を全世界で排除・撤廃する活動に積極的に取り組んでいます。2004年に国連グローバル・コンパクトに署名し、その姿勢を明確にしました。さらに2005年に制定した「人権と労働に関する方針」では、人権の尊重、ハラスメント排除、あらゆる差別の排除、地域の文化・慣習の尊重、児童労働や強制労働の禁止、良好な労使関係の維持などを明文化し、グループ内に公開・徹底しています。

2011年度にハラスメント相談窓口寄せられた相談件数は27件で、個人情報の保護を厳守し、対応しています。そのほかに遵法ヘルプライン、従業員相談室など各種窓口も設置しています。また、信頼経営推進会議での定例報告や社内広報掲載による注意喚起などにより、不正の未然予防・再発防止に努めています。

 人権と労働に関する方針  
[http://www.epson.jp/company/epson\\_way/principle/human\\_rights.htm](http://www.epson.jp/company/epson_way/principle/human_rights.htm)

### 男女雇用機会均等の取り組み

当社は、男女の雇用機会均等施策に早くから取り組んでいます。1983年には男女の賃金格差を完全に廃止し、出産・育児休職後の復職率は制度導入以来95%（2011年度は98%）となっています。また女性の勤続年数は22.7年と、男性の勤続年数18.7年を上回っています。

#### ● 育児休職取得者の推移

年度	育児休職取得者数				介護休職取得者数
	全体 <sup>※1</sup>	女性	女性の取得率 <sup>※2</sup>	男性 <sup>※3</sup>	
2011	66人	55人	98%	11人(10人)	2人
2010	82人	64人	100%	18人(15人)	2人
2009	74人	53人	100%	21人(20人)	0人
2008	73人	62人	98%	11人(10人)	4人

※1 健やか休暇を含めた人数

※2 育児休職取得者数/制度対象者数

(制度対象者：本人に子供が生まれ、育児休職が取得可能になった者)

※3 ( )内は健やか休暇取得者数

 健やか休暇  
[http://www.epson.jp/SR/our\\_people/fairness/index.htm#sukoyaka](http://www.epson.jp/SR/our_people/fairness/index.htm#sukoyaka)

### 労働時間管理

エプソンは長時間労働を防止するため、時間外労働に関する運用マニュアルを作成し運用徹底を図るなどの適

法対応に加え、在社時間管理の全社展開や重点管理者のフォロー、労働時間適正化のための啓発活動など、労働時間の適正化に向けてさまざまな取り組みを行っています。

### ワークライフバランス促進の取り組み

当社は、次世代育成の観点も含めて社員が安心して働き続けられるよう、仕事と生活の両立ができる環境づくりを推進しています。

週1回以上の定時退社日の徹底、子供参観日を開催する事業所の増加など、制度の定着も進んでいます。その結果、当社は次世代支援対策に取り組む企業として、2期連続で次世代育成支援対策推進法に基づく「基準適合一般事業主」に認定されています。

また2012年4月には「第四期一般事業主行動計画」を策定し、2015年3月末までに「誰でも安心して子供を育てられる環境づくり」、「仕事と家庭の両立のための情報提供」などを実施する予定です。

今後も仕事と生活の調和を推進するための施策を展開していきます。



次世代認定マーク「くるみん」

### 労使創造

当社は、労使の関係を「労使創造」と位置付け、働き方や次世代支援、福利厚生、賃金など、さまざまな課題について労使委員会を設置し、労使双方で課題の解決を目指しています。当社は、ユニオンショップ制を採用しています。

#### ● 主な福利厚生制度（国内）

分野	制度の内容
育児	育児休暇、育児短時間勤務、育児休職、在宅ケアサービス
介護	介護休暇、介護短時間勤務、介護休職
老後	退職金（確定拠出年金制度、確定給付企業年金制度（年金基金））、財形年金貯蓄奨励金 など
健康	健やか休暇、私傷病休職、企業内理療（マッサージ）、脳ドック補助、人間ドック補助、傷病手当付加金、出産育児手当付加金 など
教育	国家試験合格助成、業務上の通信教育受講、自主研修会助成 など
住宅	社宅・独身アパート貸与、財形住宅貯蓄、財形住宅融資 など
通勤	通勤費（定期券、ガソリン代、高速道路、有料道路 など）
保険	団体契約保険、企業団体扱い保険
その他	ライフプラン研修、社員食堂、職場活性化補助金 など

# 労働安全衛生

企業活動の基盤として、労働安全衛生に取り組んでいます

## 労働安全衛生の考え方

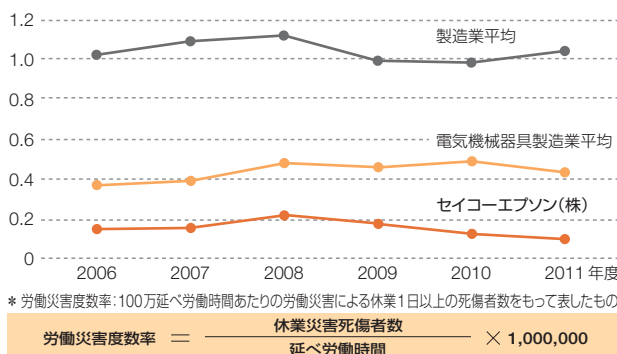
エプソンは、世界のすべての社員が安心して働ける安全衛生環境の維持向上と、社員一人ひとりが健康でいきいきしていることが企業体質の根幹を成すものと考え、「安全・安心は会社の生命線」の社長宣言のもと、全世界で労働安全衛生活動を推進しています。

エプソンは、2000年度より国際労働機関（ILO）の指針に準拠した労働安全衛生マネジメントシステム（OSHMS）をベースに、「安全」「衛生」「防火・防災」を3本柱とした独自の労働安全衛生マネジメントシステム「NESP（New EPSON Safety & Health Program）」を構築し、ワールドワイドに展開しています。また2011年度からは、本社主導の推進体制から事業ごとの業態・地域性に即した各拠点の「自走化」へと、変革を始めています。

### ● NESPの位置付け



### ● 労働災害度数率推移（国内）



## 事故・労働災害撲滅への取り組み

エプソンは、世界各国・地域の製造拠点においてそれぞれNESP活動を積極的に展開し、事故・労働災害撲滅に取り組んでいます。

### ■ EPPIでの取り組み

Epson Precision (Philippines) Inc. (EPPI / フィリピン)は、NESPの自走化活動を「EPPI Special Safety Project (ESSP)」と名付け、現地社員が主体となって、独自のアイデアを盛り込んだ活動を展開しています。例えば、全社員が容易に理解できるよう、英語だけでなく現地語（タガログ語）による安全衛生情報を壁に掲示するなど、社内啓発に工夫を凝らしています。



タガログ語による安全衛生情報の掲示

### ■ ETTHでの取り組み

Epson Toyocom (Thailand) Ltd. (ETTH / タイ)は、熱心な5S<sup>\*1</sup>活動が認められ、2012年2月に泰日経済技術振興協会（TPA）主催の「Thailand 5S Award 2011」において、最高賞であるDiamond賞を受賞しました。

5S専門委員会のリーダー Nutchaya Surasriは、「5Sは私たちが毎日飲む『水』と同じように、欠かせない重要なものです。5S活動を絶えずレベルアップし、エプソン No.1の製造拠点を目指していきます。」と意気込みを語っています。



5SリーダーのNutchaya Surasri

\*1 整理、整頓、清掃、清潔、躰

## 「安全ニュース」による啓発活動

エプソンは、国内や海外事業所で発生した労働災害や事故について、その発生状況・原因分析・対策を編集した「安全ニュース」を発行しています。

「安全ニュース」は社内イントラネットや掲示板に掲載され、同じ轍を二度と踏まないためのツールとして活用されています。



掲示板による活用例(ブラジル)

## 防火・防災の取り組み

無災害企業を宣言し地域防災に貢献できる企業であるためには、まずエプソングループから災害を出さないことが前提です。「自分たちの会社は自分たちで守る」をスローガンに、自衛消防団を組織しています。

毎年8月31日を「エプソンの防災の日」と定め、広域的な災害発生に備え統一したシナリオ・企画に基づいて、安否確認をはじめとする情報伝達訓練など、グループ全体で防火・防災訓練を実施しています。



自衛消防団の訓練の一つとしての操法大会(国内)

## 天津市の「消防の日」に参加(TEL)

Tianjin Epson Co., Ltd. (TEL/中国)の自衛消防団は、2011年11月9日に開催された天津市の「第21回消防の日」宣伝活動に参加し、操法を実演しました。これは、地元消防局の要請を受け、地元製造企業の代表として参加したものです。整然とした操法の様子は、見学した市民と天津市消防局の大きな称賛を受けました。



操法実演中のTEL自衛消防団員

## 心と体の健康づくり

### 「健康エプソン21」の展開

当社および国内グループ会社は、作業関連疾患の予防と健康の保持・増進のための中期計画「健康エプソン21」に沿って健康管理を推進しています。2011年度は、健康状態をより的確に把握するため、最新の医学的知見に基づき健康診断の判定基準の改訂を行いました。それに伴い、新しい判定基準の判定区分に応じて適切な事後措置を実施できるよう、就業上の措置と保健指導に関する要綱の見直しも行いました。これにより事業所ごとに社員の健康課題を抽出し、予防に重点をおいた活動を行っています。

### 健康管理支援システムの構築

当社および国内グループ会社は、2010年度より3カ年計画で健康管理支援システムを構築しています。2011年度は、健康診断結果を各自がパソコン画面で閲覧できるようにしました。2012年度は、健康診断の予約機能や問診、職業性ストレス診断がシステム上でできるようにします。

今後も社員自らによるセルフケア、管理監督者によるラインケア、医療スタッフによるケアをスムーズにサポートするため、健康管理支援システムの充実を図っていきます。



健康管理支援システムのTOPページ

### 食中毒の発生と対応

2011年9月に、当社広丘事業所イノベーションセンター内の委託業者が運営する食堂で、200名近い集団食中毒が発生しました。保健所の指導に従い、広丘事業所の厨房の衛生管理を改善するとともに、日本国内の事業所にある食堂施設30箇所での厨房の衛生管理について緊急自主点検を行いました。

## 組織統治

ステークホルダーの皆様に対する経営の高い透明性と健全性を確保し、信頼経営を実践するために体制を整えています

### 企業統治体制（コーポレート・ガバナンス）

エプソンは、コーポレート・ガバナンスにおける基本的な考え方を、企業価値の継続的な増大と、経営のチェック機能の強化や企業倫理の遵守を実践した経営の高い透明性と健全性の確保、としています。

当社は、現在、取締役会および監査役会を設置しております。取締役会は、有価証券報告書提出日現在において10名の取締役で構成され、毎月1回および必要に応じて随時開催し、経営の基本方針、重要な業務執行、決算および適時開示などに関わる事項について意思決定を行います。なお、2012年6月に開催しました定時株主総会において、社外の視座と見識を経営に積極的に取り込むことを狙いとして、新たに社外取締役を選任いたしました。

また、社長の諮問機関として各種経営会議体を設置し、適切な意思決定のための審議を図り業務執行の充実に努めております。

### 内部統制システムの整備状況

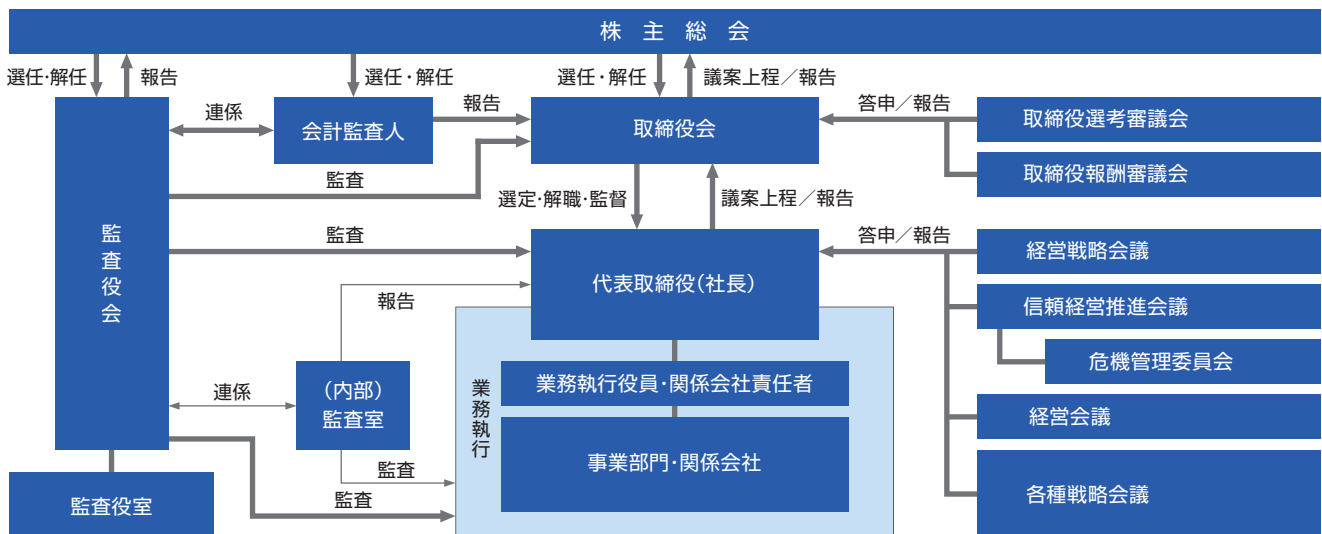
当社は、「経営理念」を経営上の最上位概念として捉え、これを実現するために「企業行動原則」を定め、グループ全体で共有しています。内部統制システムの整備は、「企業行動原則」に基づいて各主管部門が整備活動を推進する一方、全体的な整備状況を全取締役および監査役が信頼経営推進会議で把握し、グループ全体の内部統制システムの整備レベルが着実に向上するよう努めています。

「企業行動原則」は、エプソンが大切にしている価値観をベースに、企業に対するさまざまなステークホルダーからの要請や期待の変化を見据えて、エプソンが社会から信頼される企業であり続けるための9つの基本原則を定めたものです。

Web 「IRライブラリ(有価証券報告書、ガバナンス報告書)」  
<http://www.epson.jp/IR/library/>

Web 「企業行動原則」  
[http://www.epson.jp/company/kodo\\_gensoku.htm](http://www.epson.jp/company/kodo_gensoku.htm)

#### ● コーポレート・ガバナンス体制の模式図



## 遵法経営・リスクマネジメント

エブソンは、企業行動原則の「1.倫理的な行動と遵法」に従い、遵法経営を実践しています。

エブソンの遵法経営は、各事業の責任者が担当事業において関係子会社を含め実施し、グループ横断的なテーマについては、本社主管門が各事業と協働して推進する体制としています。

リスクマネジメントは、全社重要リスクの抽出・特定およびその制御活動の状況管理を行い、重要リスク発現時には所定の危機管理プログラムに従い、全社的に速やかな初動対応をとる体制としています。

遵法経営とリスクマネジメントに関する事項は、信頼経営推進会議でこの状況確認・課題認識・施策展開を審議しています。また社長は、定期的に取り締役に報告するとともに、必要に応じて対策を講じています。

エブソンでは遵法経営を推進する仕組みとして、社内相談・通報窓口「遵法ヘルプライン」、その他の各種相談窓口を設置しています。

### 各種相談窓口

- 遵法ヘルプライン（監査室）
- ハラスメント相談窓口（人事部）
- 長時間労働相談窓口（人事部）
- 従業員相談室（総務部）
- 労働組合相談窓口（労働組合）

### 「遵法経営」の浸透活動

エブソンは、社内に遵法経営を浸透させるため、さまざまな活動を展開しています。

社内講師による遵法研修では、企業人に必須の法律知識を網羅的に紹介する研修のほか、著作権法や独占禁止法など、テーマを絞った個別の研修も行っています。また、新入社員研修や新任主任研修・課長研修においても遵法に関する課目を設けています。独占禁止法に関する研修の受講者からは、「具体例があったため、危機感を感じながら真剣に受講できた。理解したことを今後の業務に活かしていきたい。」という声が寄せられています。

経営層に対しては、社外より専門家を講師として招き、独占禁止法に関する研修会などを行っています。海外現法においても、各地の状況を踏まえたルール作りや遵法教育などの諸活動を展開しています。

また、ビジネスに関する遵法ガイドブックをイントラネットに掲載、各主管部門が作成した遵法教育の教材をeラーニングとして社員に提供するなど、社員がいつでも容易に遵法に関する知識を得られるようにしています。



独占禁止法研修(島内事業所)

### 内部監査

社長直轄の監査室は、事業部および子会社に対して、有効性・効率性ならびに遵法の観点で監査を実施し、問題点についてはフォローアップ監査により改善状況を確認しています。また、グループガバナンスの観点から、欧州・米州・中国・東南アジアの各地域統括会社の監査部門より監査結果報告を受け、グループ全体の内部監査を統括しています。

### 財務報告にかかわる内部統制

財務報告の信頼性を確保するための内部統制（J-SOX）の監査を、毎年実施しています。監査対象の当社事業部および子会社は、内部統制の整備・運用を自己評価し、J-SOX主管部門が評価結果の有効性を担保する、「自律分散型」の評価を採用しています。監査対象外の当社事業部・子会社・関連会社は、内部統制の自己点検を実施し、改善を図っています。

また、社員のJ-SOXに対する意識向上を目的としたJ-SOX教育（eラーニング）をグローバルに実施しています。

### 貿易管理の取り組み

エプソンは、世界各国・地域に生産拠点・販売拠点を設け、グローバルに事業を展開しており、エプソンのお客様・お取引先は全世界に広がっています。お客様にエプソンの商品やサービスをタイミングよくお届けするために、貿易を円滑に行うことが不可欠です。

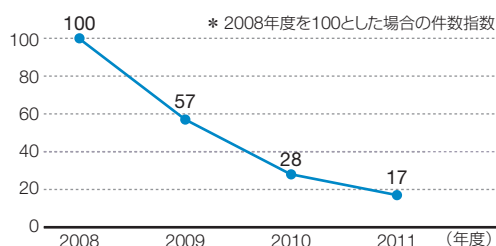
一方、国際社会には平和と安全を維持するために、さまざまな貿易管理の条約や枠組みがあり、国際社会の一員としてこれらを遵守することが求められています。

これらを踏まえ、エプソンは貿易管理の体制を整え、円滑な貿易の実施に総合的に取り組んでいます。この結果、国内外の関係当局が設けた貿易管理に関する制度やプログラムにかなう企業として、以下のような認証を受けています。

会社名	制度／認証官庁
セイコーエプソン(株)	一般包括許可取得企業(経済産業省)
セイコーエプソン(株)	特定輸出者(財務省 税関)
Epson America Inc.	C-TPAT*1パートナー(米国税関)
Epson Portland Inc.	C-TPAT パートナー(米国税関)
Epson El Paso Inc.	C-TPAT パートナー(米国税関)

※1 米国への輸入貨物ならびに輸入経路のセキュリティ強化を目的に定めたプログラム

### ● 通関時の訂正・修正の年度推移



## エプソンのセキュリティ

エプソンは「企業行動原則」に人・資産・情報のセキュリティを謳い、人と企業資産の安全を確保し、すべての情報管理において厳重な注意を払って行動することと定めています。社員をはじめ、来社中の皆様の安全が確保できるセキュリティ体制を整え、すべての資産を適切に管理するとともに、他者が有する資産を尊重する、個人情報・機密情報を厳重に管理し情報漏えいを防止するなど、社員一人ひとりがそれぞれの立場でセキュリティの重要性を認識し、実践できる推進体制を構築しています。

### 物理セキュリティ

エプソンではさまざまな物理セキュリティ強化活動を推進しています。そのキーアイテムは、非接触型ICカード(エプソングループ第3世代IDカード、以下「G3-IDカード」という)です。G3-IDカードは、入退場・入退室における認証や食堂・売店での決済などに利用され、独自に社内開発したシステムで管理・運用しています。

社員およびパートナー向けに発行されるG3-IDカードは、使用後回収し、すべて裁断して廃棄していましたが、使用済みカードの廃棄を問題と考え、使用期間が短いカードの表面に専用シールを貼り再利用する運用に切り替えました。この対策により回収されたICカードを繰り返し使用できるようになり、廃棄物削減と費用削減の効果を上げることができました。

エプソンではこのようにして、環境負荷低減と物理セキュリティ向上にグループ全体で取り組んでいます。



外部人材用G3-IDカード印刷作業

### 情報セキュリティ

エプソンは情報セキュリティについての基本姿勢と遵守すべき内容を、「グループ情報セキュリティ基本方針」として定めています。グループを構成する一人ひとりが情報セキュリティの重要性を認識し、その考え方を実務に反映した情報セキュリティガバナンスと企業風土作りを推進しています。

2011年度は、情報セキュリティの達成状況を各事業体が自主的に評価し、さらに事業体の情報セキュリティにかかわるリスクマネジメントが確実に実施されていることの確認と管理策の整備・運用状況を評価し助言するグループ内部監査をすべての国内事業体で実施しました。



また、活動の水平展開と進捗管理を目的に、各事業体の情報セキュリティ推進責任者が集まり、推進連絡会を3回開催しました。

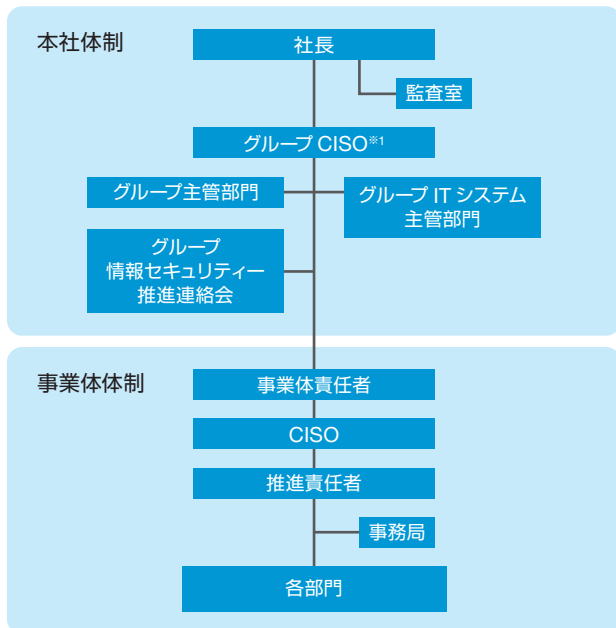
教育面では、7月の「情報セキュリティ強化月間」に、各職場においてサーバーの共有フォルダのアクセス権見直しや、USBメモリーなどの外部記憶装置を利用した業務の洗い出しとリスク把握などを行いました。さらに、強化月間を契機に月刊「情報セキュリティニュース」を再刊行し、家庭のパソコンを使用するときのセキュリティ面での注意事項を記載し始めました。あわせて、役員を含む対象者全員がeラーニングを受講しています。また、部課長教育も引き続き実施しています。

海外では、Epson Engineering (Shenzhen) Ltd. (ESL / 中国)をはじめ中国地域の9社に情報セキュリティ教育を実施しました。



情報セキュリティ教育 (ESL)

#### ● 情報セキュリティ体制図



※1 Chief Information Security Officer: 情報セキュリティ統括責任者

Web 情報セキュリティ基本方針  
<http://www.epson.jp/company/securitypolicy.htm>

#### ITシステムセキュリティ

工場での製造工程におけるUSBメモリーウイルス感染を契機に、工場PCに関するセキュリティ基準を制定しました。

ISMS 認証 (情報セキュリティマネジメントシステム 認証) を取得済みのエプソン販売株式会社、データセンター、ビジネスシステム事業部では、引き続きこの認証の運用 (更新) を行っています。

#### 個人情報保護

他社の大規模な顧客の個人情報漏えい事故を受けてグループ各社の管理状況を確認しているさなか、韓国の法人においてウェブサイトがハッキングされ、ID・パスワード・氏名・住民登録番号が漏えいしました。

本件にかかわるウェブサイトのセキュリティ強化策を実施するとともに、グループ各社のウェブサイトと同様の問題がないかを確認し、必要な対策を実施しました。

#### 知的財産保護

エプソンは、正当な権利を保護するという立場から、有する特許権および商標権などの無断使用については、法律に基づいてしかるべき措置をとっています。

また、世界各国・地域での知的財産権制度の普及活動の一環として、中国においてEpson (China) Co., Ltd. (ECC / 中国) が知的財産権報道研修プロジェクトを2007年から実施しており、今後も継続的に推進していく予定です。このプロジェクトは、中国国内で知的財産権のプロを育成し、中国メディアへ知的財産権に関する知識の浸透を図るとともに、正確で客観的な報道を促すことを目的として活動しています。



記者へのスピーチを行うECC小池社長



知的財産権報道研修 (ECC)

# CSR調達

公平公正・共存共栄を基本に、調達先とともに継続的な発展を目指します

## CSR調達の考え方

### ビジネスパートナーとの信頼構築

エプソンは、公平公正・共存共栄を基本に、世界各国・地域のビジネスパートナーと相互信頼関係を築き、ともに発展していくことを目指した調達活動を展開しています。また市場に届ける商品の品質はもちろんのこと、サプライチェーン全体において、人権・労働・環境側面などが適切な水準にあることも商品・サービスに対する責任の一部であると考えており、このため調達先とともにCSR活動を推進していくことが重要であると認識しています。また品質・価格・環境配慮など、すべての面で優れた商品・サービスをお客様にお届けし続けるためには、信頼できる調達先の存在が不可欠であり、調達先と透明、公正な取引を通じて信頼関係の構築に努めています。

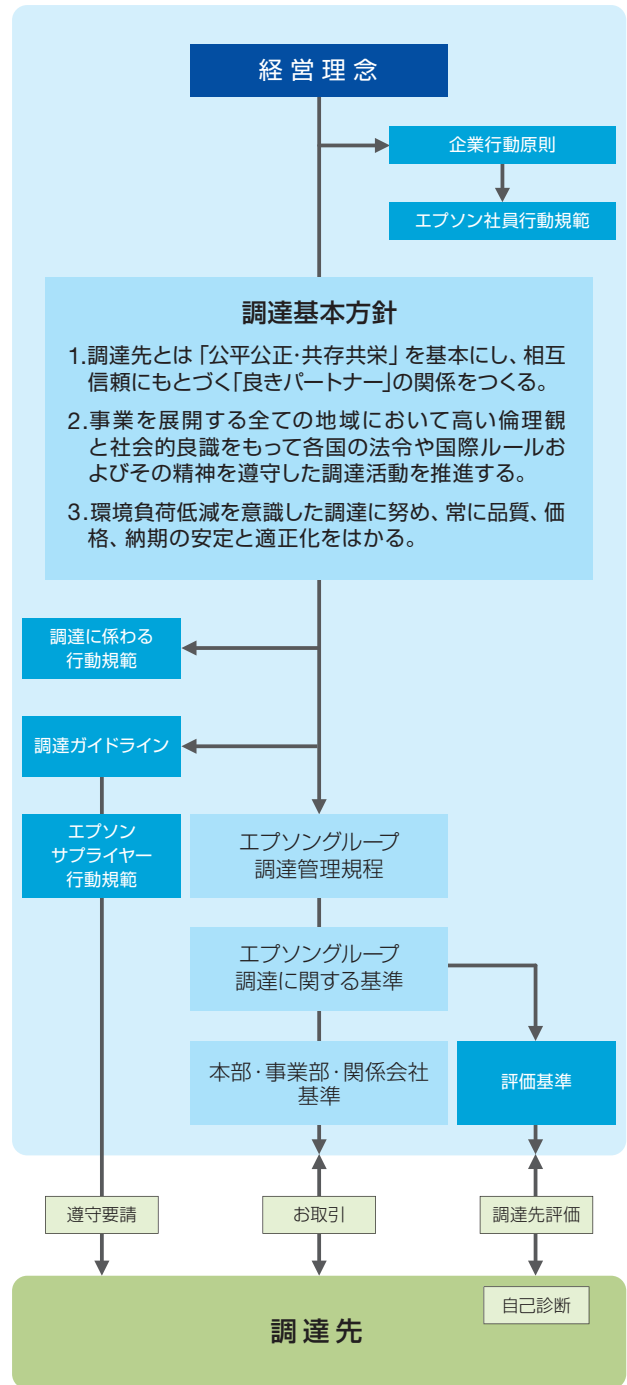
エプソンは、このパートナーシップがあって初めて、国際社会・地域社会の中で共感に裏付けられた「調和ある発展」が可能になると考えています。

### 調達基本方針と調達ガイドライン

世界各国・地域のビジネスパートナーにエプソンの基本理念をご理解いただくため、「調達基本方針」に基づき、児童労働・強制労働の禁止、人権の尊重などの法令や社会規範、企業倫理、環境保全、安全衛生などの要件を盛り込んだ「調達ガイドライン」を定め、この「調達ガイドライン」にのっとった持続可能な調達活動を展開しています。

サプライチェーンでの人権・労働・環境などを含めた総合的な商品・サービスに対する企業の責任についても、ステークホルダーの関心が高まっています。エプソンの商品・サービスにかかわるという観点から、調達先にもエプソンに準じた取り組みをしていただく必要があると考え、2008年4月に「エプソンサプライヤー行動規範」を制定し、遵守をお願いしています。

### ● 調達に関する体系図



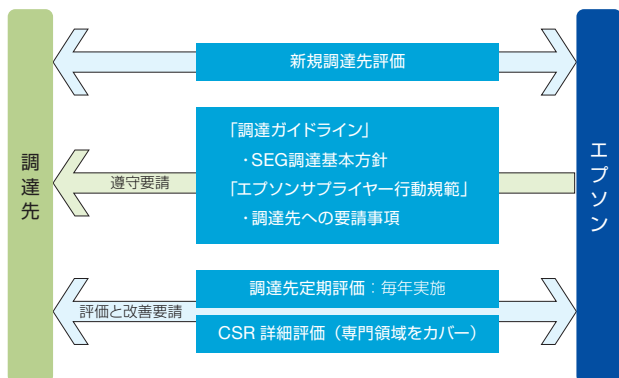
Web お取引先の皆様へ  
<http://www.epson.jp/SR/procurement/>

## CSR 調達に関する取り組み

エプソンは、CSR調達に関する取り組みの一環として、調達先に対して品質や納期などの管理体制やCSRへの取り組みなどを定期的に確認させていただき総合的に評価する「調達先定期評価」を毎年実施しています。2011年度は約950社に自己診断をお願いし、そのうち約50社の調達先へ直接出向き、状況を確認させていただきました。

この「調達先定期評価」は以前から実施されていましたが、CSRに関する評価項目が不足していたためCSRの詳細評価を組み入れ、必要に応じてCSR詳細評価を実施することとしました。調達先にこの評価結果を報告し、必要により改善要請事項の提示と改善要請を行い、サプライチェーンにおけるCSR活動を実践しています。

### ● 調達先評価の枠組み



また2011年は、過去にない激甚災害に見舞われた年となり、東日本大震災、タイ洪水などの発生を教訓に、調達先危機管理活動として調達における事業継続計画（BCP）の再構築と重要取引先への安全確認巡回をスタートさせました。

今後もこれらの活動を通じて、品質・価格・納期の面においても、CSRの面においても高いレベルで統制されたサプライチェーンの構築を目指していきます。

## 遵法管理への取り組み

調達活動において法令・社内規程の違反や倫理的に不適切な行為があれば、それまで築いてきた信頼を失い企業全体が深刻なダメージを受けます。

エプソンは事業活動の前提である遵法管理について、日本国内における独占禁止法・下請法、あるいは関税法など世界各国・地域の関連法令および社会規範を遵守して、公正かつ自由な競争を尊重した調達活動ができるよう、継続的な社内教育および監査を行っています。

エプソンは、毎年10月を「信頼経営推進月間」と定め、その一環として、一般社員にも調達に関する最低限の知識を身に付けてもらうため、eラーニングを用いて「調達基礎（倫理・行動規範）」および「下請法基礎」の教育を全社員に行っています。

また調達業務には、調達部門だけでなく、設計・技術など幅広い部門がかかわっています。全員が会社を代表する自覚と責任を持って調達活動にあたるため、行動規範や各種法令をより深く理解することが重要です。その仕組みとして、調達先と価格交渉などを行う各部門の調達業務従事者、およびその決裁者は、調達・遵法管理研修を受講し認定された者でなければならないと社内規程に定めており、現在までに約15,100名が認定を受けています。

これらの教育活動を通して、社員が自ら遵法管理の重要性を認識し、自己規律に満ちた職場文化を醸成することが、ステークホルダーから信頼される調達活動の推進につながると考えています。



調達・遵法管理研修(本社事業所)

## 社会貢献活動

良き企業市民として、社会貢献活動を積極的に展開しています

### 社会貢献活動の考え方

エプソンは、経営理念に謳う「世界の人々に信頼され、社会とともに発展する開かれた会社でありたい」の言葉を受け、2004年に「社会貢献活動方針」を制定しました。世界各地でそれぞれの地域社会に根ざした活動を通して、社会との共生を進めています。

企業に対してより高い社会性が求められていることを社員一人ひとりが自覚し、良き企業市民として今後も積極的に社会に貢献し、ともに発展できる関係を作っていきます。

また、単に寄付だけの支援に終わることなく、エプソンの事業を支えている画像・映像をベースとする技術力・ノウハウを社会に還元するなど、本業を通じた貢献も重視しています。社員による人的貢献による支援も含め、今後も継続的に社会貢献活動を実践していきます。

2011年度の活動全体を金額換算すると約5.8億円となりました。なお、当社は現在政治献金は行っていません。

### 社会貢献活動方針

1. 重点活動分野で世界各地の状況に即した貢献活動の推進
2. 一市民としての社会参加の促進と支援
3. 特徴ある貢献活動の推進
4. 社会とのコミュニケーション重視

### 青少年教育・育成活動

#### エプソン奨学財団

エプソンは、世界各国・地域の教育・学術・文化の振興、環境活動、さらに地域社会の発展に寄与することを目的として、財団活動を展開しています。

香港では主に環境保護を目的に外部環境団体との連携

活動を行っています。

日本では、アジア諸国の発展と人材育成・学術振興を目的として、アジア諸国からの留学生に対する奨学金の支給や国際的な教育・学術・文化交流事業に対する助成などを行っています。

韓国では、中学生への奨学金の支給、パソコンなどの教育機器の提供をしています。



奨学生採用式（日本）

#### エプソン情報科学専門学校

当社は、高度情報化社会の到来を受け、地域社会に信頼され広く社会に貢献できる技術者を育成することを目的として、1989年にエプソン情報科学専門学校を開校しました。

本校は、開学以来の教育理念として「三心・三共・三学」を掲げています。すなわち、三心（通いあう心、信じあう心、ひたむきな心）、三共（共鳴、共感、共働の感性）、三学（自学、究学、徹学の態度）です。単に知識や技術を身に付けるだけではなく、人として大切な人間性を育成することも重要な教育方針と考えています。学校設立後、卒業生は2,000名を超え、多方面で活躍しています。

青少年の教育・育成は当社社会貢献の重点活動分野の一つであり、心・技・体ともに兼ね備わった人材の育成を目指しています。



講義を受ける生徒たち

## 画像・映像技術を活かした活動

### 写真プリントを通じた被災地支援

「東日本大震災によって被災した岩手県大槌町から、町の復興を応援してくれたすべての人へ。子供たちの元気いっぱい姿を通じて、感謝の気持ちを伝えたい。」エプソンは写真はがきのプリントを通じて、そんな町の想いをカタチにするお手伝いをしました。

2011年11月、大槌町内4小学校合同のロードレース大会が開催され、エプソン販売(株)の社員が現地に機材を持ち込み大会の様子を撮影し、その場でプリントしてはがき作りを行い、参加した児童全員に記念写真をプレゼントしました。

後日、集合写真のポスターや、「大槌町からありがとう」のロゴ入りはがきを贈呈しました。いつの日か、子供たちの笑顔とともに、このはがきが全国の人々に届くことを願っています。



リアルタイムにレース状況を掲出



「ありがとう」のロゴ入りはがき

### ムーミンの原画をデジタルアートとして再現

Epson Europe B.V. (EEB / オランダ) は、2011年7月からフィンランドのタンペレ市立美術館が所蔵する世界的に人気の高い「ムーミン」の原画を、エプソンのデジグラフィーファインアートとして再現しています。

エプソンのデジグラフィーファインアートとは、EEBが提案する芸術作品の形態の一つで、作品の出力にはエプソンの高精細インクジェットプリンターが使われています。

タンペレ市立美術館には、これまで世界中の美術館から「ムーミン」原画の貸し出し要請がありましたが、輸送中の事故や湿度の変化による劣化などのリスクがあるため、すべてに対応することはできませんでした。しかし、アナログ原画の持つ筆使いや質感、陰影などを忠実に復元したエプソンのデジグラフィーを活用することにより、こうしたリスクを心配することなく、原画の持つ芸術的な価値を

世界中の多くの人々と共有する機会を増やすことができました。



ムーミン原画のデジグラフィーファインアート 再現作品  
(タンペレ市立美術館)

### タンザニア世界遺産支援

Epson Europe B.V. (EEB / オランダ) は、大判プリンターの寄贈を通して、タンザニア中央部コンドア州に点在する壁画保全の支援を行いました。

動物や昆虫などをモチーフとした幾何学的な図の壁画は数千年以上も前に描かれたものとみられ、ユネスコ世界遺産にも登録されています。しかし近年は経年による風化、落書きや破壊などでこの貴重な壁画が傷んできており、その保全が必要とされていました。エプソンの大判プリンターを使用して現地のNGOメンバーが壁画を印刷し、訪れた観光客などに販売することで得た収益金を壁画保全や地域住民のために活用しています。

エプソンのプリンターが間接的ながら、世界遺産の保存に役立っています。



壁画に見入る観光客



エプソンが寄贈した大判プリンター



再現された壁画

## 環境・地域活動

### 使用済みバッテリーのリサイクルで社会貢献

Epson Precision (Philippines), Inc. (EPPI / フィリピン)は、環境保全と地域への社会貢献を目的に、フィリピンの大手バッテリーメーカーが主催する「Balik\*1 Battery Program」に参加しています。このプログラムは、使用済みバッテリーを回収して換金し、フィリピン国内の教育支援に役立てる活動です。



収集したバッテリーとEPPI社員

EPPIは2010年から同プログラムに参加し、これまでに合計約3,280kgのバッテリーを回収しました。換金額は77,159フィリピン・ペソ(約14.2万円)にのぼります。この資金を活用して、バタンガス州リパ市のLodlod小学校とKayumanggi小学校に、絵本や教科書、参考書などと一緒に本棚やテーブルを寄贈しました。これらを備えた部屋は「学習資料室」として活用されています。



教科書を手に笑顔の子供たち



本の読み聞かせに聞き入る子供たち

活動に参加したEPPIのJoyce Tanは、「この取り組み自体はとても単純なものですが、教科書を手にした子供たちは勉強できる喜びに目を輝かせており、将来の可能性も大きく広げることができました。」と語っています。



EPPI Joyce Tan

\*1 フィリピン語で「戻る」や「再び」を意味する。ここではリサイクルの意として用いられている。

### 森林整備・地域クリーン活動

エプソンは、社員一人ひとりの力を結集して世界各国・地域で植林活動を行い、地球温暖化防止および生物多様性保全などへの貢献を推進しています。また、一市民として自主的かつ積極的に地域社会活動に参加する風土を醸成するために、事業所周辺の清掃活動を行っています。

#### ● 主な森林整備・地域クリーン活動事例

地域	活動名
日本	ヤマメの森植樹活動
	川南工業団地クリーン活動
	諏訪湖アダプトプログラム(湖畔清掃)
中国	龍城公園植樹活動
	中山公園環境保全クリーン活動
	無錫地域クリーン活動
台湾	林美山植樹活動
タイ	Kao Yai 国立公園植樹活動
インドネシア	Setokok 海岸植樹活動
米国	ポートランド工場地域道路清掃活動

### 災害支援

エプソンは、世界各地で発生した洪水、台風などの自然災害に際して、会社・社員による義援金寄付や当社製品・生活用品などの物品寄贈、社員による現地ボランティア活動などにより、災害地域の復興支援を行いました。

2011年10月に発生したタイ洪水の復興を支援するために、当社とEpson Toyocom (Thailand) Ltd. (ETTH / タイ)は共同で、ETTH近郊の5つの小学校へ情報機器(パソコン、プロジェクターなど)、学習教材、机、椅子、飲料水などを寄贈しました。



寄贈品を前にした生徒、学校関係者とETTH社員

## ものづくり体験と実習生の受け入れ

### 「スーパー特待生プログラム」の実施

Epson Telford Ltd. (ETL / 英国) は、地元の大学やカレッジと協力し、学校を卒業した人を受け入れ3年間のトレーニングでエンジニアを育成する「実習生プログラム」を10年以上継続しています。

ETLのある英国中西部のテルフォード地区は英国国内の主要な工業地帯のため、慢性的にエンジニアが不足しており、特に高い技術を持った熟練工が不足しています。

そこでETLは「実習生プログラム」に加え、周辺地域では初の試みとなる、地域学校の学生に特化した「スーパー特待生プログラム」をスタートしました。2011年は、200人の応募者の中から面接を経て厳選された5名の若者を受け入れました。プログラムは、すべての職場の業務活動を、広く、深く体験させるものです。特待生はカレッジで学びながら週に4時間ETLでの実習を行います。そして大学に進学する際に実習経験を活かして進路を選択します。その後も大学卒業まで四半期ごとに2週間の実習を継続する、長期にわたる実習制度です。



2011 特待生 (前列右の2人と左の3人)

### 深セン日本人学校の生徒が職場体験

2012年1月、Epson Engineering (Shenzhen) Ltd. (ESL / 中国) とEpson Precision (Shenzhen) Ltd. (EPSL / 中国) は、3日間にわたり深セン日本人学校中学部の生徒を受け入れ、職場体験を実施しました。

職場体験の内容は、ミニプリンターおよび時計の組み立て体験や、消耗品倉庫、宿舍および工場などの建物設備の見学です。特に機械に興味を示す生徒もいて、組み立て教室での体験は大変実りある学習になりました。



ESLでのミニプリンター組み立て体験



EPSLでの時計組み立て体験

## 人的支援活動

### スーパーサイエンスハイスクール

2002年度、文部科学省は将来の科学技術を担う人材育成のため、全国から選抜された高等学校で産学共同の教育を行う「スーパーサイエンスハイスクール (SSH) プログラム」を開始しました。現在では全国でおよそ140校がSSHとして指定されています。

当社は、2002年より長野県諏訪清陵高等学校が参加するSSHプログラムに社員が講師として出向き、研究やものづくりの楽しさ、自分で深く考える習慣を持つ大切さを伝えています。



「コンピューターのしくみ」について講義を受ける生徒たち

### 県立こども病院で時計作り

当社は2012年2月、長野県立こども病院の院内学級で学ぶ子供たちを中心に、「世界に一つだけの時計を作ろう」と題した特別授業を行いました。

「自分で何かを作りたい」という子供たちからの要望を受けて行われた授業で、子供たちは事前に約半月かけて作成した文字板を使い、写真やイラストを活用した楽しく可愛らしい時計を作り上げました。家族の記念写真、大好きなキャラクターのイラスト、大人顔負けのデザイン画など、どれも個性あふれる作品でした。



院内学級での時計作り



できあがった個性あふれる作品

## コミュニケーション活動

積極的なコミュニケーション活動を通じて、信頼関係を深めています

### コミュニケーション活動の考え方

コミュニケーション活動は、お客様、株主・投資家、行政、地域、NGO / NPO、報道関係者、調達先、学生や社員など、さまざまなステークホルダーの皆様とエプソンを結ぶ重要な架け橋です。グローバルに事業展開するエプソンは、異文化間の相違と共通性に焦点をあて、世界の人々から信頼されるコミュニケーション活動を目指し、「グローバルコミュニケーションスタンダード」を1998年に制定しました。法規制の遵守はもとより、国際社会における倫理規範にのっとり、「開かれた会社」としてネガティブ情報を含むエプソンの取り組みを適時適切にお伝えするために、マスメディアを通じて、またステークホルダーの皆様と直接、コミュニケーションを行っています。

### お客様

「それいけ!写真隊」は、一日中楽しめるイベントやセミナーを開催したり、撮影や印刷に関する悩みの解決をお手伝いするフォトイベントです。隊員が日本各地を訪問し、たくさんのお客様と接することで、写真プリントの楽しさをお伝えしています。ささやかながら皆様のお役に立てることが、隊員の喜びです。2008年のスタート以来、8,400名を超えるお客様に参加していただきました。これからもお客様に喜んでいただける活動を続けていきます。



ご当地写真展示コーナー(京都)



みんなの写真教室講評会(鹿児島)

### 株主・投資家

エプソンは、資本市場において主要な投資家の一つである海外機関投資家の拡大に向けたIR活動の一環として、定期的に投資家の皆様とコミュニケーションを行っています。

2011年度も、社長をはじめとする経営陣が北米、英国、香港、シンガポールに拠点を置く機関投資家(延べ37社)を訪問し、成長戦略や業績推移などについての説明や質疑応答を通じて、エプソンへの理解や投資の促進に努めてきました。

これからも、「SE15後期 中期経営計画」の成果や進捗などの情報を発信し、海外・国内の機関投資家や個人投資家の皆様にとって一層有意義なコミュニケーションを展開していきます。

### 地域

当社および国内グループ会社は、事業所が立地する地域の皆様をお招きし意見交換会を実施しています。地域の皆様に当社の環境活動やリスク管理体制についてのご理解を深めていただくことで、友好的信頼関係の構築に努めています。2011年度は、国内の11事業所にて実施しました。



富士見/諏訪南事業所で合同開催した地域住民との意見交換会

Web **それいけ!写真隊**  
<http://www.epson.jp/soreike/>



## 調達先

エプソンは、お客様にお届けする商品の品質はもちろんのこと、サプライチェーン全体において、人権・労働・環境側面などが適切な水準にあることも商品・サービスに対する責任の一部と考えています。

日常業務や技術・品質に関する課題を対話やミーティングを通じて解決し、調達先と目標を共有することで、信頼構築に努めています。また、各事業本部や海外生産拠点で「調達方針説明会」を定期的に行い、事業計画や調達方針などの理解と実現への協力を要請しています。



調達先の皆様を対象とした「取引先説明会」

## 行政

2011年12月、Epson (China) Co., Ltd. (ECC / 中国)は中国環境保護部環境発展センターと、持続可能な消費の推進に関する戦略協力覚書を締結しました。覚書では、環境情報の共有、環境基準制定の推進、および政府グリーン購入の促進など、5つの内容について連携を図ることが約束されています。

ECC副社長は、「環境配慮型商品とサービスを社会に提供し、持続可能な消費の発展のためにさらに貢献していきたい。」と語りました。環境発展センターの担当者から、「環境保全の新しい道を探求するための試みであり、双方の協力は持続可能な消費の促進に役立つと信じています。」との言葉をいただきました。



戦略協力覚書調印式(中国)

## 報道関係者

エプソンは毎年、国内各事業所に世界各国・地域から報道関係者の皆様をお招きし、ビジネス戦略や各種活動の取り組みを紹介しています。

2011年12月、中国、香港、台湾、シンガポール、タイ、インドネシアから25名の記者を招待し、エプソンが掲げる環境ビジョンや、商品を通じた環境負荷低減活動への取り組みをお伝えしました。さらに、インクカートリッジ回収・リサイクル活動の現場も見学していただき、エプソンの環境活動について理解を深めていただきました。



環境活動を傾聴する記者の皆様(広丘事業所)

## 企業

エプソンは新たな価値の創出に向け、異業種企業との交流も積極的に行っています。

当社マイクロデバイス事業部の営業部門はエプソン販売(株)と協力し、2011年より大手企業2社との「異業種交流営業研修」プロジェクトを進めています。社会やお客様の課題解決に貢献する価値を創出する視点や方法について、企業組織の枠を超えた交流・相互啓発を通じて学び、事業活動の質的向上を目指しています。

推進者であるデバイス管理部の川崎勝之は、「これからの人材には、従来の枠組みにとらわれない、より高い視座・広い視野・多くの視点が求められる。研修で異なる企業文化に接し、創発し合いながら、仲間とともに望ましい行動変容につなげたい。」と語っています。



デバイス管理部 川崎 勝之



日野事業所で開催した「異業種交流営業研修」

## 学生

### 職場体験学習

当社のものづくり塾は、周辺地域の小中学生や高校生を対象にしたものづくり基礎研修などで、積極的にコミュニケーション活動を行っています。

職場体験学習でプリンターの分解組立に参加した中学生は、「プリンターの分解組立は初めての体験で難しかったけれど楽しかった。」「プリンターを設計する時にいろいろ工夫をされていることがわかった。自分も将来は技術者になって良いものを作りたい。」「一日中立ち作業だったので疲れた。お父さんやお母さんの苦勞がわかった。」などと感想を話してくれました。



中学生のプリンター分解組立体験

## エプソンに関心を寄せていただいている皆様

### ものづくり歴史館

当歴史館には、創業以来エプソンが開発・製造・販売を行ってきた代表的な重要商品、歴史関連資料が展示されています。毎月大勢の来館者を迎え、2011年6月には当社の株主総会終了後、多くの株主の皆様が見学に訪れました。また7月には中部圏知事会の皆様が見学され、「貴重なものを見ることができました。」との感想が寄せられました。

2004年5月の開館以来、13,200名を超えるお客様にご来場いただいています。見学されたお客様にエプソンファンになっていただけるよう、これからも見やすく、理解しやすく、関心を持ち、「また来よう」と思ってもらえるものづくり歴史館を目指していきます。



株主の皆様による「ものづくり歴史館」の見学

### 芸術分野

エプソンは、世界各国・地域の写真家やユーザーの創作活動を支援するため、さまざまなデジタルイメージングコンテストを開催しています。

Epson Australia Pty. Ltd. (EAL/オーストラリア) は、2011年に2回目となる「The Epson International Pano Awards」(国際パノラマ写真コンテスト)を開催し、世界62の国と地域、1,000人近くの応募者から、合計3,500点以上もの作品が集まりました。



「The Epson International Pano Awards」(国際パノラマ写真コンテスト)

Epson Europe B.V. (EEB/オランダ) は、「The Epson Red Sea」(国際水中写真コンテスト)を毎年11月にイスラエルで開催しています。



「The Epson Red Sea」(国際水中写真コンテスト)

またEEBは、2011年8月から10月にかけて欧州全土の写真愛好家を対象とした「Be the Manchester United Photographer」と銘打ったサッカー写真コンテストを実施しました。優勝者にはマンチェスター・ユナイテッドのレギュラー選手との交流、チームのプロカメラマンからスポーツ写真の撮影レッスンを受ける機会が与えられました。

アジアでは、インド、インドネシア、台湾、フィリピンで2011年度に開催されたコンテストの上位入賞作品を一堂に集めた展示会「カラーイメージングエキシビジョン2011」を開催しました。各国・地域のコンテストでは、Facebookを活用したオンラインでの作品募集や共通テーマを設けるなど新たな試みを実施され、創意工夫を凝らしたオリジナリティーあふれる作品がそろいました。



「カラーイメージングエキシビジョン2011」

## 社員

### 中国地域環境大会

Epson (China) Co., Ltd. (ECC / 中国)は、中国国内の環境情報の共有と組織間の協働を図るため、2011年9月に「中国地域環境大会」を開催しました。

中国国内の関係会社(9社)の環境責任者が参加し、「SE15 中期環境活動方針」を読み解くとともに、環境規制の動向、特に中国第12次5カ年計画の環境保護について学びました。また、各社が独自に展開する省エネ、節水などの活動事例の紹介と、環境情報共有のためのプラットフォーム構築について意見交換を行いました。

Epson Engineering (Shenzhen) Ltd. (ESL / 中国)の任景君部長は、「この大会を通じ、中国で環境情報共有のためのプラットフォームを構築し、各社共通の推進テーマを決めることができました。これは、中国地域の活動レベル向上に大変重要な役割を果たします。」と感想を語りました。



ESL 任景君



ECC本社で開催した「中国地域環境大会」

### EEBのコミュニケーション活動

Epson Europe B.V. (EEB / オランダ)では、他部門の職務内容の理解促進と部門間のコミュニケーション強化を目的として、2012年2月よりイントラネット上に部門インタビュー記事を掲載しています。インタビューは、部門のゴール、職務内容、プライベートの過ごし方などで構成され、毎月第3週に掲載されます。

EEBの管轄範囲は、欧州、ロシア、中近東、そしてアフリカの約130カ国にわたり、そこに働く約2,300人の国籍や価値観もさまざま、組織構造も複雑です。このインタビュー記事により、部門間、さらには社員間のより良いコミュニケーションと連携を促し、総合力を発揮してお客様価値の創造に努めていきます。

## 労働組合

会社と社員のコミュニケーションの機会として、労使協議会や労使懇談会を月に1回程度実施しています。より多くの社員と情報を共有できるよう、各事業や職場単位でも懇談会を開催しており、経営の考えや思いを社員に伝える場として、社員は経営に対する思いや声を直接伝える場として活用しています。また、安全衛生委員会や働き方労使委員会など各種委員会を開催する中で、労使の相互理解を深めています。

### 「つなぐ人フォーラム」への協賛・参加

当社は、2012年2月、持続可能な社会づくりに向け、個々の活動や人を「つなぐ」ことが課題解決への道筋を示すものだという考えから企画された「つなぐ人フォーラム」に協賛、参加しました。このフォーラムには、各種博物館解説員や大学関係者、NPO、プランナー、企業のCSR担当者など約90名が参加し、参加者が主体的にプレゼンテーションやワークショップを行う形で進められました。当社も「企業らしい社会貢献活動とは」というテーマで参加者との対話を試みました。

当社の社会貢献担当牧田優理は、「企業の社会貢献活動には社会とのコミュニケーションが不可欠です。

さまざまな領域で活動する人々との対話を通じて初めてわかったことが多く、これからの活動に活かしていきたいです。」と語りました。



総務部 牧田 優理



コミュニケーションを図る参加者

## 世界からの評価

2011年度のエプソンの取り組みに対し、世界からいただいた代表的な表彰・評価について紹介します。

2012年5月末現在

● 商品・サービスに関する表彰	主催組織	対象	受賞年月
TIPA Award 2011「Best Expert Photo Printer」賞、「Best Large Format Printer」賞、「Best Photo Scanner」賞	TIPA (欧州主要カメラ、ビデオ専門誌29誌で構成される団体)	「Epson Stylus Photo R3000」、「Epson Stylus Pro4900」、「Epson Perfection V330 Photo」	2011年 4月
2011年版アフターサービス満足度ランキングパソコン部門第1位 (詳細P.26参照)	日経ビジネス	エプソンダイレクト(株)	2011年 7月
第5回キッズデザイン賞(フューチャープロダクツ部門)	特定非営利活動法人キッズデザイン協議会	電子黒板ユニット「ELPIU02」	2011年 7月
EISA Awards「Best Product 2011-2012」	EISA (欧州主要カメラ・映像・オーディオ関連専門誌50誌で構成される団体)	「Epson Stylus Photo R3000」	2011年 8月
第10回中国国際設備製造業博覧会(自動化及び制御装置部門)「銀賞」(詳細P.15参照)	商務部、工業情報化部、国家発展改革委員会、中国国際貿易促進委員会など(中国)	Epson (China) Co., Ltd.	2011年 9月
2011年度グッドデザイン賞	公益財団法人日本デザイン振興会	「PX-673F」、「EP-904A」など計5点	2011年10月
iF Product Design Award 2012	インダストリー・フォーラム・デザイン・ハノーバー(ドイツ)	「TM-L500Aシリーズ」など計6点	2012年 3月
● 環境に関する表彰			
鵬城減廃先進企業賞	深セン市鵬城減廃行動指導委員会(中国)	Epson Engineering (Shenzhen) Ltd.	2011年 6月
WRAP (Waste Reduction Awards Program) 賞(詳細P.40参照)	カリフォルニア州統合廃棄物管理委員会(米国)	Epson America, Inc. の倉庫	2011年12月
Don Emilio Abelloエネルギー効率賞	エネルギー省(フィリピン)	Philippines Epson Optical Inc.	2011年12月
2011年香港環境優秀賞「銅賞」(詳細P.43参照)	香港環境キャンペーン委員会(香港)	Epson Hong Kong Ltd.	2012年 5月
● 社員に関する表彰			
職場安全及び衛生管理システム(SMK3)「金旗賞」	労働・移住省(インドネシア)	PT.Epson Batam	2011年 5月
日本赤十字社金色有功章	日本赤十字社	東北エプソン(株)	2011年 7月
Thailand 5S Award 2011「Diamond賞」(詳細P.51参照)	泰日経済技術振興協会(タイ)	Epson Toyocom (Thailand) Ltd.	2012年 2月
● 知的財産に関する表彰			
平成23年度全国発明表彰「発明賞」	公益社団法人発明協会	縁なし印刷可能なインクジェットプリンターの発明(特許第3700677号)	2011年 6月
平成23年度関東地方発明表彰「長野県知事賞」	公益社団法人発明協会	写真画像の自動補正技術による高画質化(特許第3458855号)	2011年11月
Top 100 Global Innovator Award	トムソン・ロイター社(米国)	セイコーエプソン(株)	2011年11月
● CSR全般に関する表彰			
2010 GoldenBee(金のミツバチ) CSR中国ランキング「生態文明賞」	WTO経済導刊(中国)	Epson Toyocom (Wuxi) Co.,Ltd.	2011年 6月
企業公民賞	天下雑誌(台湾)	Epson Taiwan Technology & Trading Ltd.	2011年 8月
2011年度中国最優秀企業公民大賞	21世紀メディア集団(中国)	Epson (China) Co., Ltd.	2011年12月
グローバル企業地域本部貢献賞	北京市商務委員会(中国)	Epson (China) Co., Ltd.	2012年 1月

## SRIインデックスへの組み入れ状況

エプソンは、これらのSRI(社会的責任投資)指標に組み入れられています。




2012年5月

Web FTSE4GoodGlobal Index  
<http://www.ftse.com/ftse4good/index.jsp>

## 読者の声

エプソングループ「サステナビリティレポート2012」をお読みいただき、ありがとうございました。

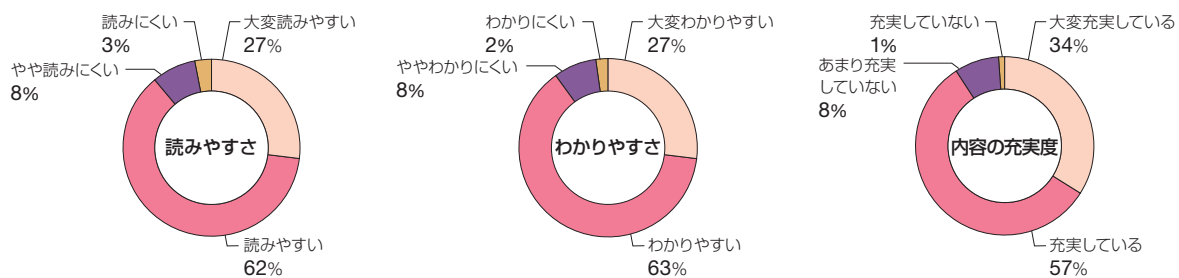
エプソンは、サステナビリティレポートをステークホルダーの皆様との重要なコミュニケーション手段と考えています。お寄せいただいたご意見やご感想は、今後のレポート制作やCSR活動に活かしていきたいと考えています。アンケートにつきましては、下記URLからご回答いただけますので、ご協力をお願いいたします。

 「サステナビリティレポート2012」へのアンケート  
<https://cform.epson.jp/form5/pub/e044/sustainability>

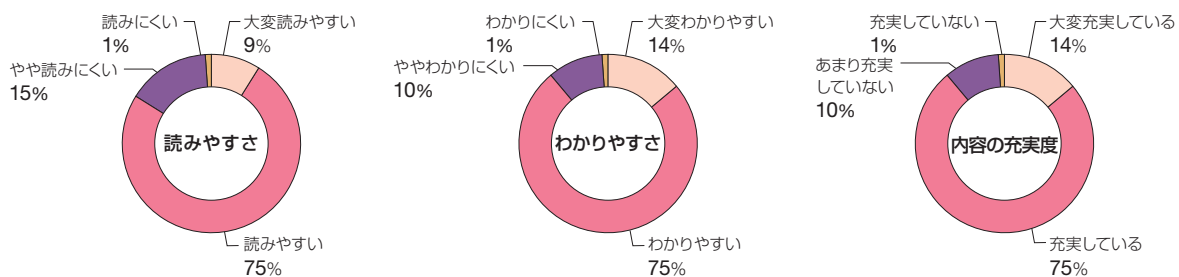
## 読者の声をお聞きしています

「サステナビリティレポート2011」につきまして、アンケートのご回答ありがとうございました。ご協力いただいた方々に改めてお礼を申し上げます。社内外併せて713件の回答をいただきましたので、その集計結果をご報告いたします。

### ● 一般読者



### ● 社員



## 主なご意見、ご感想

- プリンター以外の事業や商品の取り組みも紹介してほしい。
- お客様の声の紹介が少ないと感じた。
- ページ数を減らし、記述をもっと簡潔にしてほしい。
- 写真や図などで解説を加え、もっと読みやすくしてほしい。
- 水に対する取り組みの紹介は、大変好感が持てた。
- 全体的に、優しく穏やかな色使いで読みやすかった。

## 「サステナビリティレポート2012」で主な改善項目

- 特集や本文において、さまざまな事業や商品に関する取り組みを掲載し、ご使用いただいているお客様の声のできるだけ多くご紹介するように心掛けました。
- 写真や図を多用し、詳細な情報はWebページに掲載することで、読みやすさやボリューム感の軽減に努めました。
- 「水使用量の年度推移」のデータを新たに掲載しました。

 日本語版HP  
<http://www.epson.jp/SR/>

 英語版HP  
<http://global.epson.com/SR/>

 中国語版HP  
<http://www.epson.com.cn/aboutepson/report.html>

## Better Products for a Better Future

環境配慮への強い意志で、未来を切り拓くことができる。そう考えるエプソンは、信頼性が高く、リサイクル可能で、エネルギー効率のよい革新的なモノづくりにつねに挑戦しています。これからも省エネ・省資源・省スペースなど、省の技術を活かした製品をおとして、環境のため、そして未来のために貢献していきます。

## セイコーエプソン株式会社

〒392-8502 長野県諏訪市大和3-3-5

Tel: 0266-52-3131 (代表)

<http://www.epson.jp>